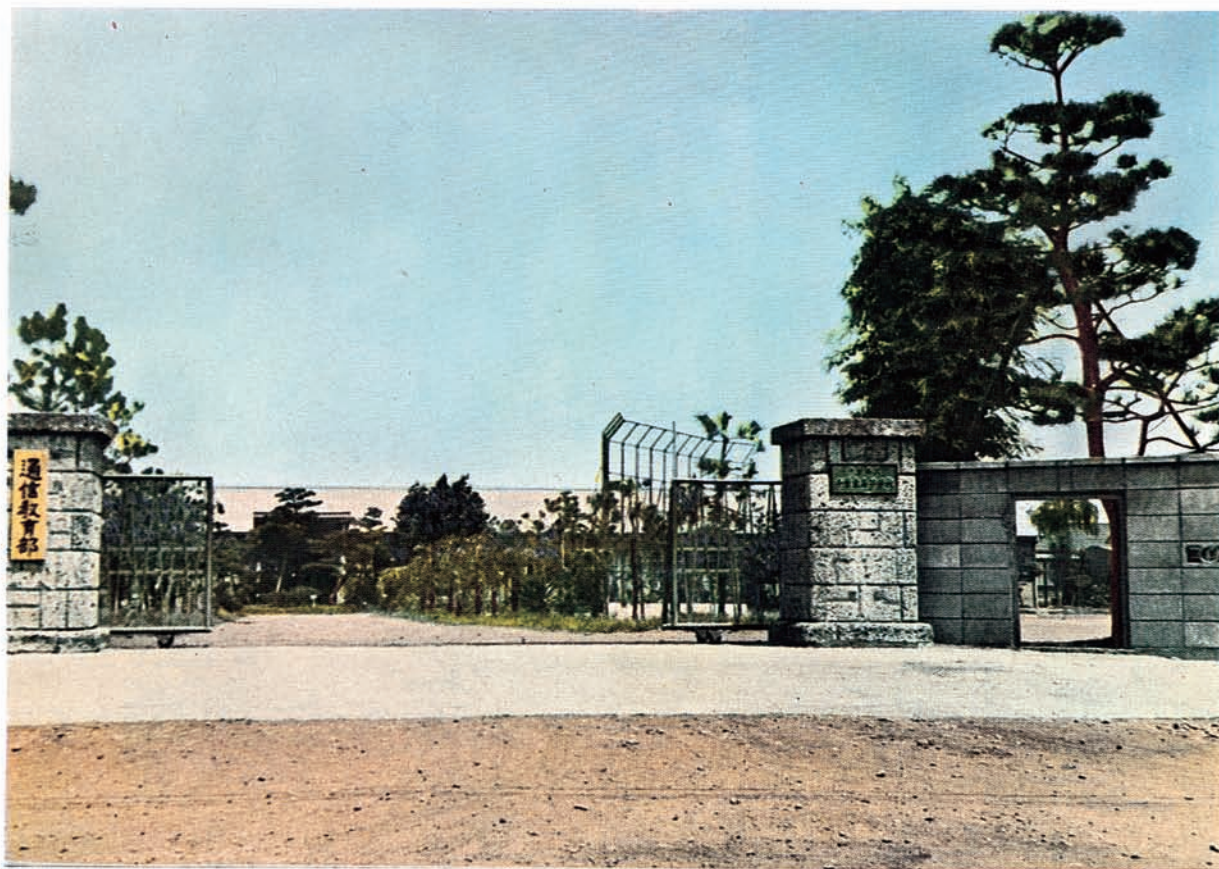


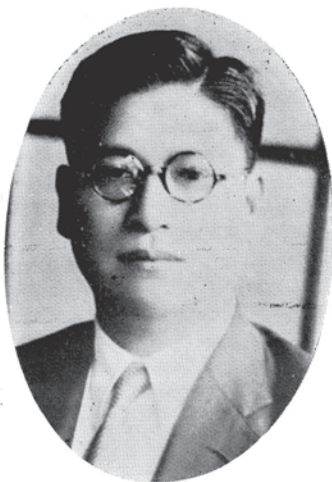
千葉東高校 20 周年記念誌



正門

東高校のあけぼの
(左端は体育館)





初代校長
滝熊之助先生



2代校長
楠原信一先生



現校長
石毛貞雄先生

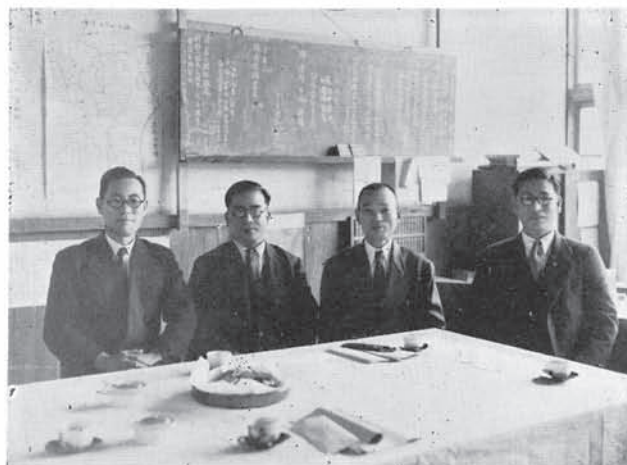


3代校長
親泊朝晋先生



4代校長
諸川芳雄先生

歴代校長
(昭26秋, 校)
(長室において)



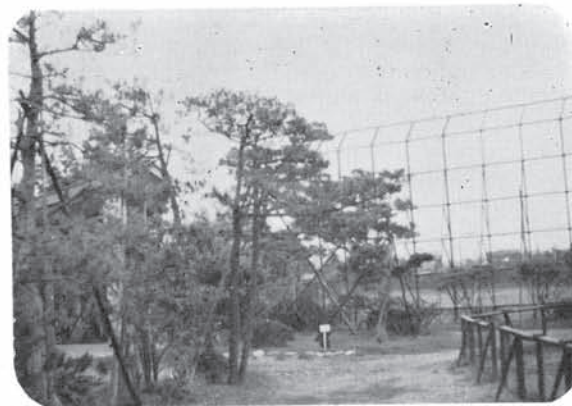
創立記念
(昭. 16. 5.15)



現職員



A



B



C



D



E



F



G



H



I



J

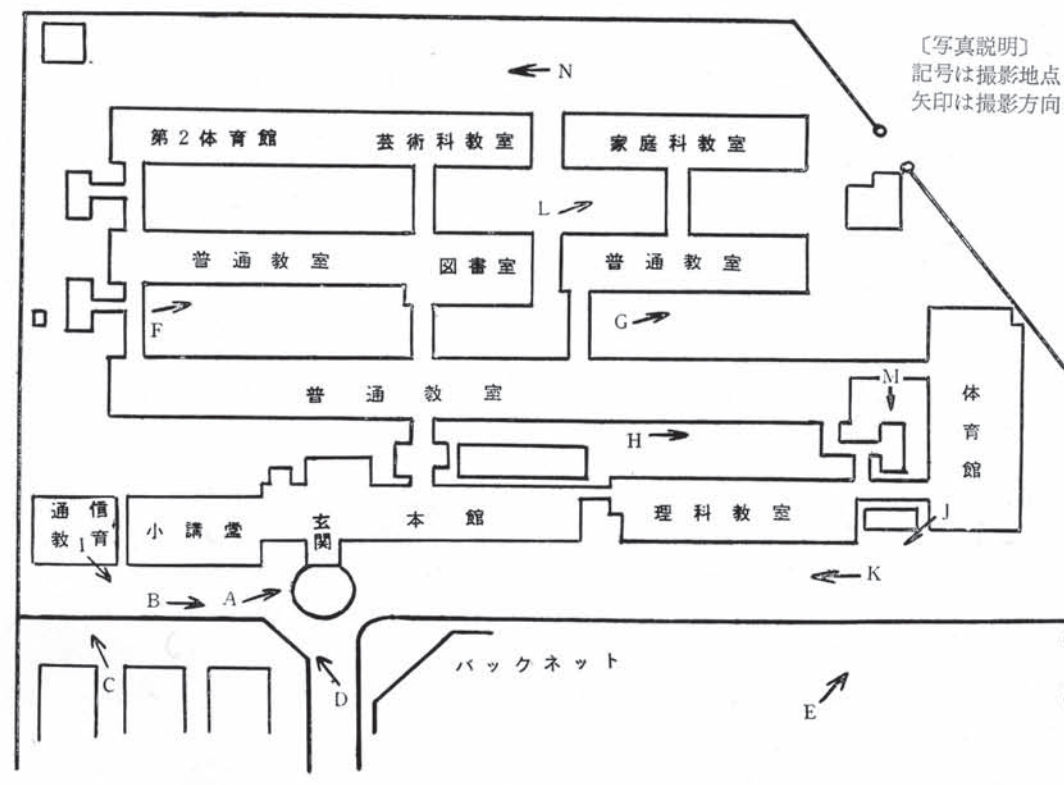


K



L

校舎平面図





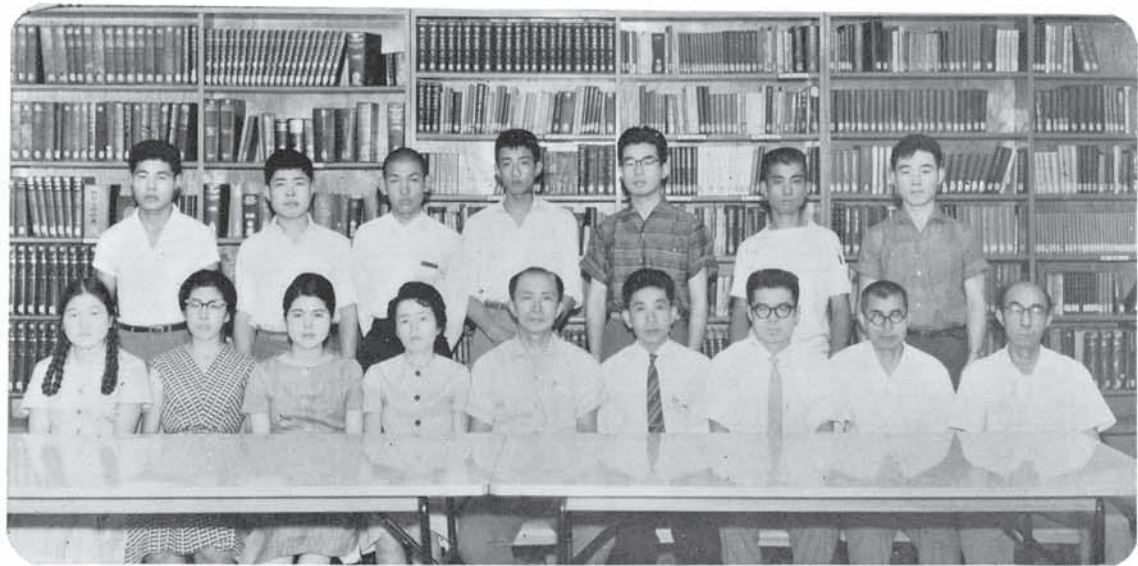
M



P T A 役 員



N



同 窓 会 役 員、同 顧 問

校 歌

作詞 沢田 繁 三
作曲 沢田 繁 三

moderato 心をこめて

(一) シャ ロンの は なー と た た へ た ー る を
(二) ア ルプ の や まー の た こ し きー る を

ふ る き つ た へー の た に す の り の き つ よ き ほ
ふ み や ぶ り たー る ま に す の り の き つ よ き ほ

こ り を う つ し て ゑ て ま な び の そ の ー に つ は
こ り を う つ し て ゑ て ま な び の そ の ー に つ は

ち か ひ ぬ ふ か き ま な び の か つ ま な くれ
ぐ く み ぬ は け し き な わ ざ を か つ ま な くれ

は ば い ま し を み な ー ら を と め さ び せ
は ば い ま し を み の こ ー ら を と め こ さ び せ

ー じ ー じ ー ー

1. シャ ロンの 花 と た た へ た る
古 き つ た へ の 谷 の 百 合
清 き ほ こ り を 移 し 植 え
学 び の 園 に つ ち か ひ ぬ
深 き ま な び の か て な く ば
い ま し 汝 を み な ご を と め さ び せ じ
2. ア ルプ の 山 の こ ご し き を
ふ み や ぶ り た る ま す ら を の
強 き こ こ り を 打 ち 樹 て て
学 び の 庭 に は ぐ く み ぬ
は げ し き わ ざ を つ ま ざ れ ば
い ま し 汝 を の こ ら を と こ さ び せ じ

(註) シャ ロンの 花—純 潔 の 象 徴

(旧 約 聖 書 か ら)

記念の言葉

20才の若さと向上と

学校長 石 毛 貞 雄

昭和20年4月、千葉市立高等女学校として発足した本校は、戦前戦中戦後の激動期を生き抜いて、今日の県立千葉東高等学校にまで成長し、本年の秋、成人式ともいべき創立20周年記念式を挙げる事になったのであります。

20年といえば、他校に比して、まことに若く新しいのであるが、その間沿革史にも明らかな通り、極めて変転苦難の多い経過をたどっているのです。即ち市立の女学校から県立の男女共学校となり、校舎も港町、葛城町、轟町と三転し、校名も市立高女、女子高校、第三高校、千葉東高校と4度も変り、今日漸くその基礎が安定し、県下唯一の通信教育課程も併置されて、全日制21学級、1,050名、通信制10組、1,325名、教職員数66名の大規模な学校に生々発展したのであります。

この度、この20周年を機会に、本校の過去・現在・未来を展望し、特に創設と発展のことに尽力された方々の烈々たる建学の精神や、整地作業にスコップをふるった学校造りの御労苦をしのんで、本校今後の振興充実に図るということは、まことに意義深いことであります。

時恰も、千葉市は、100万都市の構想の下に着々と建設の巨歩を進めているのであります。この県都大千葉市の中心にある本校としては、その存在理由と使命の重大さを再確認し、形式内容兼備の理想的学園創造の意欲を、ますます旺盛にしなければならないと思うのであります。

形式の整備については、県の開発計画の進行に伴い、県財政も好転しつつあるので、県都の高校にふさわしい施設・設備の完備を目標に、その準備を開始したのであります。

教育内容の充実深化については、最も恵まれた職員組織と、PTAや同窓会の方々の協議と協力をいただいて、この20周年記念事業を貫く重点事項として、その実現に、直ちに努力いたすことにしたのであります。職員会議においては、その具体策として、ホーム・ルーム運営の研究、学年集会の新設、男女共学の長所發揮、教育課程の改善等を取りあげて、熱心に研究と実践を続けているのであります。そして人間形成と学力充実、進学就職成績の向上は、同時に両立せしめ得るものであることを確信し、その実証をすべく精進しているのであります。生徒諸君も、これに呼応し、20周年記念行事参加の光栄と意義とを自覚し、よき校風、よき伝統の創造に、日々努力を続けていることは喜びに堪えないところであります。

私は、職員生徒が、学校の向上、各自の向上を求めて、努力精進するいとなみそのものが、20周年を記念する最高の仕事であり、又本校の創立者、歴代の校長、先輩有志等の最も待望するところであると推察するものであります。

実に校歌にもありますように、

向上を求めて、無限に努力する若さ、明日をになう力の培養に、をとめさび、をとこさびしつつ、日々切れ目なき精進研修を持続する若さ、この20才の若さを、ますます共励切磋して、本校の立派な実績を築きあげ、県都大千葉市の中心校として、その社会的信頼を、より一層高めて行きたいと念願するものであります。

終りに本校職員生徒の努力目標である、自律節制、研究創造、親切奉仕の3つを再確認し、実行体现の生活を展開し、若さの充実と向上を目指して努力して行くことをお誓いして、記念の言葉といたします。

(8月1日)

お祝いの言葉

創立20周年を祝して

千葉県教育長 山下 重 輔

千葉県立千葉東高等学校が創立20周年を迎え、今秋を期してその記念式典が挙行されますことは、まことに意義深く、心から慶祝の意を表したいと存じます。

本校は昭和16年2月千葉市港町に創立され、新しい女子教育の殿堂たるの意義を発揮しつつめざましい進展を見せましたが、時あたかも太平洋戦争に際会し、20年7月不幸にも戦災を蒙り、大きな試煉を受けたのでありますが、学校関係者の不屈の闘志は、このために一層強められ、23年4月には現在の轟町に移って高等学校に昇格するとともに着々前進の実をあげ、25年4月待望の県立移管を遂げて、その名も千葉第三高等学校と改められ男女共学を実施し、逐年規模を大にしつつ1,000名を越える生徒を収容して、教育内容の充実と相俟って、名実ともに県下高校中屈指の名門たるの榮譽をになうにいたりしました。さらに、29年4月通信教育の実施校となり、勤労青少年教育のため広く門戸を開いたことも特筆すべきであります。本年4月校名が千葉東高等学校と改められ、新しい意気をもって躍進しようとする本校の姿はまことにたのもしいかぎりであります。

20周年を迎える本校の歴史は、かくのごとく輝かしいものでありますが、この歴史を築くための不断的努力を捧げられた学校関係者に対し、深甚なる敬謝の意を表したいと存じますが、ようやく成年期に達した本校は、いわば基礎工事を終了したのでありまして、本校教育の真の発展は、むしろ今後にかかっていると申すことができます。時代の推進力たる教育は、高き理想をめざすとともに、深く現実根ざすものでなければなりません。しかも、教育の最終目標は人間形成であり、高校教育は日本の中堅人物を育成して健全な社会をつくりあげようとするものであります。わが千葉東高校は心身ともに健康な積極的人物の養成をその教育方針としてきわめて純正な校風のもとに進取的な教育活動を展開し、幾多の人材を世におくっていますが、20周年を契機として時代の進運に即応し学力の向上に青少年健全育成に、大いなる成果をおさめるよう祈念してやみません。

創立20周年にあたり、所懐の一端をのべてお祝いのことばといたします。

創立20周年に寄せて

千葉県知事 柴 田 等

このたび、創立20周年を迎えられたことを心からおよこび申し上げます。

昭和16年、千葉市立千葉高等女学校として発足以来、戦中戦後の多難な時代にもかかわらず、千葉市立女子高等学校、千葉県立千葉第三高等学校の時期を経て、現在の千葉東高等学校へと躍進を続けてきた歴代の校長・職員・父兄ならびに卒業生・在校生の諸君に敬意を表する次第であります。おそらく発足以来の歴史は平和時代の数十年にも匹敵する苦難の道であったと思われるからであります。

しかし、20年という歳月はちょうど成年の年令に達したと言うことも出来るであります。人間にたとえるならば、基礎的な心身の形成を終えて、自覚した自己を錬磨してゆく時期であります。苦難の中にその幼少年期を過ごした東高校が、立派な個性のある学校として成長してゆくことは、これからの青年期の努力にかかっているのではないのでしょうか。すぐれた人物が青年時代の切磋琢磨によるように、すぐれた伝統も皆さんの積極的な意欲と、孜孜としてたゆまぬ研鑽によって築き上げられてゆくのであります。

時あたかも京葉工業地帯の発展の時期に当っており、本県も農漁業的な性格に加えて、近代的な工業県としての一大飛躍を期しているところであります。おそらく本県の優秀な人材が、京葉工業地帯の推進力として活躍する時代も遠からずやってくるものと思われまします。この意味でも私達が若い世代に対する期待がいかに大きいかということを考えていただきたいのであります。この時期にあたり、県都千葉市の東高校が創立20周年を迎え、若々しい力を結集して、千葉県の発展とともにあらたなる躍進の時期に入られるということは誠によろこびにたえません。今後の発展をお祈りしてお祝いの言葉とする次第であります。

記念日に寄せる

千葉市長 宮 内 三 郎

千葉東高等学校は、市立高等女学校から県立第三高等学校と校名が三転している。市立の女学校として創設されたころは自由主義も男女共学も考えられない、つまり新憲法下の現在とはだいぶんへだたりがあったわけで、女子の教養を高めようというのが、もっぱらの趣旨のようであった。

初代校長は滝熊之助氏で、たいへん手腕をふるわれ、校風おおいに上ったものだ

が、学制があらたまって、高校は県立、小・中学校は市立ということになって、ようやく基礎を成した本校も県立移管となった。

市立校としての創立にあたっては、助役であった私もいささか力をこめてその任にたずさわったので、今なお松波町にある商業高校といっしょに生みの親の愛着を感じている。

家には家風、会社には社風、そして学校には校風が長い歴史の中に、先生や生徒や父兄達の積み重ねによってあるものであるが、校名は時々制度や指導者の考え方で変ったにしても、東高校には他の学校には見られない立派な校風があるはずである。

本校の通信教育は、なかなか出色である。家事のつごうで高校まではいけない、志のある若人にとってはまさに福音であるにちがいない。在校生のために力を合やすことはいうまでもないことであろうが、こうした勉強に余念のないものへの力添えは、ほんとうにうれしい人間性をも感じられてならない。先生方の苦勞はともなうことであろうが、こんごと精進をされて育英の実をあげられるよう望んでやみません。

男女共学のことも、いうべくしてなかなか実績の見られないものがあるようだが、東高校はおおむね男女半々を共にしつづけていることは、これまた一つの校風ともいおうか、それも市立高女の伝統の表われか、ほほえましくおもわれる。

回 顧

尾 形 猛 男

今見る本校の偉容、それは昭和16年4月滝熊之助氏を初代の校長に迎えて、千葉市港町に呱呱の声をあげた千葉市立高等女学校の生成発展した姿である。

この偉容に接していると創立当時の様相がいろいろと浮かんでくる。或は狭隘だった校地校舎が、或は創立者顔していただいた大それた妄想が走馬燈のように脳裏を去来する。

去来するそのいくつかは、やがて20年来努力された諸先生の御蹟をしのぶ資ともなろうかと一二を拾って見ることにした。

本校発祥の地港町の校地校舎は形容甚だ貧弱なものではあったが幸先のよい歴史があった。さきには千葉市立商業学校として、次で市立工業学校の校地校舎として。そして移県移管後の両校が県下実業教育の双壁である現実を見ていた私達としては、ここに創立する高等女学校の前途を物語るかのようにも思えて、何か胸のふくらむ思いを禁じ得ないのであった。創立当初にケチをつけられては、何かしら努

力にブレーキがかかる。拍車をかけうるだけでもありがたいことだった。

もう一つ。初代校長としての滝氏には勿論、驥尾の私にも女子教育についての理想があった。しかもこの理念理想を私することなく広く女子教育の理念たらしめんとの恣意があった。

ともすれば良妻賢母を金科玉条とし、男子の侶伴を育成して足れりとする当時の女子教育の実際、乃至折角の5年制も家事中心の補習教育に満足している姑息をこの校の実践によって批判せんとし、敢えて4年制を採り、更に3年制の専門学校を附設して女子教育の本旨を宣揚し、時代乃至人生の要請に応え得る女性の教育を考えたのであった。

が、時、非であった。事変につぐ事変、戦争につぐ戦争、そして吾等の恣意は文字通り恣意としてほうむられたのであった。でも戦後の学制改革は諸兄の努力を入れて今見る偉容を結果した。ありがたいことだ。(創立当時千葉市学務課長、現在みどり幼稚園長)

20周年に当って

PTA会長 小 笹 精 一

千葉東高等学校の20年間はまことに変化にとんだ歴史だともいわれよう。開校して間もなく生徒諸君は軍需工場に動員され、校舎も焼失のため幾度か移転し、千葉市立の女学校として生れたものが、現在は県立の男女共学の高等学校と変遷したなど他には余り例がないであろう。

従って先生方もいつも不便至極御苦勞の連続であったろう。生徒諸君も満足な状態で勉強が出来得なかったであろう。しかし20年の歴史を作ったのが千葉東高校は今や内容外観ともに決して他校に遜色のない立派な高等学校に成長したのである。

千葉東高校の今日の隆昌のものは創立当時の今は亡き滝校長から現在の石毛校長に至る、楠原校長、親泊校長、諸川校長を中心とする多数の教職員方の教育に対する情熱のたぎりがこれを為し遂げたのであって、この記念すべきときに当って大いに感謝を申し上げる次第である。

思うに千葉東高校はこれから将来に伸びる学校である。卒業生もまだ30才前後の働き盛りである。これ等の皆さんが今後30年記念、50年記念を迎える頃になると、きっと社会の各界でそれぞれ第一級の人材となることであろう。それと共に更に学校も亦一大風格を持ち輝かしい立派な歴史にページを増すことであろう。

私共PTAも今日のよろこびを大いに祝うと共に、更に心を新たに、学校発展のための努力を重ねることを誓う次第である。

20 周年を 迎 え て

同窓会会長 永 江 栄

母校が創立 20 周年を迎えたという事は、私達が市立千葉高女へ入学してから早や 20 年と一口に云ってもどうにもびんとこない。そこで自分の年を考えると今更のようにもう中年への仲間入りをしている自分に改めて驚く。

日本にとっても未曾有の変動期にあって、母校も校舎の分散・借教室・戦時中の学徒動員から、学校工場、そして現在の広大な敷地へ移り、県立移管（卒業生から署名を集め、市長のもとへ陳情に行った）、再度の校名変更、でもその度に母校はすばらしい発展を伴っていた。だが私達は思い出の校舎と云うものを持たない。それは非常にさびしい事であるが、発展を続ける学校で学んだ者にとっては、古い教室は取り払い、どんどん新しい近代的な校舎に変わってゆくのだから止むを得ない事であろう。それより私達が教えを受けた先生方がその当時と少しも変りなく御元気で母校の為に御活躍なされている事は、本当に有難く嬉しい事である。

おなじみの薄い校舎でも、そのような先生方にお目にかかるると何かしらホッとする。そして云う。「先生方の前では、いくら気取ってみたところでもとが分っているのだから仕方がありませんわ」と。恩師は笑っている。何の相談でも乗って下さる。有難いものだ。

10 周年記念式典の時は、初代校長の滝先生が、静岡からわざわざいらして下さった。そして「みんないい娘になったな」としみじみおっしゃった。私には「お前は体が弱かったが此の頃は丈夫になったか」と聞かれた。大勢いる生徒の中で、よく 1 人 1 人覚えていて下さったものだと思いが頭が下った。お祝酒を上って少し足許のふらつく先生を私達は両方からかかえてお手洗い迄お連れした。参列していたどこかの方が「滝先生、お幸せですね」と叫んだ。幸せなのは私達であった。でもその滝先生が 20 周年を待たずに昨年亡くなられた事は、この式典には是が非でも一番参列して頂きたかった方だけに、残念でならない。立派になった母校を見、又あれから 10 年経った私達を見て先生は、今度は何とおっしゃったであろうかと。

(昭和 21 年・高女 2 回卒)

感 想

大 木 静

躍進目ざましい千葉東高等学校が創立 20 周年を迎え、自他共に許す優秀校に成長いたしましたことはまことに御同慶に堪えません。

20 年にして、こんなにも立派に成長し、古い伝統を誇る著名な学校と肩を並べることのできた学校は、県下にも数少ないことと思います。これも、ひとえに歴代校長先生の献身的なご努力と、一身体のように積極的なご協力をせられた諸先生方の適切なご指導、並びに PTA の強力な活動によるものと堅く信じて疑いません。

顧みますと、市立高女として発足した当時の港町のあの雨もりに悩んだ校舎、現在葛城中に一部残るバラック建ての校舎、轟町に移って県立に移管、校舎の建築、中でも県立移管を境としての前後数年間、PTA が最も情熱を傾け、学校当局と共にその推進に当たったのは、実に校舎建設のことでした。県市をはじめ関係方面との折衝や連絡で、寒い冬の日も炎天の夏の日もただ夢中で行動したものでございます。

じいっと目を閉じますと、まるで走馬燈のように次から次へとあの頃のことが出てまいります。いやであったこと、苦しかったことも、今ではみな懐かしい思い出でございます。

婦人会や、又、たまたまお逢いした人達から、東高校の進学や就職のことについて良い評判を聞いた時など、私は自分の事の様に嬉しくなってしまうのでございます。4 人の子供をそれぞれ卒業させて頂き、特に学校に縁の深い私には校庭の一塊の土にも何かしら愛着を感じるのでございます。

校名が東高校とかわりましたことは、「光は東方より」の詞をそのままに、限らない発展の栄光をもたらすこととございましょう。終りに私もとより微力ではございますが、今後も何かのお役にたちましたら幸いと存じます。

古くさくしてお目障りかと存じますが手すさを 1 首

まなびやの名も東とあらたまり朝日かがやく庭のすみまで

(元 PTA 副会長)



葛城台の農作業(右校舎、医大がみえる)

思　　い　　出

回　　　　　　想

楠　原　信　一

終戦の詔書を拝した直後と記憶する。千葉市立高等女学校に転任しないかとの勧めを受けた。

「君の郷里の学校を復旧すると同時に自宅の整理をしたらどうか。」

との事、予ねて市立高女は姑が多くて容易でない旨聞いていたので余り進まなかったが、皆様の御好意に任せる事になった。

新設途上にある学校の都川辺にあった古校舎が焼けたのだから大変で、現在の葛城中に残っている4教室と校門の入口にある高橋さんという方が経営したアパート改造の5教室、その隣の農具小屋を利用した2教室あるのみであった。生徒の大半は戦災を受け、住むに家なく着るに衣なく食うに糧なしという状況で、学校への出席は容易なものでなかった。はじめは学校は一日おきとし、次には午前組・午後組と分けて授業をする始末であった。幸い千葉中（現千葉高校）が戦災を受けなかったもので、坂斎校長の御好意で校舎の一部を借用して2部教授を解消したが、それも東の間同校が火災に遭ったので返済しなければならなく、収納舎（農産物取入れ小屋）を造る予算2万ばかりをもって、鈴木建設の御骨折で丸太組で古トタンを打付けた小舎造りを仕切って2教室を作ることが出来て大喜びをした。運動場は全部開墾して小麦甘藷野菜物を作った。収穫ともなればこれを生徒の数に分けて配布し生徒の食生活の足しにした。なお野菜の不足を補うため自動車をやとって横芝あたりに買出しに出て、実費を以て生徒に分けて新聞でたたかれた事もあった。先生方はこの困苦に堪えて登校して来る生徒の指導と共に家庭生活にまで立入ってよく世話をして下さった。赴任後半年ばかりして一切を統轄して下さる市原教頭（現佐倉高校長）の栄転には閉口した。幸いに親泊先生（前の県教育次長）が台湾から引揚げて来られて後を引受けて下さったのは嬉しかった。

この混乱の中に新教育制度が実施されることになって、各市町村に新教育発足準備会が持たれ、各階層の住民の意見を聞いて進める事になった。千葉を約8年留守にしていたにも拘らずその議長をつとめさせられて容易でなかった。其上進駐軍より教員の審査を要求され、全国都道府県に教育適格審査委員会が設置され、新採用者は勿論現職者の全部を新教育の担当者としての適性の審議が行われる事になり、そ

の重大使命を持つ委員会に委員として任命されこの事にあたった。此の様な状態であったので、4年生と1年生の生活科の様なものを受持ったものの、皆様と生活を共にする時間が奪われた為、お互に理解する事の少なかったことは誠に慚愧に堪えない。

市の学務部長の尾形先生が勇退される事になって、其後任におされた。自分が当校に赴任した使命を果さなかったのでお断りしたところ、其使命の実現には責任者の地位についての方がよいとのおすすめもあり、最も不適任だと自覚していたが辞退もかなわず市の学務部入りをし、次いで教育長となって今日10余年を経過した。この間私は市立高校を県立高校に移管した事、親泊・諸川の両校長を推薦した事は当を得たと信じている。両先生とも人格識見が卓越していた上に、天の時を得て十分に手腕を発揮されたので、千葉東高の今日の隆昌を見るに至った事と信じている。

千葉市立高女・千葉三高・千葉東高と変った当校が人格円満にして識見豊富な石毛校長の統率の下に、全県下高校中でも優秀な先生方を揃え父兄の絶大な協力を得て生徒諸君が勉強に運動に励精されている状況を見る。真に欣快の至りである。

（元本校校長・現在千葉市教育長）

「お　祝　い　と　思　い　出」

諸　川　芳　雄

千葉東高校創立20周年に当り衷心よりお祝い申し上げる次第である。

本校は全く戦争の申し子のような学校である。昭和16年4月、4年制千葉市立女子高女として港町の仮校舎に滝熊之助先生を校長として産声を挙げた。時まさに太平洋戦争苛烈の真最中で、仮校舎は戦災にあい、勤労動員中の女生徒は死傷した。今の葛城中学の場所にバラック建の校舎とアパートを借り、授業も勤労働員や疎開で疎々来ず、その中に終戦を迎えた。終戦直後楠原信一先生（現千葉市教育長）が木更津高女校長より着任された。バラックとアパートと借用中の千葉中（現千葉高校）の校舎の一部というわけで、3ヶ所に分散して或は2部授業、或は隔日授業の惨憺たる有様であった。

現在の轟町の地に移ったのは昭和23年である。楠原先生が市の教育民生部長に転ぜられ、教頭である親泊朝晋先生が校長になられたが、暫くして新設の県教育委員会に転ぜられる時、私は両先生から懇請されて東京から市立女子高校長として着任した。轟町の敷地は戦前の陸軍被服倉庫の跡であって、軍施設の廢材古材をバラして建てた馬小屋然たるバラック3棟が建ちつつあった。私の着任の時、第2棟のバラック校舎が工事中に一寸した風で倒壊してしまった。当時を思い出すと感慨無量である。戦災都市のバラック仮校舎での学校づくり。これはどうせ野戦で死んだ

箸の生き残りの亡霊然たる私にとっては男としてやり甲斐のある仕事だと考えた。

着任の日、自宅が遠いので学校へ泊った。小使は通勤の小使が1人、仮校舎の一隅が宿直室、校地内居住の宿直の先生に帰ってもらったら広い学校に居るのは自分1人。暗闇の掘立物置で七輪にカンナ屑で火を起し、土釜で携帯の米を炊き、落ちている竹を削って箸を作り、当日学校で配給になった粉醤油を振りかけ、茶碗もないので土釜のままで食事をしたことを、着任の初印象として今も生々と覚えている。附近は荒地で店は一軒もない。全く野戦気分で、情けなさを乗り越えて却って爽快であり闘志が湧いた。昭和24年4月、今から12年前である。当時は六三制のスタートの時で、旧制高女から新制女子高校へ切替の最中であった。女生徒のみで生徒数400名足らず、高女で卒業した者多く、高校3年の切替え進学した3年生は僅かに38名、生徒の服装はモンペに下駄履きが多かった。先生方の数も事務を入れて21~2名、半分以上が女の先生で、男の先生は8~9名、カーキ色の国民服や戦闘帽の人もあった。男の先生の数が多いので某先生が「6日に1度位宿直が当たる」と言われた言葉が今も耳に残っている。昭和34年、私が千葉三高を去る時に全職員数70余名の大きさには比すれば感無量である。事務は森先生・大森先生の2人、補佐員はその年高女卒の西浦さん、小使は通勤の大川さん1人であった。

運動場は大きな門柱が2本あるだけで境界線もなく、砂利だらけの高低のひどい草原や芋畑であり、建物は校舎とは名のみで、窓ガラスは殆んど無く壁は崩れかかり、天井はボール紙のような紙テックスで大穴があいたり落ちかかっている。そういう教室のひとつが職員室であり、校長室兼事務室となっていた。玄関・小使室・宿直室・特別教室もなく、全校舎内に電燈の取り口は1ヶ所、それから長いコードを三又ソケットで引張って薄暗い裸電燈が3個、1燈は職員室に、1燈は宿直室（普通教室をベニヤで3分の1位間仕切りした室）、1燈は校長室兼事務室にそれぞれブラ下っていたことを思い出す。敗戦後の戦災都市のバラック校舎で何もかも惨憺たる有様、何処から手をつけてよいやら、正直のところ「どえらい所へ到頭来てしまったワイ。」とつくづく思った。とはいっても、それまでの20年間の教育者としての体験や教育の持つ意義の重大性を考え、幕末オンボロの松下村塾から多くの維新の有為の人材を輩出せしめた事等を思い浮べ、乏しい自分に鞭打って、先生方と共に強固な同志的結合を本に学校作りに微力を傾倒した。宿直の先生や遠距離通勤の先生や私も一緒に、1枚の蒲団を引張り合って仮宿直室で寝たこともあった。懐しい当時の先生方は、有田・久保田・山崎・安塚・朝比奈・池内・大河原・大島・斎藤・山口・吉田(さ)・松本(正)・一条・麻生・篠田・中島・金子・西村・秋元・小林(熊)・豊田の諸先生である。

当時焦土の千葉市は小学校の復旧、新制中学の統設、2部授業廃止への努力で到

底本校には手の廻りかねる実状であったが、加納金助市長・楠原教育長にお願いして、学校当面の要緊たる電燈工事・水道工事を即座に施行していただいた事は有難いことであった。緑中学校の校舎が出来る前に4教室をお貸ししたのも此の頃のことである。久保田先生・山崎先生等と生徒会の規約やPTAの規約を作り、夫々の団体が活潑に動き始めたのも此の頃のことである。学校新聞を「学窓」という題で第1号を発刊、演劇クラブは始めから優秀な成果を挙げ、いずれも木島清先生が顧問で今日の隆盛の基を作られた。当時庭球も仲々強く、円城寺・木全両嬢は県代表として度々国体に出場した。

昭和25年、アメリカ占領軍の教育政策で高校再編成統合が全国的に行われた時本県でも米軍のブラウニングが教育面の担当で、生徒数600名以下の基準で15~6校が整理統合され、本校も廃校か統合かという危機に直面したが、よく禍を転じて福と為し、此の危機を乗り越え、25年から県立移管・男女共学実施へと踏み切った。移管にからんでは当時の加納市長・地元の宮内県議(現市長)・吉原県議等の方々にも陳情したことを思い出す。当時高校入学選抜は第1志望・第2志望の2つのワクがあり、本校は遺憾ながら第1志望のみで定員に充たず、第2志望で多数が入学していたのを、昭和26年の校長会議席上で教育庁側に対し、教育の機会均等・学校差の撤廃こそ新しい教育の在り方であるとし、県の高校入学選抜の方法を第1志望1本に変更させた事は、先生方や生徒に自信をもって頂く点から快い思い出である。第1志望生のみで定員を充足すべく、久保田・山崎・安塚・大河原先生等と大いに苦労した事を思い出す。此の時、統合の恐れを解消するため、思い切って独断で教育庁には事後報告で2学級増を断行し将来に備えた。

県立移管、男女共学実施、校名変更等目まぐるしく学校が活潑に動き出した。従来在市立千葉女子高校から県立千葉第三高校となり、始めて第1回の男生徒80名を迎え、職員も大增員した。お隣の千葉商業高校と一緒に県立移管になった。その条件は(1)職員給を3年間千葉市が負担(2)特に千葉三高については本館木造300坪を市費で建てる、ということで、県教委対市教委の間での移管の公約とした。公約ではあっても、千葉市は都市復興や小中学校の校舎建設が大変であり、放任しておくに移管条件の実行は仲々至難であることが他市町村の前例に多い。よって公約中の本館建設の促進運動を起すこととし、従来のPTA役員12~3名であったのを新たに100名以上に大增員し、会長並木辰雄氏等と相談、班別陳情団を作り陳情をくり返し、競輪収入財源を6~700万予算に組んで頂き、本館300坪が出来上った。ほんとうに市に対しては感謝の気持が一杯であった。時まさに朝鮮の南北動乱勃発、資材工事費暴騰し、設計を変更する等のことがあって所期の立派な建物にはならなかったが、小講堂・職員室・事務室・校長室が出来て、他のバラックに

比して一応堂々たるもので、先生方や生徒一同も大いに喜んだのである。本館は出来ても生徒の授業する教室がいかにも荒廃したバラックである。何とかして3年間で在学中に、生徒が使う特別教室として木の香新しい理科教室で勉強させたいと考え、かくて理科の特別教室の構想を練った。

昭和26年、同時に運動場の整地作業を行なった。全校職員生徒を挙げて夏休みに行なったことは意義深い。男生徒は鶴嘴をにぎり、女生徒はリヤカーを引張り、炎天下汗とアブラにまみれて、コチンコチンの運動場を高い所は数尺掘り下げて低い所へ運び、盛り土をして平らにしたのである。先生方が自発的に自然発生的に此のグラウンド作りをされた事は極めて意義深い。

男女共学の実施と共に男生徒の帽章と女生徒のバッジを作り、更に校歌・応援歌を作詩作曲した。帽章バッジは吉田さゆり先生の縁故の図案の大家に依頼した。校歌・応援歌は当時の教頭沢田繁二先生（現八街高校長）が作詞、歌人兵藤先生に手を入れて頂き、作曲は勅使川原先生の母校武蔵野音楽大学の教授にお願いした。校歌「シャロンの花」の中の生徒数「600余」が「800余」「900余」となり「1,000余」というように時々修正しなければならなかったことも学校発展の一面を物語るものである。

昭和26年秋に本館落成、運動場竣功を兼ねて創立10周年式典その他各種行事を盛大に挙行了。此の後、本校は新進躍進発展途上の学校として天下の注目を引くに至り、入学志願者は年々激増、生徒の質は向上、男子漸増して男女半々となり、理想的共学実施の高校となった。特に市立当時若干見られた他の市内県立高校生に対する劣等感や、少数男性時代のシスターボーイ的ムードは完全に解消、学級増に次ぐ学級増、職員増に次ぐ職員増で天下の高校にまでのし上がった。

昭和27年には理科特別教室を450万円で建設した。更に翌年は本校入学志願者激増に直面して、市内中学校関係の父兄の方々・中学校長先生方が本校の2学級増を県教育委員会に猛烈に波状陳情した結果、県教育委員会から本校の2学級増を要望してきた。これに対し自分は先生方と相談をし、学級増による質の低下は表面上持ち出せないが、校舎教室の収容力なきため一応お断りをした。県教育委員全員7名の方が来校され懇談、施設は2教室増築案を以て迫られたが、これを突破口として一挙に2棟（家庭科教室棟と普通科5教室棟）650万円を有利な特別措置として予算に組んで頂く事の方へ運んだ。当時を想起すれば全く背筋がぴーンと緊張する。当時の地元教育委員時田米蔵先生・教育委員山口久太先生・同桜井茂尚先生・PTA会長多田勇先生・副会長鈴木潤一様・同大木静様等ともいろいろ打合わせ、宮内市長さんからも補助金を若干出していただき、かけずり廻った末に出来上った建物である。結局は県教育庁を始め各方面の特別な配慮のお蔭であった。

昭和29年に千葉一高・千葉二高に分在していた通信教育を統合して本校に設置された。教育庁の方針ではあったが、安田校長先生・岡部校長先生と3者懇談を尽して、結局県から設置させられたようなものだが、引受けた以上は或程度の実績を挙げねばならぬ。秋山主事以下職員の大増員を行い、専任の先生の数では日本でも有数となり、実績向上、勤労青少年学徒の新しい教育面として、埼玉県立浦和高校の通信教育と共に千葉三高通信教育は全国的に指導的立場を確立した。

此の頃生徒数は増加し、全校1,000余名を同時に収容する講堂兼体育館を建てなければ、卒業式・入学式・講演会・映画会・文化祭・音楽会等の行事教育、更に雨天体育・籠球・体操・剣道・柔道等多方面に使用可能な建物を建てる必要性を痛感し、教育庁と相談、地元負担金にも限度があり、極めて順調に約800万円で現在の体育館兼講堂を県費で建てて頂いた。竣工は昭和32年。

此の頃年次計画を樹立して、荒廃に類してきた3棟のバラック校舎を、教育庁と相談腐朽校舎のワクに入れて頂き逐次改築してゆくことにした。古い卒業生は第1棟の鰻の寝床のような細長いボロ校舎を覚えているであろう。年次計画で3棟を逐次改築するよう県費予算獲得が出来た時の嬉しさは忘れられない。昭和30年第1棟改築で見違えるようになり昭和34年2月第2棟改築、続いて石毛先生の手で第3棟改築と全く面目を一新してしまった。通信教育の独立校舎は文部省補助と県費の半々で地元負担金なしで鉄筋コンクリートの予算化に成功、教育庁と文部省の調整には人知れぬ苦勞をした。このように年々歳々予算獲得、校舎施設の充実が出来たのは、ひとえに先生方や生徒諸君の教育効果の發揮、県・県教委・市・市教委各方面のあたたかい御庇護・御援助の賜物であった。一面又父兄の方々から月々校舎建設基金として御出費されたものを蓄積し、県費予算を組んで頂く際の地元負担寄附金として、ポンプの誘い水的役割を果たしたお蔭にほかならない。

生徒の活動面を回想するならば、昭和25年に男女共学を実施した時、男生徒僅かに80名（皆優秀であった）。多数の女生徒の中の小数の男生徒として稍もするとひ弱い女性的な男子になり、剛健な男子の特色を喪失する傾向を慮り、保健体育部長の網島先生と相談、多数の男子向きの運動クラブを設置、（野球・籠球・庭球・卓球・柔道・剣道・ラグビー等）特に剣道・ラグビーでは強豪になった。ラグビーは本校が県内高校での創始校であり、県内優勝、関東大会にも度々出場した。剣道は既に輝しい伝統を作ったが国体に出場すること屢々で名選手多数を輩出せしめた。

本校PTAは実に和気藹々たるなごやかなPTAで、学校の企画には常に全面的に協力一致して下さった。PTA歴代の役員の方々、特に並木辰雄氏、多田勇氏、新城洋治氏、大木静氏、鈴木潤一氏、平山滋春氏、能勢節郎氏、また運動後援会長の小笹精一氏には感謝の念に堪えない次第である。

施設設備もさることながら、「教育の要諦は教師に在り」との自分の貧しい信念から、なるべく優れた先生をと心懸けた積りであったが、その点ほんとうに先生方には感謝の気持で一杯である。若い学校のもつ特色である潑刺さや活気に充ちており、下手な伝統に泥まず活気横溢、ダイナミックに学校が運転するようになった。生徒の質も年々向上、進学率・就職率共にあがり、堂々たる大校に成長したわけである。

本校が産声を挙げてから時は流れて20年、その間私は約10年間本校のお世話になり、思う存分の学校作りや教育実践をさせて頂いた事は、今にして思えば汗顔慚愧の至り、先生方に多大の御迷惑をかけたと思うが、ほんとうによくやって下さった。本校も20年の歴史は成年の段階に達した訳で、ここに強固な竹の節が出来たことになる。これを基にして更に将来への大きな発展を祈念してやまない。今や校名も千葉東高校と改まり、教育に御熱心な石毛先生を校長にいただき、今後益々生成発展躍進を続けることは必至である。拙ない思ひ出や所感を綴ってお祝詞にかえさせて頂く次第である。(前校長・現在千葉商業高校長)

創立20周年に寄せて

親 泊 芳 子

このたび、めでたく、創立20周年を迎えられました事を心から御祝い申し上げます。

思えば千葉市立高女として誕生して以来向学心にもえる若人の教育の理想境として歩んできた20年の歴史を思います時、まことに感銘の深いものがございます。

特に終戦のあの絶望の底から強く立ちあがり、幾多の困難を克服しつつ、校長先生をはじめ全校の皆様の母校愛や御父兄の心からなる教育愛によって、正しく清く、美しい伝統ある校風を守りつづけ、今日のこのかがやかしい式典をむかえます事を御縁あるものの一人として無上の喜びに存じます。

葛城の丘より現在の轟のまちに移転され、市から県へ移管されました当時は、学校の施設も充分でなく又運動場も荒地でございました。そうしたなかを全校の皆様が一体となって、炎天の下、又酷寒のさなかに、辛抱強く整地作業をつづけられた努力と精神が立派にみのって、今日のような施設のゆきとどいた校舎、ならびに美しいグラウンドを拝見いたしますとほんとうに隔世の感がございます。

創立20周年と一口に申しますが、その生みのなやみを知り、育ての親としての苦労を思います時、歴代の校長先生をはじめ諸先生方の筆舌につくしがたい御努力とひたすらな教育愛が感じられます。

こうした環境において、楽しい教育を受けられる皆様もまことに幸せの事と存じます。由緒ある伝統は、先輩から後輩へとうけつがれて、いよいよその光をましまし実社会においても一段と輝きわたる事と信じます。

ここに創立20周年をお祝いし、千葉東高のよりよき御発展をおいのりいたしつつ御慶びの言葉といたします。(元校長故親泊朝晋先生夫人)

“創立当時を回顧して”

市 原 初 雄

輝かしい創立20周年を迎えられますにあたり心から慶びいたします。そしてその記念誌に私のつたない稿を求められましたので、心に浮かぶままに当時のことを回顧してみようと思います。

月日のたつのは早いもので、あれからもう20年も過ぎてしまったのかと思うと感慨無量であります。御校の開校は昭和16年4月でしたが、私が赴任したのはそれよりか1月余り前の2月28日でした。そして市役所の助役の応接室にて生徒募集の準備をすすめたが、新しく生む悩みは容易ではありませんでした、しかし、それにもまして新生の喜びと希望に寝食を忘れて没頭した思い出は、今でも忘れることのできない感銘であります。

当時は千葉市立千葉高等女学校と称し、寒川の港町に仮校舎をもち、その後、葛城台に校舎の一部を新築し、両校舎にて授業を行うという不便さもありました。校舎はあるいは貧弱であったかも知れませんが、創立当時の職員・生徒はよく融和し、うって一丸となり、学校をよくしようとする気力にあふれていました。先生方も喜んで働き、生徒もまた勤労をいとわず、進んで奉仕するという積極性に富んでおりました。そして生活指導における訓育は非常に厳格でしたが、生徒は先生方の真意をよく理解し、自己修練の基礎を築き上げ、人間形成の道を歩一歩と進めて行きました。そのため卒業後の社会生活において、この訓育が大いに役立ち、みな堅実な活躍を続け、卒業生は異口同音に当時の厳しい訓育をかえって懐しいともらしていました。

私は昭和21年3月31日附をもって御校を去りましたが、その5年間は私の生涯を通じて最も全力を尽して働いた時代であり、終生忘れることのできない学校であります。

その後、県立に移管され、歴代校長先生の御手腕により、学習の面においても、あるいは施設設備の点においてもますます充実し、現在の如く内外ともに完備されて向上発展にまい進されておりますことは喜びにたえないとともに将来を楽しみに

しておる次第であります。

この榮譽ある母校に学ぶ生徒諸君は、多くの先輩諸氏の偉大なる足跡を受けつぎ、ますます情操を高め、学識をみがき、身体を鍛えて、学校生活を豊かにし、よき校風の確立につとめ、そして大いなる希望に燃えて前進して、さらに新しい歴史を築くよう不断的努力を期待してやまないであります。

(旧職員・現在千葉県立佐倉高等学校長)

創立当時の思い出

林 勢 司

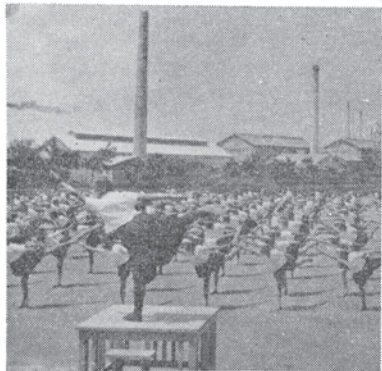
20周年。なる程そうですね。今更のように懐しく、開校当時が思い出されます。

昭和16年2月末に発令された職員は、滝初代校長と私と、佐倉高校長市原氏、被服の金子さん、事務官の石井さんと以上5人。

3月1日から市役所の一隅で、市立千葉高等学校の創設の事務を開始したこと。最初の仕事は、職員生徒の机腰掛の注文からだったこと。当時の高等小学校(現末広中)を借りて、入学試験を行ったこと。5人ではどうにもならず、高等小学校や師範学校の先生方を臨時に頼んで手伝って貰ったこと。入学式も高小の講堂で行ったこと。港町の仮校舎での第1日、机腰掛が間に合わず、仕方がないので大巖寺へ遠足したこと。等々回想は尽きません。

4月当初職員12名で出発しましたが、平均年令30才という若手揃いで、文字通り一致団結、はちきれんばかりの張り切り方でした。滝校長の「礼法を中心とした訓育方針」に則って、すべてに努力した結果、1年足らずで一寸類のない校風を、早

くも作りあげてしまいました。全国体操大会には、4年生や5年生を主力とした他校の選手と混って、堂々と優秀な成績



港町時代(昭和17年)

を納めたなど、特筆に値すると言えましょう。

しかし不幸その年の12月、太平洋戦争が始ってからは、苦難の連続でした。物資不足の折、何も持たない学校なんですから、殊に理科の実験など困りました。新校舎の工事ははかどらず、学徒動員で仮校舎は学校工場になり、そして戦災。思えば戦争と一緒に歩んで来たようなものでしたが、職員生徒みんなよくがんばりました。

でも、終戦後県立となり、轟町に移ってからは、一路年をおって発展を重ねられつつある御様子を拝見することは、創設当時の旧職員として、ほんとうに嬉しく存ずる次第です。(旧職員・現在千葉大附属二中校長)

都川のほとり

塚 本 弥 六

本年は御校創立20周年に当られるとのことで衷心よりお祝い申し上げます。私が赴任したのは創立の年の5月でした。当初は港町の、都川を背にした仮校舎で、今では一寸見られないお粗末な校舎でしたが、滝校長以下全校が県下第一の学校にするという気構えで一つに結ばれていました。校訓は明朗・真剣・錬磨の3ヶ条で、校訓どおりの学校の雰囲気でした。伝統の全くない新設校でしたが、その後5年在職した私の感じを申すなら、特に明朗・敬愛・親和といった和やかなものでした。今や20年の輝かしい伝統に築かれた千葉東高校の校風は如何でしょうか。

校地も狭かったので、他に新校地の選定を進めることになり、校長先生から先生方に御相談がありました。私は西千葉方面が生徒の通学にも電車の利用ができてよいと申したら、本校は県立と違い市立だから、千葉市民を対象に考えるべきで市の中心がよく、むしろ乗物などに頼らないで通える所が理想であるとのことで、今の葛城中学の所にきまりましたが、再遷して今は西千葉にあるのもなつかしい思い出です。

最初の年は1年生4学級だけでしたが、生徒も先生もよく働きました。掃除の時体操服とブルマに着替える時間を毎回計時して、何でもしまいいは1〜2分でしたと思います。掃除の方法も、机移動に8人すると、この8人がむだなく働けるように掃く係や拭く係などの人数をきめる。ガラス拭係、水汲係に至るまで1人1役専門に1週間やり、一層むだを省く研究をするといった調子で、校舎は粗末でしたが、掃除は実によく行届いていました。

実は思い出の大部分が戦争に結びついており、私自身も応召したのですが、戦争の話は気が進みませんので省きました。

おわりに御校一層のご発展をお祈りいたします。(旧職員・現在国府台高校教頭)

思いつくままに

新谷敏夫

私が千葉三高に御厄介になった頃は、昭和30年より4年足らずの期間でありました。ちょうど暑い夏の休みにさしかかる7月に赴任いたしました。早速わたされたものは印刷に付した綿密且つ堂々たる夏休み中の指導並びに計画の表でありました。こんなにまでしなくても正直のところ思ったのでありますが、また立場をかえて考えてみた時に誠に立派なもので、極めて当を得たものであることがわかりました。その頃はまた、校舎も次から次へと改築の途中でありましたし、講堂兼体育館も木造ではありましたが出来上り、生徒諸君の活動もいよいよ軌にのって躍進発展を続け、いきいきとした雰囲気为学校全体にかもし出されている頃でもありました。先生方の口からもよく「発展途上の三高」と冗談まじりながら聞かれたのも、今から考えると当時の気分が偲ばれてなつかしい限りです。諸川校長は10年在職され、当時の三高の隆盛を築きあげられたことは、時時もらされた懐旧談からしても十分うなずけるのでありますが、これを助けてその大をなさしめた先生方全体の功績も忘れてはならないと感じました。中々他の学校では見受けられない美しい協力一致の体制であったことが、期間は短かったが一緒に生活させていただいた私が身をもって直接に感得した事実であります。今日、創立20周年を迎えるということは、その草創の頃が戦時中で、物心両面に甚だしい困難苦行があったということでしょうが、それを乗り越え成長して、正に^{よき}20の青年に達したとでも申しましょうか。いつの時代も青年の力なくして国の栄えたためしがないようですが、何かこの学校の現在と将来に期待するところ、洋々とした、そして希望にみちみちたものを考えざるを得ないのであります。私がホームを持ちました中にも、大変優秀な生徒たちが沢山いました。この人たちは皆社会に出て、三高の成果を世にとうと同時に、大いに後輩の指導にも役立っていることと思います。幸いに、新校長のもと学校幹部の先生方をはじめ、全員一丸となって鋭意校風の充実と刷新に努力されておられるともし承わり、心から喜びにたえません。青年期千葉東高校の繁栄をお祝いするとともに、将来いよいよその校風が発揚し大なる使命が達成されることを祈念してやみません。(旧職員・現在千葉市立高校教頭)

回顧十年

寺田義栄

学校というようなものに特別の思い出などがあるとしたら、それはろくなものではあるまい。

北陸の金沢から千葉三高におもむいたのが昭和27年のことであるが、当時はなかなか元気のいい先生方が多かった。街の連仲と取り組んだ果てに自分もドブに飛び込んだとかいうT氏。酔後旅館の浴槽に翌朝までひたっていたというO氏。職員住宅という名の物置小舎の縁の下に一晩犬を抱いて寝たというS氏。犬の方が正当防衛でひかくものだから、彼氏翌日は赤チンキだらけの顔をしていた。顔の方は間もなく復原したが、上衣もズボンもずたずたになったのは、なんとも不経済な話。その他、真夜、映画の看板をむやみやたらに蹴って歩く習性のK氏。硝子戸をげんこつでたたき破ったY氏。駅の12階段を一気に跳んで蛙のようにしばらく動かなかったC氏。いずれも酒に強かった人たちがなつかしい。そして、酔えば必ず卓を叩いて悲憤慷慨、三高をして一高・二高に負けしむるなど論じたものだ。酒の飲めぬ連仲にも威勢のよいのがいた。杯一ぱいでも吐血するというN氏とA氏が、生徒指導上の意見の差異から、真昼間教務室で組み討ちを演じたのも壮観であった。

当時の校舎もひどいもので、処々窓枠だけで硝子がないという状態の教室があり、壁はボロボロ落剥する。そこへ生徒が模造紙をベタベタはったものだ。それが数年のうちに、理科室ができる。家庭科教室ができる。第2棟も改築される。講堂兼体育館が建つというふうに、次ぎ次ぎと充実して、今では全く面目を一新してしまった。校長やPTAの苦労もたいへんだったろうが、生徒の努力や先生方の意気さかなことも、やはりこのように学校が発展する基礎の力となったことだろう。

今、金沢の地に帰っても、時折、あの赤土のほこりのすごい運動場を懐しいと思う。(旧職員・現在石川県教育庁指導主事)

思い出すこと

寺村紘二

たしか昭和26年だと思いますが、本校の10周年記念式に私は船橋市教育長の代理として列席の栄を得ました。諸川校長の熱烈にして迫力のある式辞にドギモを抜かれ、又来賓の岡部千葉二高校長の名挨拶にすっかり感心した私が、はからずも昭

和31年から3年間教頭として在職し、ここに20周年記念誌に駄文を寄せるのも思えば不思議な因縁かもしれません。更に三高の思出はこれより先、昭和25年初夏の候、諸川校長から教頭に来ないかと、当時岩手県片田舎にいた私に交渉がありましたがこれは一足ちがいで先口がきまり間もなく船橋市に奉職しました事です。

そして三転して昭和31年4月1日に今度こそは正真正銘の本校職員として令名高い諸川さんの下に働くことになりました。思えばよくよく御縁があったのでしょう。

高校としてはまだ若い本校のいきいきとした空気と、先生方の和氣に満ちた環境の下で大過なく過し得た事を今でも感謝しています。

赴任直後、表通りまでおおいかぶさっていたアカシヤの木をきれいに刈込む事を事務の森先生と相はかって実行した事や、以前のバックネットを高める為つぎ足した事や、体育館の暗幕取付に校長を説得して高級品をつけてもらった事、又応接間増築案やら御手洗改築案をしばしば進言してとうとう実現できなかった事、等々、職務の関係上、管理営繕の面に数々の思出があります。

授業を受持っていなかったので生徒諸君に接する機会が少なかったのは残念でしたが、退職するすこし前に補欠授業で3年生に計画経済の話をしたら、思わぬ反響があってとうとう2名の生徒さんが宅までやってきて3時間も激論をたたかわしたのは実に愉快な事件でした。

西の方だと思っているうちに遂に千葉市の東方になってしまった由ですが、これも本校将来の大発展を示す明らかな証拠でしょう。

校舎もよくなり運動場も整備され、それにもまして立派な先生方とよい生徒さんに恵まれた本校の前途は、諸川校長のいう「発展途上の三高」の実がいよいよあがっている事を確信し、校運のますますさかんになる事を心から御祈りいたしております。（旧職員・現在専修大学松戸高校教頭）

教員住宅時代を回顧して

久保田清風

私の最後の御奉公の所と心にきめて、山形から郷土千葉市立高校に着任したのは葛城台から現在地に引越したばかりの昭和23年5月のことでした。先輩諸先生の話では高遠な理想の下に創立され、着々成果もあげて居ったところ、日支事変の進展につれて、校舎の完成を見ずに終戦を迎え、その上空前の学制改革によって葛城の校舎は新設の三中に譲り、広大な土地をとり更に遠大な抱負をもって理想郷葛台に移転したばかりの時でした。

終戦直後ではあるが、これでも学校かと思われる程の兵舎改造のバラックで、窓硝子はなく風雨にさらされ、玄関もなく、初めての訪問者は入口を探す始末。校庭は草は茂り、敗戦を物語る塹壕もそのまま、境界もなく校庭の真中を市民は勿論荷馬車も通り、窓際をアイスクャンデー行商人も通る有様。今にして思えば創立時代の楽しい思出であり、日本の一時代の風景で懐しい限りであります。校庭を眺め、「壕のあと 土筆ののびる平和かな」とよんだ記憶もあります。

しかし、内に入れば全く家族的で、和気霽々、その上学習意欲旺盛、復興の意気に燃え実には頼母しい学園でした。然しながら生徒数の最も少ない時代で、3年は僅か数名のため教室を間仕切して一隅で寺小屋よろしくの授業でした。又教科選択の時でしたので、斎藤さんの物理は川俣さん一人という、これは大学顔負けで、私の長い教員生活中の珍らしい体験でした。

焼土と化した千葉は極度の住宅難でしたが、PTAの御厚意で住宅が建てられ、早速私の家族は吉田・山口・福原の三先生と共にここに安住することができました。私だけが二間でしたが4人の生活には不自由でした。子供らは時々深夜勉強することにしておりました。それでも当時としては全く有難い限りでした。又食糧難でもあったが、広い校庭の一隅を開墾しても・大根等を作り、楽しい生活ができました。体育館の建って居るあたりが私の精魂こめた畑かと思うと実に感無量です。

在職12年の前半6年をかような住宅で過したので、朝夕の区別ない学校生活が続きました。近所隣の少ないことですから時々宿直室に出かけたものです。この宿直室は校舎にふさわしいもので、宿直員が木片を集めて炊事をするのでした。全く時代ばなれして居りました。従って時々大川さん蔭山さんが「今晚はまだ宿直の先生が見えないから頼みます」とやってくるような呑気な時代でもありました。

市立から県立に、女学校から男女共学に変転し校運は日に日に隆昌、遂に名実共に県下一流の高校として名声をあげていることはお互慶賀の至りであります。

校名も市立高女から三高、更に東高とかわり今回成年を迎えるに当り、往年を回顧して校運の益々盛んならんことをお祈りします。

（旧職員・現在専修大学松戸高等学校在勤）

『偶 感』

佐々木鉄太郎

千葉三（東）高が20周年を迎えるという。その後半の10年は私は勤めさせて戴いたが、最近の三（東）高の校舎内外の整備は目を見張るばかり、誠に今昔の感に

堪えない。

私が着任したのは25年であったが、校舎としては3棟しかなく、それも終戦直後の物資不足の際にたてられたバラック建築。床は偉大な淑女の重みには堪えかねいたる所穴のあいているアバタ床。柱は四面に板を張って2度の勤めのみにくさをかくす天プラ型。窓、引戸はただでは入れませぬ、帰らせませぬのだからこ流。等々。とてもまともな校舎とは申せぬ代物であった。運動場も現在のグラウンドは狐狸の巣窟、山あり谷あり、変化の妙を極め、カクレンボにはもってこい。現状からは想像も出来ない有様であった。

今日、なお不満の点もあろうが、ほぼ必要な条件をみたしている。現在の生徒諸君は恵まれていると申すべきではないか。ただここに注意しなければならないことは、「恵まれている為の無気力」に堕することである。

「使我有洛陽負郭田二頃豈能佩六国相印乎」とは戦国時代蘇秦の有名な言であり「売家と唐様でかく三代目」という川柳もある。共に人間の弱点をえぐったものであるが、条件がいいということは必ずしも人間にとって望ましいものではない。奮発心を失ってしまうおそれがある。人生の第一義を忘れて愚の愚なることにうつつをぬかすうれえがある。在校生諸君はこのことに十分留意して自戒してほしい。

諸君の先輩の中には単身ブラジルに渡り開拓に従っているものもあり、ヒマラヤをめざして鹿島立ったものもいる。或いは学位論文に骨身をくだしているものもあり、大学に8年かかっても機械の改良に専心しようと志をきめているものもいる。

諸君は小生に甘んじることなく、恵まれた条件を十分に活用して、あくまでも高校に入った目的の完遂を期してほしい。(旧職員・現在佐倉東高校定時制主事)

通信教育のことなど

秋 山 利 雄

千葉県的高等学校通信教育が三高に統合移管されたのは昭和29年の4月でありました。以前から二高でこの方を担当していた関係から私も一緒に転任ということになり、それまで使用していた机やら消耗品などを積んだオート三輪にゆられて、小仲台から穴川を通り轟町3番地に着任したという次第です。

当時はほとんど開店休業といった状態でありましたが、これから発展させなくてはならないのに、2校を1校に縮小するのは愚策の至りであるなどと、他県の関係者から批判されたこともありました。

新居は図書室の入口にある約10坪ほどの部屋(今の図書準備室のあたり)に大机2個と椅子が10個ばかり、諸川校長心づくしの廻転椅子に納まってはみたものの

総勢8人のうち二三人を除いては通信教育などとは見るは勿論のこと聞いたこともないというずぶの素人ばかりですから、何をやるにして“そもそも通信教育とは”といった具合、かてて加えて、予算の関係もあり、全員が朝から夕方まで封筒の旧校名を改訂する手工業がかれこれ1ヶ月ほどもありました。

その頃の三高では“発展途上”という言葉が流行しており大変活気に溢れて居りました。そんな影響もあって、吾々も封筒作業の合間をみては連日のように通信教育はいかにあるべきかを論じ合い、教育とは何ぞやなどという質問が飛出して指導主事を苦笑させる一幕もありました。

それでも6月に入学式を挙行することになり、生徒への連絡、受講料の徴収、教材の発送と伝票照合や小包作りの仕事が続ぎ、念願かなって天下の三高に栄転と思いきや、こんな姿じゃ親女房にゃ見せられないと泣事の出る仕末でしたが、小數民族は団結するという歴史的原則を忘れるなとばかり、向鉢巻で夜おそくまで頑張ったものです。

万事がこんな調子でしたから、受入れられた全日制の方々はずいぶん奇妙に感じられたことでしょうし、また大変御迷惑をおかけしたことでしょうと、想い出すたびに冷汗が出てまいります。(前通信教育部主事・現在市川工業高校教頭)

平和への祈り

川 又 玲 子

創立20周年、成人式を迎えて感激と希望に燃える若人に似た母校に心からお目出とうと申し上げたい。

私が創立間もない市立千葉高女に入学したのは昭和19年4月、時局は切迫し、学園まで暗雲に覆われ、連日防空ごう掘り、炭材作業と落付いて勉強等出来ない時代でした。戦災によって港町校舎より葛城台へ移り、食糧難打開のため校庭は農場と化して増産に鉄も振いました。やがて終戦と共に制度・課程は変遷し、校名も千葉市立女子高になり、校舎も轟丘に移転して校舎復興の整地作業に汗を流しました。そしてガラス戸もない仮校舎のなかで大多数の友達に旧制度の女学校課程で卒業致しました。

戦争の爪跡は深く、あらゆる物質の不足で教科書も満足に揃いませんでしたが、30数名は家族的な雰囲気の中でやや落付いて勉強が出来て倅せな事でした。自治活動が認められ、私達自体の主体性が重んじられる様になって生徒会も発足し、暗中模索のうちに終始しましたが、予算の配分に全校集会でつるし上げられた事も生々しくよみがえってきます。幸い私は其後も母校にお世話になって年ごとに発展する

姿を見て参りました。歴史の一大転換期に学校生活を送った、いわば戦争の落し子の様な私達、貴重な体験を静かに思い出すのです。

それにしても、やがて私達の幼子も学ぶであろう学園が、永久に平和でありますようにと祈らずにはられません。(昭和25年・高校2回卒)

思 い つ く ま ま

間 島 正 枝

懐しい母校の創立20周年を迎えるに当たり、心より喜びと感謝の念を抱きながら、思い出の一端を綴らせて頂きます。

冬が終りに近づき、あたりが暗い冬の装いから、やがて訪れる明るい季節への衣更をする頃になると、狭き門をくぐり、希望に胸をふくらませて入学する人々や、新しく社会へ巣立って行く若い人々の姿が、印象深く目にうつります。

私も親しい友達と机を並べ、思い出多い学生々活を終えてから早や10年が過ぎました。終戦間近の昭和20年4月、現在の葛城中学の場所に、千葉市立千葉高女生として入学致しました。ふり返ってみますと、6年間の学校で得た数々の思い出が、カラーフィルムの様に次々と浮かんでまいります。

終戦直後の混乱した世相の中で学んだ私達は、色々な面で苦しみや悲しみを味わいましたが、何時も私達をはげまし、導いて下さった諸先生方の御苦勞はさぞ大変だった事と、今更乍ら深く感謝致します。途中、6・3制が施行され、続いて新しい学校教育に協力する、生徒の自主的組織として生徒会が設立されました。会則の一つ一つから自分達で定め、予算の配分、決算の発表等、先生方の御指導をうけ、又他校と色々連絡をとりながら、勉学の傍ら新しく誕生した生徒会の成長に若い情熱をそそいだ事が、懐しい思い出として蘇って参ります。

創立20周年を迎えました現在、今や充実した設備の中で立派な先生方の御教えの下に、のびのびと明るく勉学にいそまれる皆様方を思いますと、ただただ感慨にふけるのみでございます。

なつかしい母校と皆様方の前途に、限らない発展と幸福を心からお祈り致しまして、拙い筆を置きます。(昭和26年・高校3回卒)

在 校 生 諸 君 へ

小 西 一 三

在校生の諸君と共に同窓生の一員として、この素晴らしい20周年を迎えたことは感無量のものがあります。

私が千葉三高の門をくぐったのは昭和27年(当時1学年の2学期)に転校してきて以来のことでした。その頃は、高校に男女共学が実施されて間もない頃でしたので、その男女学生の比率は、男子学生100名に対し女子学生600名余りというアンバランスな数字を示して居りました。私などの様に男子ばかりの学校に通っていた者には、これは驚異であり、その環境に慣れ親しむまで約半年余り費しましたが、それでも男子ばかりの学校とは違った、何か馥郁とした和やかな楽しい毎日の送れる学生時代でした。ただ、その当時の母校はまだ敗戦の爪跡が生々しく、校舎といっても兵舎を改造しただけで、全長100米にも及ぶ平屋3棟だけが死んだ蛇の様に長々と横たわって、その焼トタンの屋根に雨が降ると、大自然の音楽がポタポタチャンチャンとうるさく授業をさえぎり、冬は節穴や床下のすきまから北風が容赦なく吹きつけ、床は少し暴れたり肥った先生が通るとみしみし鳴り、その所々には釘が頭を出していて怪我をする始末でした。

それに窓ガラスという窓ガラスには盗難避けとみえて1枚1枚に「千三高」と謄写インクを利用して書かれ、何かこの周辺は物情騒然としたものが感じられました。この様にオンボロ校舎に育った私達に立派な校庭がある筈もなく、そこには凸凹な土地に雑草と砂利が敷きつめられた、裸足ではとうてい歩けない庭というよりも荒野があっただけなのです。

しかし、私達はこの様な最低の教育環境に敢然として闘いを挑み、3年間たゆまず勉学の鞭を合わせ、暑中休暇も返上して地ならしや草とり、石拾いと諸々の作業にはげみ、1日も早く今日ある様な立派な校庭校舎を築き上げようと専心努力して来たのでした。

それだけに私をも含めた多くの卒業生達は母校を訪うたびに、一握の土、一つ一つの小石が懐しく、そっと大地を踏みしめるのです。

ことに今なお以前の姿をそのままに残している玄関前の松は何か思い出深いものがあります。

在校生の諸君よ。卒業生一同が心から母校を愛し築きあげた、この目にみえない努力と汗の結晶から生れた不屈の敢闘精神を、君達の手であたかもダイヤの原石を磨くが如く、更に歩みを進めて、より一層東高校発展に寄与されることを祈って止

みません。

この20周年を記念して私達同窓会は、すでに御承知のことかと思いますが、長い間夢にみた同窓生と在校生のかけ橋ともなる同窓会館設立の件が、関係官庁並びに名誉会長をはじめとした学校当局の御意見御援助のもとに承認され、近々設立される見通しがついたことは、在校生ともども喜んで頂きたいと思います。

部屋も広く在校生、卒業生の別なく使用できる様に礼法室・合宿所等を設けてありますから、これをフルに活用して頂き、先輩後輩が打って一丸となって、今後の東高発展のエネルギーの場ともなれば幸せに思います。

(昭和29年高校6回卒・同窓会副会長)

20周年に寄せて

鈴木富士夫

東高校20周年がやって来ました。10年一昔と云いますが、丁度二昔です。「光陰矢の如し」と云いますがまさにあわただしい20年であったでしょう。然しとにかく此の20年間に、東高校はまさに革命的な発展をしました。県下の屈指の高等学校として、自他共に許しているからであります。そして今後も限りなき発展を約束するでしょう。もちろんそれは歴代校長先生始め諸先生の御努力に負う所は大であります。私は昭和29年通信教育部併設と同時に入学し、4年間に学させて頂きました。全日制の発展は、前に述べた通り目覚ましいものでしたが、通信教育も此の7年間の発展は正に飛躍的でした。30年頃ようやく40名そこそこのスクーリング受講者でしたが、現在は10倍余に達していると聞きます。卒業生も既に約70名に達しています。とにかく両課程を通じ、東高校は発展の一途をたどっています。大学入学資格検定試験、夜間高校と歩き、最後に通信教育に落ちついて、卒業の栄を勝ち得させて頂いた私は、何かにつけてここ程なつかしい場所はありません。東高校こそは終生私の忘れぬ母校となるでしょう。在学中には何か通信教育学生と云うと引け目を感じていましたが、卒業後の現在同窓会にも出席するし、在学中の出来事はなつかしい思い出となり、行く先々で胸に、帽子に東高校のバッジをきらめかす生徒を見ると、何とも云えない親近感を覚えます。シャロンの園の一員であると思うと余計に。現在私はより深き専門知識を得べく、法政大学に学んでいます。そしてかたわら通信教育の地区に学生で組織している「わかばクラブ」に微力を注いでいます。10名足らずの学習会ですが、しかし前途は希望に満ちて居ります。此のクラブからももう1,2年すれば、卒業生が巣立つことでしょう。通信教育も今や東高校の通信教育でなく、日本の東高校通教部にまで発展して参りました。

た。卒業生はもちろん在學生も東高校の名を恥ずかしめないよう努力しまして、より良い東高校発展の片腕となるでしょう。とにかく東高校は一つであると云うことです。今後25周年・30周年と輝かしい伝統は築き上げられるでしょう。在校生はもちろん卒業生も20周年の此の良き年を契機として、自覚も新たに今後一層の努力をしょうではありませんか。取り止めもない事ばかり申し上げましたが、一言御祝いのことばを申し上げまして、併せて校長先生始め諸先生在校生御一同様、卒業生各位の御健康を御祈り申し上げます。(昭和32年度・通信教育第2回卒)

「はじめてのスクーリングの日」

宮下 かつえ

緊張で身をこわばらせながら私がはじめて三高の門をくぐったのは昭和30年、入学した翌年の春まだ浅い3月のことであった。億病な私は入学式にも行かなかったし、スクーリングの通知がきても、一人で知らない所へ行くのは恐いような気がして、それまで一度も学校へ出たことはなかったのである。部屋の隅でひそかに「高校」と名のつく片鱗をかじっていることで満足していた。1か月に1科目で2通のレポートを書き、当時としてはどうやら通信生の面目を保ってはいた。そうしてやっと国語甲1の上のレポートを出し終ったとき、「試験通知」というものが学校から来たのである。とうとうくるべきものがきた、という少し大げさになるかも知れないが、1人で汽車に乗ってまだ1度も行ったことのない学校へゆき、試験をも受けて帰ってくるというそのことで頭がいっぱいになり、私は、2,3日もの言わず考えこんでいたことを覚えている。

それまで国語の安藤先生は割合に私のレポートをはめていてくれたから、試験を受けなければもうレポートを出せないというのはいかにも残念で、やはりどうしても試験を受けに学校へ行ってみようと決心せざるを得なかった。

日曜日でもあり、うすら寒い日でもあったせいか、学校の門の内外には人っ子ひとりなかった。しばらくの間私は何かの間違いでここへ来てしまったような気がして、どうしたものかと右往左往していたが、意を決して校門をくぐり「スクーリング会場」「千葉地区面接室」と書かれた教室の入り口の玄関に入ってしまった。それまで私は高等学校と名のつくからには、もう少しなんとか立派できれいなものだとばかり思っていたから、その教室の入り口の廊下に砂があがってざらざらになっているのを見て驚いた。(当時の三高は今の校舎の前のまだガラガラの校舎であった)そして今思い出しても恥かしいことに、此の学校は靴のまま上ってもいい学校なのかしら、と思って靴のまま教室に入りかけ、なかで話をしていた秋山先生に「君、

靴をぬいで——」と注意され、すっかりあがってしまった。

以後私は、学校で持参のスリッパにはきかえるたびにそれを思い出し、胸中赤面を禁じ得なかったものである。私達通信教育生にとってスリッパはかけがえのない学校へ出る大切な持参物のひとつであった。たった10人そこそこの生徒を前にして秋山先生はずいぶんはりきって話をしておられたと思う。先生も生徒も闘志満面の態で、いくらか悲壮な感じでさえもあった。

勉強したにもかかわらず試験の結果は68点であり、当時は60点以上合格という規則だったから、かろうじて合格の朱印が押された通知がきたと記憶している。私が通信教育で卒業できる見込みをつけて勉強をやり出したのはそれからまた1年以上もたってからのことである。(昭和33年度・通信教育第3回卒)

校 長 の 異 動

職 名	氏 名	就任年月日	退任年月日
校 長	滝 熊 之 助	昭. 16. 2. 24	昭. 20. 8. 8
同	楠 原 信 一	昭. 20. 8. 8	昭. 22. 11. 25
校長事務取扱	親 泊 親 晋	昭. 22. 11. 25	昭. 23. 2. 29
校 長	親 泊 親 晋	昭. 23. 2. 29	昭. 24. 3. 31
同	諸 川 芳 雄	昭. 24. 4. 1	昭. 34. 3. 31
同	石 毛 貞 雄	昭. 34. 4. 1	

尚、親泊先生は 昭和32年1月23日に、滝先生は昭和35年5月22日に逝去されました。哀悼の意を表する次第でございます。



(左) 故親泊先生 (右) 故滝先生

◆ 沿 革 概 要 ◆

- 昭. 16. 2. 16 千葉市立千葉高等女学校(4年制)設立認可
1学年4学級(定員200名)所在地 千葉市港町19番地
- 昭. 16. 2. 24 県視学滝熊之助本校校長に補せられる
- 昭. 18. 4. 8 教室不足のため2部授業開始
- 昭. 18. 11. 1 新校舎一部落成 所在地 千葉市葛城町212番地 3年生移転
- 昭. 19. 4. 7 生徒の一部葛城町第2校舎および第3校舎(元葛城アパート)に移転 3か所分散授業
- 昭. 20. 3. 30 第1回卒業式
- 昭. 20. 7. 7 港町第1校舎戦災
- 昭. 20. 7. 9 新校舎建築中止 教室不足のため隔日授業開始
- 昭. 20. 8. 8 校長滝熊之助県立千葉高等女学校長に転任
県立木更津高等女学校長楠原信一本本校校長に補せられる
- 昭. 20. 10. 1 県立千葉中学校の校舎の一部を借用して分散授業
- 昭. 21. 4. 1 5年制高等女学校となる 教室不足のため生徒の一部を千葉中および収納庫に収容して隔日授業解消
- 昭. 22. 4. 1 6・3制発足のため生徒募集中止
- 昭. 22. 11. 25 校長楠原信一千葉市教育民生部長に転任 教頭親泊朝晋 本校校長事務取扱に補せられる
- 昭. 22. 11. 28 借用中の県立千葉中学校の校舎一部焼失
- 昭. 22. 11. 29 教室不足のため第4, 5学年は週1日第2, 3学年は週2日休校
- 昭. 23. 2. 29 校長事務取扱親泊朝晋本校校長に補せられる
- 昭. 23. 4. 1 千葉市立女子高等学校と校名変更
- 昭. 23. 4. 17 新校舎に移転 所在地 千葉市轟町3番地
旧校地校舎を千葉市立第三中学校に委譲
- 昭. 23. 5. 15 千葉市立女子高等学校開校式
- 昭. 24. 2. 17 県立千葉女子高等学校に第3棟貸与
- 昭. 24. 3. 31 校長親泊朝晋県教委事務局管理課高校係長に転任
- 昭. 24. 4. 1 東京都立城北高等学校教頭諸川芳雄 本校校長に補せられる
- 昭. 24. 4. 12 建築中の第2棟大風のため倒壊
- 昭. 24. 4. 26 新校章制定
- 昭. 24. 4. 27 生徒会発足
- 昭. 24. 9. 1 庭球コートを校舎裏に新設

昭. 24. 9. 26 千葉市立第5中学校に3教室貸与
 昭. 24. 10. 27~29 第3学年昇仙峡、修善寺方面に研究旅行(第1回目の修学旅行)
 昭. 24. 11. 11 倒壊した第2棟落成
 昭. 24. 11. 22 職員、生徒、父兄、卒業生、4者共同で県立移管問題について市に陳情
 昭. 25. 4. 1 県立移管により千葉県立千葉第三高等学校と校名変更・1学級増加(以後1学年6学級)
 昭. 25. 5. 1 男子帽章制定
 昭. 25. 6. 20 C I E, 文部省, 県教委指導課の勧奨によって社会科単元学習研究公開授業実施
 昭. 25. 7. 13 本館建築促進運動を起こし県教委, 市教委に陳情
 昭. 25. 10. 25~27 3年生関西方面研究旅行始めて実施(4泊5日)
 昭. 25. 11. 10~11 第1回文化祭(展覧会, バザー, 音楽, 演劇, 研究発表会)
 昭. 26. 1. 19 第1回耐寒マラソン
 昭. 26. 7. 26~9. 18 校庭整地作業(200mトラック, 野球場, 籠球, 排球コート)
 昭. 26. 9. 1 新築本館落成(小講堂, 校長室, 事務室, 教務室, 小使室, 便所, 会議室)
 昭. 26. 10. 6 創立10周年記念大運動会
 昭. 26. 11. 2~6 創立10周年記念式典挙行 校歌, 応援歌制定, 県下中学校席書大会, 音楽会, 図画コンクール, 生徒研究発表会, 演劇鑑賞会, 展覧会, バザー
 昭. 27. 4. 22 玄関前および校庭に植樹
 昭. 27. 5. 9 県教委主催高校体育研究会公開授業実施
 昭. 27. 5. 30 女子制服制定
 昭. 28. 3. 20 新築理科教室落成(物理化学教室, 地学教室, 生物教室)
 昭. 28. 4. 1 1学級増加(以後1学年7学級)
 昭. 28. 11. 10 緑化推進本部緑の羽根基金より苗木700本の寄付を受け植樹
 昭. 29. 4. 1 通信教育部設置(県立千葉第一高等学校および県立千葉第二高等学校通信教育部を統合)
 昭. 29. 6. 7 新築家庭科教室, 普通教室落成 仮湯呑場を分解体育器具置場として移築
 昭. 30. 4. 8 改築第1棟落成(普通教室, 通信教育部室, 更衣室)
 昭. 30. 7. 20~9. 5 校庭整地工事(グラウンド拡張)
 昭. 30. 10. 10 通信教育部文部省実験学校に指定される

昭. 32. 3. 1 通信教育部第1回卒業生3名
 昭. 32. 4. 1 本年度入学生から1学年定員350名(1学級50名)
 昭. 32. 8. 31 新築体育館兼講堂落成
 昭. 33. 2. 26 自転車置場新設
 昭. 34. 2. 20 改築第2棟落成(普通教室, 図書館)
 昭. 34. 3. 31 校長諸川芳雄県立千葉商業高等学校長に転任
 昭. 34. 4. 1 県立銚子商業高等学校長石毛貞雄本校校長に補せられる
 昭. 34. 7. 10 増築印刷室, 応接室落成
 昭. 34. 9. 7 新築運動クラブ室落成
 昭. 35. 4. 1 努力目標設定. 校内諸規程改訂
 昭. 35. 5. 31 新築通信教育部落成
 昭. 35. 7. 8 増築理科準備室落成
 昭. 35. 11. 19 改築第3棟落成(第2体育館, 芸術科各教室, 生徒会室)
 昭. 35. 12. 12 校地境界整備工事(門, ブロック塀)
 昭. 36. 3. 26 全教室配電工事 上下水道改修工事
 昭. 36. 4. 1 千葉県立千葉東高等学校と校名変更
 昭. 36. 7. 15 新築生徒用便所落成

ブラジル便り 斎 曉 男

言葉もほとんど毛唐と不自由なく話せる位は覚え、慣習にも大分慣れて来たこの頃、毎日を将来の数百万ではなく数千万円の夢に託して元気に働いている。一昨日の日曜日もし休みなし。今のところ植付中で忙しいので無休という所。仕事は重労働に入る方で、夜は8時になるとベッドに入り、朝はまだうす暗い6時頃に起きて畠へと、全く体を休まず暇もなく、従って日本の事もつい忘れがちになり、ホームシックなど羨望である。

今居る所は町から12キロも離れた草原地帯。ちょうど西部劇にでてくるあの草原を想像してくれればまあ間違いない。ピストルこそもっていないが牛飼いはあのつばの広い帽子をかぶって馬に乗って牛を追っている。しかし今の僕は凹地を流れる水を利用しての野菜作りを夢みている。1年に多い時は100万円の利益があるんだ。ブラジルは日本人にとって、又日本の国にとって絶好の活動地域だ。我々の先輩でも1年でトラックを買ったり、トラクターを備えたりしている。僕も独立する時は日本から嫁さんを買おうと家の方へ頼んでいる。お互に高校時代から比べると変わっていくものだなあ。

どうも毛唐の中に居ると日本語を忘れてしまってた。辞書を5、6回めくっちゃったよ。日常のことでもいい。何でもいい。日本の事なら何でも珍らしいんだ。知らせてくれよ。珍らしく「名にし負はばいざこととはん」てな気持ちだ。遅くなったのでこのへんで寝る。又便りするよ。(昭和31年・高校8回卒)

◆ 職 員 一 覧 ◆

職 名	氏 名	担当教科	就 任 年 月 日	学 歴
校長	石 毛 貞 雄		34. 4. 1	東 高 師 研
教 諭	山 崎 一 郎	芸 術	34. 4. 1	東 文 理 大
〃	古 沢 政 雄	社会商業	18. 3. 31	東 高 師 研
〃	安 塚 正 一	芸 術	16. 3. 31	東 洋 大
〃	吉 田 さ ゆ り	理 科	23. 12. 31	検 定 大
〃	池 内 勝 次	国 語	19. 9. 30	日 大 高 師
〃	朝 比 奈 英 男	国 語	23. 4. 30	東 京 高 師
〃	松 本 正 子	英 語	22. 5. 31	津 田 英 専
〃	麻 白 銀 彦 太	数 学	29. 4. 1	日 理 科 大
〃	勅使川原安芸子	芸 術	24. 5. 31	武 蔵 野 音
〃	石 川 宏	保健体育	35. 5. 1	東 京 体 専
〃	一条 あ き 子	英 語	23. 6. 30	津 田 英 専
〃	篠 田 圭 子	家 庭	21. 3. 31	共 立 女 専
〃	井 下 田 博	理 科	29. 4. 1	東 京 高 師
〃	木 島 与 左 衛 門	社 会	27. 7. 1	東 京 高 師
〃	久 保 木 千 寿	数 学	29. 4. 1	東 京 高 師
〃	野 村 典 平	理 科	36. 4. 1	第 一 臨 教
〃	野 村 松 三	保健体育	28. 12. 1	日 体 専
〃	野 村 恭 一	英 語	28. 4. 1	東 京 外 語
〃	山 根 茂 子	国 語	33. 4. 1	二 松 学 舎
〃	須 藤 明 子	家 庭	30. 9. 1	東 女 高 師
〃	剣 持 哲 郎	理 科	28. 5. 1	東 京 高 師
〃	坂 本 武 朗	国 語	34. 4. 1	千 葉 大
〃	宇 野 孝 功	社 会	28. 1. 1	東 文 理 大
〃	高 山 貞 雄	数 学	35. 4. 1	東 京 高 師
〃	中 村 朋 弘	数 学	35. 4. 1	東 京 高 師
〃	松 津 野 朋	社 会	29. 10. 16	東 東 理 大
〃	伊 野 村 和 之	保健体育	36. 4. 1	東 教 育 大
〃	曾 根 正 幸	社 会	36. 4. 1	東 教 育 大
〃	加 瀬 正 浩	英 語	36. 4. 1	千 葉 大
〃	奥 山 広 吉	英 語	35. 4. 1	東 教 育 大
〃	高 沢 田 守	英 語	36. 4. 1	千 葉 大
〃	吉 田 守 男	英 語	33. 5. 1	東 教 育 大
〃	藤 倉 守 男	英 語	34. 4. 1	東 教 育 大
職 名	氏 名	担当教科	就 任 年 月 日	学 歴
教 諭	篠 田 義 三	数 学	34. 4. 1	東 教 育 大
養護教諭	安 田 末 さ 代	茶 華 道	34. 4. 1	養 教 講
嘱託	大 野 ま 悦 子		28. 1. 1	駿 台 女
図書助手	鈴 木 清 実		32. 5. 1	千 葉 三 高
教務助手	伊 原 清 実		35. 2. 10	亀 山 中
理科	中 村 勢 代 子		35. 9. 12	葛 城 中
実験助手	柳 川 懋 雄		32. 5. 16	敬 愛 短 大
事務主事	森 俊 光		16. 3. 31	国 学 院 高 師
事務主事	関 山 菊 代 子		34. 4. 1	日 本 大
事務助手	青 山 康 枝 夫		35. 4. 1	日 淑 徳 女
実習助手	金 親 和 武 次		30. 5. 1	千 葉 二 高
〃	栗 林 村 勝 ヨ シ 郎		35. 4. 1	長 生 二 高
使 丁	伊 原 山 三 幸 忠 夫		31. 3. 16	日 向 高 小
〃	中 伊 藤 清 重		32. 4. 1	菊 間 小
〃	伊 藤 清 重		36. 4. 1	香 木 原 小
校 医	茂 手 木 幸 忠 夫	内 科	24. 10. 16	東 鉄 講
〃	伊 藤 清 重	眼 科	24. 3. 31	東 京 医 専
〃	磯 村 武 重	歯 科	17. 3. 31	千 葉 医 大
〃		外 科	24. 3. 31	日 大 歯 科 医
〃			31. 4. 1	慶 応 大 医

(通 信 教 育 部)

職 名	氏 名	担当教科	就 任 年 月 日	学 歴
主 事	山 川 達 三	国 語	36. 4. 1	東 洋 大
教 諭	植 田 兵 衛	国 語	36. 4. 1	日 本 大
〃	椎 名 忠 夫	英 語	35. 4. 1	実 践 女 専
〃	伯 智 恵 子	家 庭	34. 9. 1	東 北 大
〃	佐 藤 敏 彦	理 科	36. 4. 1	宮 城 女 専
〃	川 添 章 彦	理 科	29. 5. 1	東 京 高 師
〃	泉 水 信 宏	社 会	31. 4. 1	成 蹊 高 校
〃	篠 塚 昭 吾	数 学	36. 4. 1	中 央 大
〃	土 屋 久 雄	商 業	34. 4. 1	千 葉 大
〃	山 口 道 夫	理 科	36. 4. 1	巢 鴨 経 専
事務主事	高 橋 二 郎 子		36. 4. 1	東 教 育 大
〃	湯 浅 多 美		35. 4. 1	関 東 中
実習助手	斎 藤 静 子		29. 4. 1	戸 板 女 専
			31. 4. 16	実 践 女 短 大

さつまいもの時代

戦時中いもをよく食べた時代のことである。合同体操などで一斉に脚をあげたりすると、時ならぬ異様な音のすることがあった。平素よく言いかせてあるのだが、笑いたいさかりの女生徒ばかりだからたまらない。一部ではつい笑い声がおこる。壇上のO先生、憤然として怒るのだがおさまらない。ところで当時泰然としていたのがH先生。教室にいても、生徒と外を歩いていても悠然として爆音をとどろかす。生徒がどっと笑って先生の顔を見ると、H先生はにこりとせず、「どうかしたのか?」……。 (安塚)

「女性の手紙」

私が応召したのは昭和19年7月15日のことで、衛生兵だったため土浦の海軍病院に入隊した。教育期間中のある日、教官が私を呼びとめて、「お前、シャバでは良い教員だったらしいな。今のところ教育中だから見せるわけにはいかんから、女性の手紙は吾々が楽しんでおく。」つまり生徒からの手紙のことであった。「そのうち見せるから、まあ一生懸命にやれ。」というようなわけで、しばらくは見せてもらえなかったが、素晴らしい手紙を沢山もらったのである。生徒の手紙で私の信用もずいぶんあがったらしい。(山崎)

落着いたドロボウ

葛城台から轟町へ一部移転した時のことである。白昼リヤカーをひいてきて、屋根のトタンをはがして堂々ともちかえてゆく男がいた。その態度があまり落着いているので市役所から何かの都合でやってきたものと思いい、職員も別に気にとめなかった。ところがなんとこれがドロボウであった。当時、柵を引きぬいてもってゆくとか、板をはがしてゆくとか、全く油断のならぬ時代であったが、これほど落着いたドロボウはいまだに見たことがない。(池内)

同窓会のあゆみ

昭和16年春千葉市立高等女学校として、本県教育界にあまりにも有名だった滝熊之助先生を学校長にむかえ、将来は専門学校併設の県下唯一の教育の殿堂とする理想にもえて千葉市港町に創立された。しかし戦争状況には左右され幾多の苦難の道をたどらねばならなかった。昭和30年3月戦争が日本に不利の度を加えた時第1回の214名の卒業生をだしはじめて同窓会の発足を見るに至った。同年8月15日終戦の詔勅下り戦いは終った。しかしその後も試練の連続であった。しかし同窓会の団結はいよいよ堅く総会開催の計画が着々と準備された。昭和21年3月3日について第1回同窓会総会が葛城台の校舎で行なわれた。この会は時局がらさやかなものであったが、苦難時代の同窓生はむしろ限らないつかしきがあり、職員、同窓生は相互に思い出を語り極めて有意義な会であり、その尽きることを知らない有様であった。そして次の会合を約しながら散会した。やがて21年3月第2回生が学制改革による5年に進級した者を残し、186名の同窓生をおくり400名を数えるに至った。ついで21年11月3日に第2回同窓会総会が開催された。この会は本校同窓会総会中で最も印象に残るものであった。この日の出席者は139名(第1回生51, 第2回生88)の多数にのぼり、同職員も、初代校長滝先生、小川、立石、塚本先生等の旧職員の出席もあり盛大に行われた。当日は千葉中学校(現千葉高)の講堂を借用し在校生の音楽演劇、コロンビア専属の丸山定子さんの出演などあり記念写真の撮影も行なわれた。今当時の記念写真を見るにつけても、なごやかな中にも意気あがるものを感じる。昭和22年10月17〜8日時局がらにもかわらず同窓生による箱根一泊旅行が蔦屋旅館を中心に多数の参加者を出し愉快に行なわれた。このことも時局を超越して同窓生の団結の強固さを物語るものともいえる。

昭和23年春は学制改革により、市立高等学校となりやがて現在地に移転、25年には、県立移管となり校名も千葉第三高等学校となり、男女共学となる。この前後に学校存廃問題が起ったが、その存続運動に同窓会も大きな力を発揮した。かく多忙な月日を過しながら26年となり、学校は10周年目をむかえた。10周年記念式行事に対しても積極的に参加、10万円目標の募金運動が行われた。この後学校は順調な歩みと共に同窓会の歩みも堅実なものであった。昭和28年には男子の同窓生を出し、又同窓会員名簿作製の件も計画された。29年秋には本校主催の県下小中高席書大会には斯道奨励のため優勝カップの寄贈が行なわれた。ついで30年には明年の15周年を期して再び会員名簿整備が行われ31年5月に成ったものがそれである。31年には又体育館兼講堂の建設のため寄附募集が計画され、学校の設備充実に大きな役割をしている。32年には県下唯一の通信教育部からはじめて3名の同窓

生をむかえたことも本校の特色であろう。秋の総会には、来年度からの総会は夏期休暇中に行なうことが決定された。昭和32年8月17日には船橋ヘルスセンターで総会が行なわれ、多数の参加者を得て盛大に行なわれた。殊にこの総会においては役員は同窓生からの規約改正が決定され、学校長は名誉会長となり、会長には永江栄さん副会長小西一三君以下の役員が選出され、自主的運営を一層前進させることになったことは画期的なことであった。34年には3度会員名簿の編集が行なわれ、その完成されたものが最新のもので、その数も4000名を数えるに至っている。35年度には明年の20周年記念行事への積極的参加が決議され、その設備充実、殊に同窓会館建設等を期し多額の寄附を行なうことになった。そして本年の記念行事は学校PTA同窓会一体となり最も意義ある記念の年になるようすすめられている。以上はきわめて簡略に述べたにすぎないが、要するに同窓会は常に母校と一心同体となり、学校発展に大きな役割を果たしていることが十分うかがうことが出来る。そして学校の発展とともに年々に隆盛となることであろう。

卒業生数

()は通信教育による卒業生

卒業年月	高 等 女 学 校	累 計	高 等 学 校	累 計
20. 3	214	214		
21. 3	186	400		
22. 3	19	419		
23. 3	191	610		
24. 3	153	763	5	5
25. 3			32	37
26. 3			153	190
27. 3			195	385
28. 3			247	632
29. 3			279	911
30. 3			270	1,181
31. 3			326	1,507
32. 3			320 (3)	1,827 (3)
33. 3			311 (9)	2,138 (12)
34. 3			326 (13)	2,464 (25)
35. 3			341 (11)	2,805 (36)
36. 3			350 (22)	3,155 (48)

生徒会のあゆみ

昭和23年4月から、新学校教育法による新制高等学校では生徒の自治活動は一層重視されることとなり、学校長から認められた範囲内において、生徒の自主的な学校運営に参加する機関として、生徒会の誕生を見るに至った。現在では生徒会という名のみで、そのことが知られるまで発展し普及したのであるが、当時としては実に画期的なことであったのである。次に創立当時の会則を二三挙げて見よう。

第2条 本会は会員相互の自治向上を図り校風の振興に寄与して民主教育を高めるのを目的とする

第5条 生徒会の権限は学校長から委任された範囲内において学校経営、計画の進展又は運用を促進させる

第6条 評議会は学校運営の部面に貢献するために、生徒として出来得る最高限度の自律活動をする

と規程している。

この条文は極めて不完全なものであるが、この不備なところに当時の生徒会の未熟さが十分察せられる。しかし規定作製の努力は今考えても実に冷汗のものであった。当時アメリカ軍政部教育課の生徒会活動に対する熱意はさることながら、校内においても生徒も職員も大いに努力したし、又空気もそうした方向にあったと思われる。又初期の生徒会役員選挙や予算会議なども、その一行事毎に限りない苦心となつかしみを感ずる。昭和25年4月には学制改革の影響で男女共学となり、男子生徒の入学で活動は一層積極化し、男女共学の生徒会の雰囲気も次第に養成された。昭和25年6月27～8日の両日はアメリカ関東軍政部教育課の顧問マクナマス氏の指導で、当時の千葉第二高等学校図書館で県下高等学校の生徒会役員、校長、顧問参加して、生徒会の組織運営に関する研究集会が開催された。この会は実に多数の参加者があり、全体会議と分科会に分れて研究討議が行われ、次第に生徒会に関する問題と研究とが各学校に、多くなりつつあったことと、マクナマス氏以下の指導よろしきを得て驚くべき程の熱をおびた集会となり、参加者全員に非常な感銘を与えた。殊に本校の当時の会長であった小林正枝さんは、司会者の一人に選出され、しかも全体会議にすばらしい名司会ぶりを示し、マクナマス氏外参加者に絶讃を受けたことは又わすれることの出来ない貴い活躍といわねばならない。

この集会は恐らく県下高等学校の生徒会に異常な好結果をもたらし、本校生徒会の堅実な歩みにも力があつた。かくて生徒会は常に学校運営に積極的な活躍を見せ、昭和26年の10周年記念行事にもその真価を見せた。10周年記念行事は県下から多数の来賓をむかえ、PTA、同窓会などの援助を得たのであるが、在校生諸君の努力を見逃すことは出来ない。生徒会の組織を十分活用し、その立場を通しての行事参加も見事であった。昭和26年夏の運動場整地作業も、夏休返上の言葉通りの全員参加でよくこの重労働に努力したのである。今の運動場はその成果によるものと

いっても過言ではない。同年秋の10周年行事にも、生徒会をあげて協力した。即ち展示会、発表会、運動会、又は三高新聞20号、文学クラブよりなる文学誌蠅人形、図書委員会の図書館等何れも生徒会の自主的活動によつてなつたものである。その後生徒会は順調な歩をすすめた。しかし一面停滞気味の様相も次第にあらわれた、殊に進学問題等はこの空気を助長したとも思われた。昭和28年11月にはこれ等の問題を解決し生徒会活動の運営を合理的にする話し合いが市内高校生徒会の間にもたれ、千葉工業高等学校を会場として(一高、二高、商業、明德、関東、工業、三高参加)生徒会運営方針、年間行事、予算決定方法、風紀問題、生徒会のあり方等についての研究討論がなされ、生徒会の清新な空気を吹きこむことに意義をもち、その後も屢々会合が行なわれ、生徒会活動の上によく切磋琢磨が行なわれた。かく生徒会は種々の問題を残しながらも、ひたすら前進がつけられている。紙面の都合で、その後の状況はクラブ、委員会の沿革、活動の記録から考察願いたい。

本校生徒会は、堅実を目標に学校の発展と共に、大地に足をふまえて歩みづけることと信じてうたがわぬ。

歴代生徒会長 1. (24) 波田野 操 2. (25) 小林正枝 3. (26) 平方一枝
4. (27) 松本一興 5. (28) 小西一三 6. (29) 阿部高久
7. (30) 三浦賢樹 8. (31) 細川義友 9. (32) 鈴木謙輔
10. (33) 小塚興作 11. (34) 原 孝夫 12. (35) 藤本孝之
13. (36) 荒井 進 () は年度

ラホールより(パキスタン便り)

竹 内 正 巳

日本の暑さは如何ですか。ラホールはちょっと相当なもの。それでも死ぬことはないようです。毎日2～3時間昼寝をしなければならない、というより自然にねむくなってくる次第。

目下滞在中のホテルの主人は非常な親日家で、よくめんどろをみてくれます。特に食事には大変気を使ってくれるし、今のところは快適な生活を送っています。

此処ラホールは汚いなんていうより、ブタ小屋に人間が住んでいるといえ一番びったりするようです。それでも、カラチ、ラホール、先日行ったビンディはどうやら我々が住める場所ですが、一昨日逢った日本人の話では、ハイデラバード、ムルタニなどはこれ以上すごいとのこと、全く驚きです。彼の話によれば、水道をひねって汚れた水が出ない町は少なく、それだけで上等の町と考えなければならないとか……。先日ビンディからバスで帰りましたが本当に最低で、人間のゴミを乗せているといった感じ。もっとも、汽車ならラホールまで4,000円(日本金にして)バスだと400円というのだから、どの程度のものか想像がつきましよう。

山の方の同行者がきまりました。ハッサンというものすごくでかいのと、タリクという小さいのと面白い取合わせです。いずれ行動を起してから第2信を送ります。8月11日。(昭31年・高校8回卒)

クラブ活動のあゆみ

文化クラブ

被服手芸クラブ

昭和24年クラブ結成以来部員30名前後で活動していた。対外的な発表の機会もなく主に文化祭展示会に発表していたが、昭和31年千葉県産業教育作品展示会家庭科部会に出品、3年渡辺千枝子の「新しい着物」一揃が金賞千教組委員長賞（個人賞としては最高）その他3年村田美沙子、猪狩桂子、大和田尋子、中山久代等入賞活躍した。その後は経費の関係等で出品できず、又県主催の展示会もなくなり、ここ数年文化祭に研究成果を発表している。現在部員36名で主に手芸方面で地道な研究活動を続けている。26年まで柴田希子先生、29年まで芳野千代先生が篠田先生とともに指導にあたられた。

食物クラブ

手芸、茶華クラブなどとともに誕生、部員は毎年30～40人で、卒業を前にした3年生が構成員の過半数を占めている。毎週2時間位かかって中流家庭向きの料理を作って試食する。又、卒業期にはテーブルマナーの実習を兼ねて生徒全員が、製作者、給仕人、客の1人3役を演じて楽しい研究の時を過ごして来た。その他育児院の見学、手製の御菓子をお土産にして養老院を慰問したこともある。特別の研究とか発表のようなことはしていないが、毎年文化祭にはクラブ員によって食堂が開かれ、日頃の腕を学友達や父兄に披露し、これによって得た利益金を生徒会に寄附したり、又クラブの備品購入にあてたりして来た。

化学クラブ

創設年度はわからない。29年度より化学クラブらしい組織を作って活動して来たが、実際活動する人は極く少人数であった。女子が多かったためか研究対象も植物色素等が中心で、当時1人1研究という目標も関係して児

島美晴外の人達によって労作「ダリアの色素抽出」がなしとげられた。以来次第にクラブ員の数も増えて放課後熱心に活動している。34年11月日本学生科学展に「天然色素の研究」を発表し県より優秀賞を受け、35年11月にも同じく「結晶の研究」を出品し優秀賞を受けている。現在は「比色分析」を中心に実験を続け、これを手がかりとして地球化学方面の仕事をしようと部員一同はり切っている。

物理クラブ

27年度当時の物理担当の斎藤昭一郎先生によって「模型クラブ」の名称で創設され、模型飛行機等の製作を行った。その後「物理クラブ」と改称主にラジオ関係の製作実験にあたってきた。29年11月校内放送用の増幅器出力30Wを自作、以来5年間にわたって校内放送の使命をはたしてきた。現在は「重力の加速度測定」「電球の性能テスト」の実験を実施している。顧問27～30年度斎藤昭一郎、31～34年度菅宮和夫、35年度より剣持徹各先生。

生物クラブ

クラブ発足以来地味ではあるが非常に楽しく真面目にグループあるいは個人で研究テーマをもって研究して来た。

- 昭 23. 千葉県生物学会に加入、毎月の例会に参加した。
- 昭 24. 県生物学会の主催による市原郡市東村瀬又の貝層（化石）の研究会に参加
- 昭 26.11 県生物学会研究発表会、3年志村得子「蒸散作用」の研究を発表優秀賞を受賞
- 昭 28. 7 尾瀬が原の植物研究
- 昭 30. 奥多摩御岳の昆虫植物の研究、清澄の生物研究、暖地生物の宝庫だけあって収穫は大きかった。
- 昭 32. 8 県生物学会臨地実習参加、保田、富浦海岸にて海のプランクトンその他磯に棲む動植物の研究等、特にプランクトンの研究にあたってはまだ暗い夜明け前、舟に乗っ、プランクトンネ

ットで採集し眠らないで顕微鏡で調べたりして非常に成果をあげた。

- 昭 33. 8 鴨川仁衛門島の潮だまりの生物の研究
- 昭 34. 4 みつばちの継続研究を始める
- 昭 34. 8 武蔵黒山三滝附近の植物研究
- 昭 35.10 第4回日本学生科学賞「みつばちの研究」応募、優秀賞を受賞。
- 昭 35.11 県生物学会研究発表会「みつばちの研究」発表、代表福島奉雄、時田弘央、優秀賞を受賞
- 昭 35. 8 夏季臨地研究、丹沢山麓の生物研究

写真クラブ

昭和27年度中村篤二郎先生によって創設された。部員は10名位であった。漸次部員も増加し、小西六主催の写真展に入賞するものもあった。現在技術的には高度なものではないが部員一同はり切って活動している。

映画クラブ

昭和27年度から演劇クラブの一部として特に映画鑑賞の幹旋に当たったり、又映画批評を学校新聞、学校放送に出したりした。30年度3年生の相川員広の努力と、その頃明治大学映画部に籍を置く後藤氏（O.B.）の貢献によって分離独立10数名の部員を数えた。その後「キネマ旬報」の読書サークルを中心に市内高校と連絡して高校映画連盟の組織も結成され、「学校活動の一駒」などをスライドに編成して、解説シナリオを考えたりしたこともあったが、このところ部員が集らず名目のみの存在になっている。マスコミ活動の重要性が強調されている今日この種の活動が衰退しているのはまことに遺憾と考えられる。（顧問 木島）

音楽クラブ

音楽室から流れてくるピアノの音、そして若人の歌声は学校生活に大なるおいをもたせてくれます。音楽クラブとしての活動は非常に古くから行われていますが、昭和26年に10周年記念音楽祭を開催し好評を博した。27年10月全国唱歌ラジオコンクール千葉県予選で女声合唱第2位、同毎日新聞社主催学生コンクール独唱の部で清

宮芳江が関東地区予選通過、28年10月全国唱歌ラジオコンクール県予選で女声合唱第五位の活躍を示した。以来毎年行われる千葉高主催音楽会(6月)、県下高校連合音楽会(10月)、千葉市合唱祭(11月)等に出場し良好な成績をおさめてきた。又文化祭にはいつでも熱心な発表を行ってきている。発表会を一つの目標としつつ活動が続いている。35年新しい音楽室も完成、立派なピアノも購入された。今後の発展、特に共学校として混声合唱における成果が期待される。

マンドリンクラブ

昭和33年度2年生鈴木昭君らの熱心な努力によってマンドリン同好会として出発した。以来新入生歓迎会、予餞会、文化祭を通じて、日頃の練習の成果を発表し好評を博した。35年度から正式にクラブとして承認され、ラテン音楽、ロシア、アメリカ、イタリア等を中心とする世界の民謡、日本の民謡そして校歌と、忙がしい学業のあい間をみて練習を続け、校内での発表を行って来ている。特に36年度の新入生歓迎会には先輩も加わっての熱の入った演奏に、新入生達に小さからぬ感銘を与えた。今後さらに技術を向上させレパートリーも増やそうと一同はり切っている。

書道クラブ

昭和15年に書道部として発足以来、非常に優秀な成績をのこしてきている。その跡をふりかえてみると、

- 昭 18.10 満洲国書道展に出品
- 昭 21.11 千葉医大書道展 学校賞
- 昭 22. 9 千葉師範書道展 学校賞
- 昭 22.11 憲法普及書道展 学校賞 千葉県50点入賞
中42点入賞
- 昭 23. 1 全国学生書道展 学校賞 遠藤愛子最高賞
- 昭 23. 9 千葉師範書道展 学校賞
- 昭 24. 1 第1回県下書初展 優勝 学校賞
- 昭 24. 9 千葉大書道展 優勝、学校賞
- 昭 24.11 千葉市制40年記念展 最高市長賞西郡玲子
次席教育委員会賞三代川智子
- 昭 25. 2 第2回書初展 優勝 学校賞

- 昭 25.11 全日本高校大学選抜席書大会 1位前島行
江 3位石塚滋子 4位三代川智子 11位佐野
悦子
- 昭 26. 1 第3回全国学生展 優勝 学校賞
- 昭 27. 1 第4回書初展 優勝 学校賞 知事賞前島
行江
- 昭 26. 8 全国競書大会 優勝 学校賞 文部大臣賞
佐野悦子
- 昭 26. 9 千葉大書道展 優勝 学校賞 知事賞前島
行江
- 昭 27. 1 第4回書初展 優勝 学校賞 知事賞佐野
悦子
- 昭 27. 9 千葉大書道展 優勝 学校賞
- 昭 28. 1 第5回書初展 優勝 学校賞 知事賞椎名
せつ子
- 昭 29. 2 第6回書初展 優勝 学校賞 教育長賞椎
名せつ子
- 昭 30. 1 第7回書初展 優勝 学校賞 知事賞椎名
せつ子
- 昭 31. 2 第8回書初展 準優勝 学校賞
- 昭 31. 2 葛葉書道会全国展 学校賞 知事賞高田静
江
- 昭 32. 2 第9回書初展 準優賞 学校賞
- 昭 32. 8 全国競書大会 学校賞 読売新聞社賞井上
寧子
- 昭 33. 2 第10回書初展 準優勝 学校賞
- 昭 34. 2 第11回書初展 優勝 学校賞
- 昭 34.11 立正大学全国展 全国第2席関口晴代
- 昭 35. 2 第12回書初展 優勝 学校賞
- 昭 35. 8 県下席書大会 教育長賞飯高弘子
- 昭 36. 2 第13回書初展 優勝 学校賞 教育長賞関
口晴代

他に25年度以来11回にわたって、本校主催の席書大会が開かれている。

社会クラブ

昭和26年度社会クラブとして出発した。戦後一般に社

会科学についての研究が伸びてきた上、生徒会活動、教科としての社会科などに助けられて、関係方面に興味を持ちクラブとしての学習を発展、延長させたことは戦前にその比をみない程である。部員10数名程度約半数は女子で平均して継続されてきたが、概して内容が広範にわたり取りつき難い上、地味なので、3年間のクラブ活動期間ではその緒につくに留り、より大きな発展は挫折するのが常であった。クラブ員の興味関心も大切であるが先輩から後輩に永く受けつがれる共通テーマでグループ研究が継続されることが望ましいと思う。今ここに従来の顧問、テーマを年次を追って記しておく。

- 昭 26~7年度 中山忠久先生、市商店街繁栄度調査
- 昭 28~9年度 木島与左衛門先生 市内農水産業調査
循環バス開通による交通流態調査
- 昭 30 年度 松本貞雄先生 砂川事件の資料研究
- 昭 31~2年度 氏家貞夫先生 若松町開拓農業の実態
調査
- 昭 33~4年度 木島与左衛門先生 市内の考古学的研
究、(千葉高考古クラブと合同)
- 昭 35 年度 宇野武朗先生 同上
- 昭 36 年度 松本貞雄先生 下総台地の農業再編成に
ついて実態調査展開中

文学クラブ

クラブとして発足したのは昭24年のことであるが、市立高女時代には同人雑誌「紫苑」があった。その後手刷りの同人集ではあるが、昭和24年に「大樹」昭和25年に「若菜」、そして昭和26年には創立10周年を記念して「蠟人形」が発刊された。昭和27年には「小径」(こみち)を発行、本年で11号に至っている。「小径」と並行して昭和34年より手刷りの同人誌「壁嶺」が作られ、本年第3号を発行した。また、本年から他校との合同読書会など開催して、新しい発展を期している。

珠算クラブ

昭和24年春生徒会発足とともに誕生した。その後「地味に堅実」を目標として歩んできた。高女4回卒業生興業銀行勤務金親文枝さんの活動はいかにクラブのために

努力されたか、実に輝かしいものがあつた。つづいて古川洋子さん、泉水菊子さん等の活躍、殊に古川さんの学年のうちに、一学級から30人以上の検定合格者が出たことは、本校のような普通課程学校では喜ばしい限りであつた。これは戦後の女性の職業への進出とも結びつくことであつたが、授業とクラブとの一体化がこの結果をもたらすことになつたと思われる。かくてクラブは堅実な歩みをつづけてきた。代々の部長にその人を得て伝統を守りつづけた。そして近くは千葉相互勤務の高井久子さん（1級）を出し、35年度辛日東証券勤務五十嵐初枝さん（1級）等を出した。同年の麻生ルームからは湯浅良子さんはじめ約40名の3級以上合格者を出したことなどもクラブと授業の一体化の成果を如実に物語っている。かくて本校珠算クラブはこの良き伝統を守りつづけて本校の発展とともに成長してゆくであろう。（創設以来顧問山崎先生）

P. F. C (ペンフレンドクラブ)

昭和33年に同好会として発足昭和36年度からクラブとして認められた。現在会員29名、主としてアメリカ・イギリス・オーストラリア・ドイツ・イタリアなど世界各国との海外文通を行ってきた。

J, R, C (青少年赤十字)

昭和34年11月結成式を行い記念植樹を行った。同12月作草部少年鑑別所、五井平和学園訪問、昭和35年1月点訳グループの人々が盲学校と連絡児童本の点訳奉仕、同3月には宇都宮で行われた千葉、栃木団員親善交歓会に代表が参加した。昭和35年度に入り、6月西千葉～東高間の道路清掃運動チリ津波被災者助け合い運動を行った。8月館山における千葉、栃木交歓会に代表参加。9月西千葉学校間の清掃活動について新聞社3社とインタビュー、新聞に載る。江口榛一氏の「地の塩の箱」の運動に協力。10月赤い羽街頭募金参加、11月中央図書館より4先生が来校して点字講習会が行われた。市長より招待されて社会福祉事業施設の見学訪問を行った。

昭和36年度に入って、5月白い羽募金、6月三陸大火

救援物資募集、双葉学園訪問などの活動を行った。

以上のように、健康奉仕、親善の目標を多種同様な活動を通して達成しようと、部員一同地道な努力を続けている。

演劇クラブ

(1) 初 出 場

昭和24年11月3～4日、千葉県文化祭（高校演劇コンクール第2回）に、本校は（当時市立千葉女子高校と称した）お隣の商業高校と組んで、村山知義作「初恋」を上演した。「初恋」は男、女共に7、8人の出演者を必要とする芝居であるので、女ばかりの本校と男ばかりの商業が協力し合うようになったのも当然と言える。そのようないきさつとか練習方法とか、くわしい事は記録に残っていないが、当時の人達の意気込みが漠然とながら想像出来る。

其の年のコンクール第1位は、千葉高校、ロード・ダンセニイ作「光の門」である。

(2) 入選第2回目（顧問佐倉俊二）

地区発表会を通過して、中央発表会に進出、以下これを入選と称する。

昭和25年12月3日、中央発表会に於て努力賞となる。上演目は、荒川高校作「夜学生の四季」

(3) 入 選 第 3 回

昭和26年12月2日、中央発表会に於て知事賞（3位）になる。

堀江士郎作「女の家族」

個人演技賞 茂古沼美子 と記録されている。

(4) 入 選 第 4 回

昭和27年11月30日、中央発表会に於て、県教育委員会賞（2位）となる。

内木文英作「祝い日」

(5) 入 選 第 5 回（この年より顧問 白銀彦太郎）

昭和29年12月5日、中央発表会に於て高教組賞（3位）

長谷川行勇作「死神から命をもらった話」

スタッフ

演出 関根達子、比企松代

装置 岸 静子 照明 近藤 秀雄

衣裳 山本美保子

キャスト

ナ ナ 子	伊藤 瑞枝	伯 母	平野 愛子
伯 父	仲村 一夫	叔 母	久保 節子
看 護 婦	三上実枝子	少 女	今井 光子
新聞記者	飯島 三郎	死 神	鈴木 昭啓
若い死神	相川 員広		

(6) 優 勝 第 1 回

昭和30年11月27日、コンクール中央発表会に於て会長賞（1位）を得た。

何事によらず優勝することは、なかなかむづかしい事である。特に演劇の場合は、よい脚本、うまい演技者、部員をまとめるよい部長、熱心な舞台裏の協力がうまくかみ合つて1位になるものだ。幸い此の年は、部長の今井光子、キャストの三上実枝子、鈴木昭啓等が中核になって、異常な熱意でこの芝居を作り上げ、本校演劇部での初優勝を飾った。

山小屋の装置は美術クラブの浮田信行等の協力がありキャストにも部員以外の宮永、伊藤等の応援があつた。又中央発表会当日は近藤秀雄等多くの卒業生の協力があつたことは忘れることは出来ない。

この芝居で三上実枝子の総乃の演技は光っていた。次に当時のスタッフ、キャストを紹介する。

長谷川行勇作「山小屋にて」

スタッフ

演出	今井 光子	装置	飯島 三郎、高橋 久子
照明	金丸志津子、松丸けい子	効果	大木 啓身
衣裳	三上 信栄、高山えみ子		

キャスト

総 乃	三上実枝子	舜 一	宮永 公人
源さん	鈴木 昭啓	上 原	相川 員広
政 二	黒川 武	雨 宮	伊藤 君雄
矢 口	小西 峰雄	男	田村 仁一

女 1 片根登代子 女 2 土屋 幸子

翌昭和31年6月26日ユネスコ参加として南関東高校演劇発表会にこの「山小屋にて」が推せんされたが、キャストの主力が卒業して居ないことと、東京迄行く費用の点で本校は遠慮し、代りに教育委員会賞であった佐倉第二高校が千葉県代表として参加した。

(7) 入 選 第 7 回

昭和31年12月2日、中央発表会に於て高教組賞(第4位)

榊原政常作「花妖」

スタッフ

演出 高橋 久子 装置 小西 峰雄、中村 好男
照明 宮地 和雄、国松 晃茂
効果 三上 信栄、片根登代子

キャスト

リョウ 田村 仁一	サ イ 土屋 幸子
香 玉 細川 英子	レ イ 稲橋 俊子
キュー 大多和宣伸	秋 隼 岩倉 輝武
踊り子 谷仲けい子	踊り子 鈴木 文子

(8) 入 選 第 8 回

昭和32年12月1日 中央発表会に於て教育長賞(第3位)

テネシー・ウィリアムズ作 倉橋 健訳

「ロング・グッドバイ」

スタッフ

演出 田村 仁一 大道具 国松 晃茂
照明 宮地 和雄 小道具 花沢 紀子
衣裳 市川 裕子

キャスト

ジ ョ オ 田村 仁一	マ イ ラ 岩崎 節子
母 土屋 幸子	シルヴァ 岩倉 輝武
ピ ル 小西 峰雄	運送屋1 関口 昌弘
運送屋2 武田 博夫	運送屋3 文森 光重
運送屋4 国松 晃茂	

本校演劇部がコンクールに翻訳劇を出したのは、この

時が最初である。

ロング・グッドバイを高校演劇に取り上げることは是非について、一部の審査員の間に論争があった。そういう意味で、ロング・グッドバイの上演は、県演劇連盟に話題を投げかけたものである。

(9) 入 選 第 9 回

昭和34年11月29日、中央発表会に於て教育長賞(第3位)

原千代海作「悪夢の夜」

スタッフ

演出 石井昭次郎 装置 古川 勝

効果 伴場 義子

キャスト

伴 造 石井昭次郎	い く 朝倉 靖子
敬 吉 井戸川 冽	峯 子 島崎 悦子
相 沢 石橋 清	

(10) 優 勝 (第2回)

昭和35年11月28日 中央発表会に於て会長賞(第1位)

小幡 欣治作「罪人」

スタッフ

演出 石橋 清、井戸川 冽

キャスト

速水暁子 吉成 洋子	神田正夫 井戸川 冽
高津キヨ 坂本 文恵	婦 長 青木 淑
人 夫 高尾 正三	刑 事 石橋 清
若い医師 山本 紀彦	見 舞 客 伊葉 園子
患者 A 中島 邦江	患者 B 江口木綿子
看護婦1 末松田鶴子	看護婦2 岡田 幸子

部員の少い割に出演者が多い為、舞台裏の仕事は、出演者がかけ持ちであわててやるという場面もあった。又装置の作製等は旧演劇部員であった吉岡秀夫の好意と尽力によって出来た。此の芝居の優勝の原因は、脚本選択がよかった事と相まって、部長の石橋清を中心とした強い協力、夏休み中に行った演劇研究の結果が見事実を結んだと言える。

審査員の講評に「主役速水暁子を演じた吉成洋子は、

セリフで芝居をするという高校演劇としては高度の技術をもつ」との好評を得た。

(11) 関東選抜高校演劇大会出場

昭和36年6月25日東京虎の門、久保講堂で、関東都県の昨年度コンクール優秀校5校が集まって発表会を開いた。次に上演校を示す。(上演順)

1. 県立千葉東高 「罪人」
2. 都立杉並高 「ペトロネラ」
3. 埼玉県立松山女子高「蜘蛛の玉が虹色に光るとき」
4. 神奈川県立吉田島農林高 「潮風が吹きあげて」
5. 都立赤城台高 「茶碗の中の嵐」

この発表会はコンクールでないので順位はつけなかったが、主催者の中日新聞社より、5校共トロフィーをもって来た。

この発表会の出演者は昨年度のキャストであれば卒業生でも資格があったが、本校の場合は卒業生は既に就職しているので、次のように在校生だけで、スタッフ・キャストを揃えた。

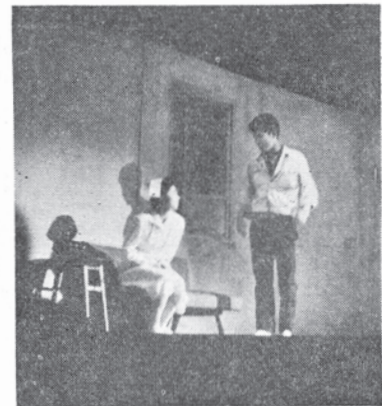
小幡欣治作 「罪人」

スタッフ

演出 山本 紀彦(3年) 大道具 小林 芳男(1年)
効果 中島 邦枝(2年)

キャスト

速水暁子 吉成 洋子	神田正夫 山本 紀彦
高津きよ 坂本 文恵	婦 長 青木 淑



「罪人」久保講堂において

「罪人」久保講堂において、関東都県の昨年度コンクール優秀校5校が集まって発表会を開いた。次に上演校を示す。(上演順)

人 夫 花島 宏 刑 事 関口 登人
若い医師 田中 豊隆 見 舞 客 末松田鶴子
患 者 江口木綿子、大熊 和子、新妻 弘子
看 護 婦 能谷 景代、登倉 治子、岡田 幸子

美術クラブ

ここ数年来クラブ員は40名前後、全員参加の水曜以外の日も、各自思い思いに自由な仕事を楽しんでいる。ただ、モデルは常時得られないので、モデルを使つての描画、彫塑等は大体夏休みに全員まとまって作品を作ることになっている。

その他将来美術専攻を志望する者は夫々の志望に応じて必要な勉強に努力している。

作品の発表は文化祭を頂点とし、毎学期1～2回の校内発表を行う他全国学生油絵展、県高校美術展等へ出品している。

なお、昨年美術クラブOB会を結成、会独自の発表を計画している他、文化祭にも参加している。

以上簡単に現況を紹介したが、ここ数年の活動状況を挙げると。

- | | | |
|-------|--------------|-----------|
| 昭 30、 | 全国緑化運動ポスター入選 | 荘司 栄朗 |
| | | 高藤千恵子 |
| 昭 30、 | 青少年犯罪防止ポスタ1位 | 荘司 栄朗 |
| 昭 30、 | 県展油絵入選 | 浮田 信行 |
| 昭 30、 | 〃 | 〃 |
| 昭 33、 | 校外展（於国松画廊昭） | |
| 昭 34、 | 同 上 | |
| 昭 34、 | 全国学生油絵展入選 | 水沼二郎 藤波秀一 |
| 昭 35、 | 全国学生油絵展入選 | 小川敦子 古川淑子 |
| | | 吉沢和子 |
| 昭 35、 | 美術クラブOB会結成 | |

運動クラブ

体操クラブ

クラブの創設は昭和31年である。当時体操器械が皆無のため、主に県体育館で練習し、時々千葉大・千葉一高の好意で一緒に練習させてもらう有様であった。昭和33年、ようやく鉄棒・吊輪・平均台を購入したが、いまだに校内では充分に練習出来ない状態である。創立以来の戦績は下記の通り。

- | | |
|---------|------------------------------|
| 昭 31. 5 | （関東大会千葉県予選） |
| | 細川一徒手3位、跳馬3位 |
| 昭 31. 6 | （関東大会） 細川一跳馬6位 |
| 昭 31. 9 | （全日本高校選手権大会） 細川一跳馬3位 |
| 昭 31. 9 | （国体千葉県予選） |
| | 細川一男子個人総合3位 |
| 昭 31.10 | 細川一国体に出場 |
| 昭 32. 6 | （関東大会千葉県予選） |
| | 男子団体総合4位（沢本・森・沖永・都築謙形） |
| 昭 32.11 | （千葉県選手権大会） |
| | 沖永一インディアンクラブ2位 |
| 昭 33.11 | （千葉県選手権大会） |
| | 女子団体総合（2部）4位（戸田・小川・松沢・早瀬・山本） |
| | 顧問、31年～36年千田、36年～藤倉 |

柔道クラブ

昭和27年度 現小講堂に畳を敷き朝比奈先生の指導で発足した。白帯ばかりで大会に出場、しかもよく健闘した。その後有段者も増し、白銀先生、新谷先生と顧問がかわるに従って発展し、昭和32年6月には富田・江畑・佐々木・大川・真塩のメンバーで第5回関東大会に出場した。その他の県内の大会でも優秀な戦績を残した。昭和34年度より顧問が篠田（旧姓増田）先生となり、現在部員は40名うち有段者18名の大世帯である。36年1月より道場が体育館から第2体育館（武道場）に移り、従来

のように練習の前後に畳の上げ下しをするという苦勞がなくなり、今後の発展が大いに期待される。

野球クラブ

長い伝統に輝く高校野球にわが千葉東高（当時千葉三高）の名がみられるのは昭和26年からである。初出場にはかなり善戦したものの、以後数年は心ないファンの冷笑を浴びながら、その頃では珍しかった「女生徒のいる応援団」の前で淋しく消えていった。

5年目を迎える頃にどうやら野球部らしい体裁をととのえてきた。この年特筆すべきは情熱の人佐々木部長の努力が見事にみのり、県大会初の一勝をあげていることである。そして強くなった三高の名がようやく人々の口にのぼるようになった。しかし残念なことには、折角まとまりかけたチームも僅少の予算とあらゆる悪条件にせめられて部員は減るばかり、昭和34年には部員5名となって遂に廢部のうわささえでるようになった。

文字通りの9年目、坂本部長が着任して自ら監督を兼ね、一年生を主体にチーム再建にのりだした。だがオープン戦では連勝連敗、ひどい時には21点もとられて雨の中をすすぐと帰校したこともあった。県下一の弱体チームと酷評されたが屈せず、部員は昼休になるとバタンをかじりながらグラウンド整備をし、休日は全部返上、ある時には豪雨のなかで部長のノックをうけた。

こうして迎えた夏の大会に、登録メンバーにも満たぬ16名の部員は、校長はじめ全職員と先輩を含めた約1000人の全校応援団の前で堂々と戦った。緒戦の忘れられぬ一瞬、先発1年生の関投手は先頭打者にいきなり左翼席に打ちこまれ、つめかけた応援団は色を失って静まり返った。主将の生田捕手は明るい笑顔で初陣の関をはげまして巧いリードを続け、8回剛球投手を擁する大多喜に5-3と有利な試合のまま同じ1年生の長谷部投手にリレー、しかし長谷部は忽ちノック・アウト5-9と逆転された。ここで坂本部長は連日1・2年生のために黙々とバッティング・ピッチャーをつとめて不平ひとついわなかったエース田村にスイッチ、夕やみせまる県営球場

で試合をもつれこませて延長11回、7ー7のまま日没引分けにもちこんだ。この試合での三高の必死の喰いさがりと、病院坂までひびいたという全校応援団のねばり強い声援は翌日の各新聞に大きく賞讃された。そして1回戦再試合には気力の逆転勝ち、2回戦千葉工には「勝つ筈のない三高」が7本の痛打を浴びながら田村投手の続投でシード破りを実現、スクイズ1つと1安打で快勝するという新チームの片鱗をみせた。この年優勝校成東に敗れたものの、はじめて3回戦に進出して千葉市民に万雷の拍子をうけた。

35年、江口主将以下ナインの攻守に助けられた関投手は2年生で勝利投手となり、主将となった36年春季大会（この年から県選手権大会は春となる）には、伝統チームをなで切りにして左腕ミラクル投手として名のりをあげた。そして好投を助けたナインも千葉県四強チームとしての栄を勝ちえたのである。

以下に野球部創設以来の県大会の記録をふりかえてみる。

- 昭26年夏 千葉県大会に初出場
 1回戦 旭農高4ー3千葉三
 （部長斎藤・松本 主将五味）
 昭27年 1回戦 県立船橋15ー3千葉三
 （部長黒岩 主将石川）
 昭28年 1回戦 佐原一高12ー0千葉三
 （部長島田 主将北田）
 昭29年 1回戦 山武農3ー2千葉三
 （部長島田 主将川戸）
 昭30年 1回戦 千葉三6ー1一宮商
 2回戦 成田高4ー0千葉三
 （部長佐々木 主将磯野）
 昭31年 1回戦 千葉三5ー2千葉経済
 2回戦 県立船橋8ー5千葉三
 （部長佐々木 主将藤崎）
 昭32年 1回戦 商大附属2ー0千葉三
 （部長佐々木 主将松本）

- 昭33年 1回戦 千葉三16ー1東邦高
 2回戦 市原一高3ー2千葉三
 （部長石井 主将中島）
 昭34年 1回戦 千葉三7ー7大多喜高
 千葉三5ー2大多喜高
 2回戦 千葉三4ー2千葉工
 3回戦 成東高10ー0千葉三
 （部長坂本 主将生田）
 昭35年 1回戦 千葉三11ー4千葉工商
 2回戦 銚子市高4ー1千葉三
 （部長坂本 主将江口）
 昭36年 春 予 戦 千葉東3ー0東邦高
 1 回 戦 （不戦勝）
 2 回 戦 千葉東11ー4千葉高
 準々決勝 千葉東3ー1長生高
 準 決 勝 県立船橋4ー0千葉東
 昭36年 夏 1回戦（シード校となり不戦勝）
 2 回 戦 千葉東8ー2安房農
 3 回 戦 千葉東3ー0市川工
 準々決勝 茂原農15ー1千葉東
 （部長坂本 主将関）

剣道クラブ

昭和28年度綱島、岩本両先生を顧問として剣道部は創設された。以来現在に至るまでの活躍の跡は下記の通りである。

- 昭28.9 第1回県下高校大会 3位
 昭29.4 第2回県下高校大会 2位
 昭29.5 県代表として第1回関東大会に出場 3位
 昭29.6 第1回全国大会県選考会で優勝
 昭29.7 県代表として全国大会に出場
 準々決勝へ進出
 先鋒 田島 行夫 中堅 福島 正雄
 大将 長井 昌夫 補欠 清水 克彦
 昭30.5 第3回県下高校大会 3位
 昭30.6 第2回関東大会に出場

- 先鋒 田島 行夫、伊藤 君雄
 中堅 羽成 収、前島 秀治
 大将 渋谷 宣男
 補欠 佐々木 茂、福島 正雄

- 昭31.4 綱島先生離任、佐藤先生着任
 昭31.5 第4回県下高校大会 2位
 第3回関東大会に出場
 先鋒 羽成 収、稲田 弘
 中堅 桑田 元弘 副将 湯本 和伸
 大将 渋谷 宣男
 補欠 中村 一夫、高橋 晃
 昭31.8 国体県予選および関東予選に優勝し関東代表として国体（赤穂）に出場
 先鋒 湯本 知伸 中堅 渋谷 宣男
 大将 羽成 収 補欠 稲田 弘

- 昭33.9 県総合体育大会 3位
 歴代主要メンバー（昭和29年度より）

- | | 主 将 | 副 将 | マネージャー |
|-------|--|-------|-----------------|
| 昭29年度 | 長井 昌夫 | 清水 克彦 | 本橋 明 |
| 昭30年度 | 田島 行夫 | 福島 正雄 | 伊藤 君雄 |
| 昭31年度 | 羽成 収 | 渋谷 宣男 | 高橋 晃 |
| 昭32年度 | 桑田 元弘 | 市川 力 | 金江 武久 |
| 昭33年度 | 竹内恵智郎 | 栗山 博臣 | 武田 博夫 |
| 昭34年度 | 湯本 和伸 | 飯田 秀一 | 田中 昭男 |
| 昭35年度 | 小山田 優 | 市川 豊 | 塚田 勝昭
（旧姓溝添） |
| 昭36年度 | 現在新第2体育館で、石川宏、高山孝両先生指導のもとに連日きびしい練習に励んで今後の発展を期している。 | | |

庭球クラブ

庭球部は最も古くから活躍しているクラブの一つである。市立高女時代の昭和21年4月保坂誠先生（現千葉高）が部長となって発足したのに始まる。部員が何十人と集まりレギュラーの活躍は早くもめざましかった。その年の総合体育大会には2位に入賞し、国体南関東予選には

岩沢照子、斎藤和子組が県代表として出場している。当時わが庭球部は千葉高女、佐原高女と並んでビッグ・スリーの存在になっていた。23年には部長が篠宮正先生、続いて朝比奈英男先生へとかわる。そして24年からは生徒会組織下のクラブとなり、大河原良知先生（現千葉女高）が顧問となった。以後12年間、36年3月まで庭球部の指導に当られた。25年県立移管と共にやがて男子部員の活躍の姿も見られるわけであるが、ちょうどその切替時の25年から27年にかけて女子の名選手が輩出し、我が庭球部の名を全国に轟かせた。その時の賞状や写真が3つ、母校校長室前に飾られ、人々から今なおその栄誉をたたえられている。

その後も伝統の火は点り続け年々県外大会に選手を派遣してきている。やがてまたその火の燃え熾る時が期待される。現在コート3面、部員数男子18名、女子27名。

主な県外大会出場歴

昭25年度 第5回国体秋季大会（名古屋）川島とり子、多田玲子組が3位入賞

昭26年度 全日本大会、東日本大会、関東大会（宇都宮）に出場

川島とり子、北島多恵子組

円城寺晴子、木全 妙子組（関東大会3位入賞）

第6回国体（広島）出場

円城寺晴子、木全 妙子組

昭27年度 全日本大会、関東大会、第7回国体（会津若松）出場

円城寺晴子、木全 妙子組

昭33年度 関東大会（埼玉川口）出場

宮沢 一好、高橋 英樹組

昭34年度 全日本大会、関東大会（高崎）

石井 典子、今井 栄子組出場

都市対抗出場

伊藤 洸男、西村 清彦組

昭36年度 関東大会

福原 輝子、坂本 保子組出場

卓球クラブ

創設ははっきりしないが、昭24年クラブ制の誕生の頃から活動を続けているようである。26年の頃は被服室の机を片ずけて練習するなど悪条件の中で練習を続けていたとのことである。古い記録はわからないので29年度以降の主な戦績をあげておく。

昭29.7 全国高校選手権（香川丸亀）にダブルス中川修子、須田房子組が3回戦に進出

昭32.6 県高校選手権 シングルス第2位 三輪

昭34.10 県第4ブロック・シングルス第3位 菊地 市民大会 シングルス第1位 菊地

昭35.8 全日本選手権県予選 ダブルス第4位 相川 静子・鈴木 弘子組

国体予選 ダブルス第3位 相川・鈴木組

昭36.5 県高校選手権 チーム5位 相川静子・佐瀬敬子・佐野宏子・鈴木弘子

ダブルス 相川・鈴木組 第6位

県第4ブロック・チーム第1位

相川・佐瀬・佐野・鈴木

ダブルス第1位 相川・鈴木組

同第2位 佐野・佐瀬組

市民大会 ダブルス 第2位 相川・鈴木組

第3位 佐野・佐瀬組 第5位 市川

晴美・杉田滋子組 シングルス第4位相川

バスケットボールクラブ

創設は記録がみあたらないので不明であるが、本校創立当初よりあったと考えられる。終戦後の混乱期には部員も数名で、当時の千葉医大のコートを借りていたとのことである。昭和26年轟町に移転してから漸やく屋外コートが作られた。32年8月体育館の完成にともない屋内コートも整備された。30年から31年にかけて女子チームの全盛時代、主将沼倉八重子、顧問松本貞雄先生。24年から31年の頃男子の全盛時代で、主将清水・梅村・顧問剣持徹先生であった。以後の成績にはみるべきものはな

いが簡単に戦跡を示す。

昭35.1 新人戦に男女両チーム出場

昭35.6 選抜大会に男子チーム出場

昭35.8 総合体育大会 男子二部準優勝
女子三部準優勝

昭36.1 新人戦に男子出場

昭36.6 選抜大会に女子出場

今後のますますの発展が期待される。

山岳クラブ

戦後の著しい現象の一つとして若い世代の人々（ここでは高校生）の間に登山熱が高まって来た。山を愛し山に抱かれようとするのは特に都会の青少年にすすめたい大切なことである。しかし時間的、経済的な余裕と或る程度の知識・能力が伴わねばならない。

山岳部は25年頃より同好者が集い、佐々木鉄太郎先生をよき助言者として順次成長、29年度以降木島教諭が受け継いで今日に至っている。部員は平均して10名余り（内女子が5～6名）で、比較的恵まれた環境にあるもののみで行われて来たが、漸次生徒会予算による装備品も整いつつあり、今後のレジャーブームの波と並行して、特権的自由山行や一般から遊離したものではなく、生徒一般のこの種の活動に協力、貢献できるような在り方を考えなければならぬ段階にあると思われる。高体連登山部門参加17校中ではある程度の注目を得ているが、山岳は敢て技を競い、勝負を争うものでなく、より多くの参加メンバーによる無事故の完全参加が望ましいので、その意味から本校山岳部は一応の成果をあげてきた。

昭29.11 県高体連登山体育大会 丹沢・勸七沢

CL竹内 SL有沢

昭30.7 同大会 南アルプス・鳳凰三山

CL高石 SL深山

昭31.7 同大会 木曾・駒が岳

CL山本 SL中田

昭32.7 関東高体連第1回大会 尾瀬

CL石橋（女）

- 昭 33. 5 同上大会 房総丘陵 CL釜石 SL田中
昭 33. 7 県高体連登山大会 秩父金峯山
CL石橋(女)
昭 35. 8 県総合体育大会 浅間山
CL河野 SL鶴淵
昭 36. 8 同上大会 赤城山 CL古市
*CL・チーフリーダー SL・サブリーダー

なお、機関誌「ケルン」の発行を数少い部員の手で執筆・編集・ガリ版切り・印刷までして発行、既に12号を算するのは特筆に値する。

又、木島先生は校命によって昭和20年度文部省主催のキャンプ指導者講習会、昭34年度夏には同じくユースホステル指導者講習会に参加し、以後山岳部員を主体として広く全校有志を募っての教育キャンプの計画、実施を続けてきた。昭和30年度より開始して既に今年で7回総計1,000名に近い有志諸君が山岳の自然の良さを感得したことになる。卒業生の中にはその後斯界の良き理解者あるいはリーダーとして貢献しているようである。シャロン・アルペン・クラブ(卒業生の山岳団体)は市内岳連の有力構成分子であり、本年度カラコルム遠征調査に赴いた竹内正巳君はその雄たるものである。この他に、ユースホステル活動、サイクリングにも近年積極的な参加をみるようになった。

ラグビークラブ

本校ラグビークラブの歴史は、網島竹治先生のご着任に始まる。現在県立船橋高校定時制主事として活躍の先生は、昭和27年度800名足らずの生徒のうち600名近くが女子である本校の体育主任としてご来任、まず男生徒の意気を挙げようと、県下にも実施校の少ない勇壮なラグビーをお始めになった。

昭和27年5月9日には、早や、ラグビー指導を中心とした県高校体育研究会を本校で行ない、同年11月には第1回県下高校ラグビー大会で、本校が他校を圧して優勝の栄冠を得ている。参加校は現在の千葉工・佐倉高および本校の3校で、結局、以後大会ごとにリーグ戦を行な

っていたわけであるが、連戦連勝毎年県代表として秩父宮・宇都宮・久里浜そして水戸と転戦して歩いた。しかし、他県とのレベルの相異はいかんともし難く他県の学校にはほとんど大敗し、わずかに久里浜大会で熊谷高に辛勝した程度であった。

昭和31・2年度頃からラグビークラブは雌伏期に入る。他校が漸次ラグビー専門の体育教官を得て有効な練習と指導が行ない得るようになって来たのに対して、本校は単に先輩の暇をみての指導助言と、在校生同志の研究切磋のみによって、試行錯誤を繰り返えし、たゆまぬ努力を続けていったのである。この稚拙な、しかも黙々とした、数年にわたる連日の精進の甲斐あってか、昭和36年度には再び他をおさえて県下8校中の代表となり宇都宮遠征の栄をになったのである。そして、これがいまこそ第2期の雄飛が期待される所以でもある。なお34年度から毎夏合宿練習を行なっている。

歴代顧問および主将

年 度	顧 問	主 将
昭 27 年度	網 島 竹 治	新 城 洋 一
昭 28 年 年	網 島 竹 治	伊 原 喜 久 夫
昭 29 年度	網 島 竹 治	熊 谷 憲 市 郎
昭 30 年度	久 保 木 千 寿	続 孝
昭 31 年度	大 河 原 良 知	鈴 木 英 夫
昭 32 年度	氏 家 貞 夫	河 野 衛
昭 33 年度	氏 家 貞 夫	鈴 木 俊 介
昭 34 年度	菅 谷 和 夫	木 村 慶 四 郎
昭 35 年度	久 保 木 千 寿	鍋 田 英 機
昭 36 年度	野 村 典 平	安 部 健

陸上競技クラブ

古いことは記録もないので良くわからない。本校創立当初から競技活動が続けてきたものと思われるが、現在の学校の運動場をもつようになったのが昭和26年夏で、100メートル直線コース・200メートルトラックが作られた。ずっと体育担当の先生方が顧問として主に指導にあたられてきたようであるが単調で苦しい練習、それも

長く続けていないと競技の味いや面白さもわかってこないスポーツであるだけに、部員数は少ないが、たゆまぬ精進を続けている。次に昭和30年度からの主な記録(県大会決勝入賞以上)をあげておく。

昭 30. 9 県総合体育大会

弓削田琢郎	400m	2 位	53''7
黒川 志朗	200mH	2 位	29''2

昭 31. 9 県 大 会

上野 孝夫	400m	3 位	55''9
栗原・川越・小幡・上野	800mR		
		5 位	1'40''0

日暮 敏子	80mH	4 位	
鈴木 昭子	走巾跳	6 位	

昭 31. 6 関東大会(千葉市営)

上野 孝夫	400m	4 位	54''0
栗原・川越・小幡・上野	800mR		
		5 位	1'38''2

日暮 敏子	80mH	鈴木昭子	走巾跳に出場す
-------	------	------	---------

昭 31. 8 全国大会(高知市)

上野孝夫	400m	予選	54''0
栗原・川城・小幡・上野	800R	出場	

昭 31. 9 県総合体育大会

上野 孝夫	200m	1 位	23''5
	400m	2 位	52''8
栗原 俊治	110mH	4 位	17''6
川城 昭和	200mH	5 位	28''0
上野・川城・栗原・小幡	800mR		
		3 位	1'36''5

日暮 敏子	80mH	4 位	15''8
-------	------	-----	-------

昭 32. 6 県 大 会

栗原 俊治	110mH	2 位	16''3
	200mH	2 位	28''4
小幡 茂	200mH	4 位	28''8
関口真知子	走高跳	2 位	1.35m

昭 32. 6 関東大会 (水戸市)
 栗原 俊治 110mH 5 位 15''/9
 200mH 予選 27''/7
 小幡 茂 200mH 予選 22''/5
 関口真知子 走高跳 8 位 1.35m

昭 32. 8 全国大会 (富山市)
 栗原 俊治 110mH 予選 14''/9

昭 32. 9 県選手権大会
 相原 良光 100m 6 位
 小幡 茂 400m 1 位 62''/6
 栗原 俊治 400m 6 位
 〃 110mH 1 位 16''/2
 関口真知子 走高跳 2 位 1.35m
 〃 80mH 3 位 14''/2

昭 32. 9 県総合体育大会
 栗原 俊治 110mH 2 位 16''/5
 小幡 茂 200mH 2 位 27''/1
 関口真知子 走高跳 2 位 1.35m

昭 33. 5 県大会
 相原 良光 200mH 2 位 27''/5
 関口真知子 走高跳 2 位 1.40m
 二田 充子 〃 4 位 1.35m

昭 33. 9 県総合体育大会
 関口真知子 走高跳 1 位 1.50m

昭 34. 5 県大会
 篠崎 純孝 200m 6 位 25''/3
 〃 400m 2 位 53''/6
 岩網 敏雄 200mH 6 位 28''/1
 関口真知子 80mH 3 位 14''/1
 走高跳 2 位 1.40m
 二田 充子 〃 3 位 1.35m

昭 34. 6 関東大会 (大宮市)
 篠崎 純孝 400m 予選
 〃 200m 予選
 岩網 敏雄 200mH 予選

関口真知子 走高跳 80mH 出場
 二田 充子 走高跳 4 位 1.40m

昭 34. 9 県総合体育大会
 篠崎 純孝 400m 3 位 53''/6
 二田 充子 走高跳 1 位 1.40m

昭 35. 5 県大会
 篠崎 純孝 400m 2 位 53''/1
 二田 充子 走高跳 1 位

昭 35. 6 関東大会 (立川)
 篠崎 純孝 400m 5 位 51''/7
 二田 充子 走高跳 不明

昭 35. 8 全国大会 (神戸市)
 二田 充子 走高跳 6 位 1.50m
 篠崎 純孝 400m 予選

昭 35.10 国体 (熊本水前寺)
 篠崎 純孝 400m 予選 51''/3

昭 36. 5 県大会
 篠崎 純孝 200m 1 位 23''/9
 〃 400m 1 位 52''/7

昭 36. 6 関東大会 (前橋市)
 〃 200m 予選
 〃 400m 5 位 52''/5

昭 36. 8 全国大会 (静岡市)
 篠崎 純高 400m 出場

バレーボールクラブ

バレーボールクラブの発足年月は不明であるが、終戦後であることには間違いない。残念ながら記録がないので記憶によって以下にする。

部の歩みの前半は何といっても女子の活躍期で、昭和26～7年の頃、石井・島田達のチーム、当時HL石井を主力に県大会で準決勝まで勝ち進みベスト4に入り3位の表彰を受けた。その後竹内達 160 cm 台の長身者のチームができて活躍が大いに期待されたが、運に見はなされ晴の大会に駒を進めることができなかった。しかし現在のバレーボールコートは試合を捨ててもコート作り

に専念した当時の汗が滲み込んでいる。彼女達には試合そのものよりも庭隅にあるコートが一番印象に残っているものと思う。昭和31年度以降部員数が少なくリクリエーション的なクラブ活動として現在に至っている。本年度は部員の数も増えかなり練習も積んでいるので、今後の発展を期している。

共学も男生徒が増え中にはバレーボールで放課後遊ぶ生徒もでき、昭和31～2年には同好会的な活動に発展した。34年度県の大会に出場してみようと他クラブより人を借りて参加、木更津高と対戦し1セット各3・4点しか取れないあわれなスコアで大敗した。

昭 34.10 新人戦 1回戦で敗退

昭 35. 5 県大会3回戦に駒を進め関東大会出場権を目前で逸す。

昭 36. 5 県大会 準々決勝で惜敗、ベスト3に入り全日本出場チーム決定戦出場資格を得る。

昭 36. 7 全日本出場決定戦 佐原高と対戦惜敗



進路状況

1. 進学状況

歴史の浅いため先輩等の刺激も少なく、他校に比較して十分誇り得る成績はいまだおさめていない。これは歴史の浅いということも一つの理由であるが、まだ外に沢山の原因もあるようである。資料不足のため創立以来の結果をあげ得ないのは残念であるが、ここ2・3年の結果は次の表の通りである。

年度 合格者種別 学校種別	33			34			35		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
国立大 (法文系)	8	3	11	11	4	15	12	2	14
国立大 (理工系)	2	2	4	0	0	0	0	5	5
公立大	1	0	1	1	1	2	0	0	0
私立大 (法文系)	40	28	68	41	38	79	44	26	70
私立大 (理工系)	11	2	13	17	5	22	9	14	23
短大	11	0	11	1	0	1	4	1	5
各種学校	12	0	12	0	0	0	6	0	6
合計	85	35	120	71	48	119	75	46	121

この表によって本校大多数は、私立大法文系にかたより過ぎているうらみがあり国立大理工系にもう少し成績をあげる必要がある。

なお各学校別の合格者数は次表の通りである。

私立大入学者数

33 年 度			34 年 度			35 年 度		
早 大	6 人		早 大	12 人		早 大	5 人	
慶 大	4 人		慶 大	1 人		中 大	6 人	
立 大	4 人		立 大	9 人		日 大	16 人	
日 大	10 人		日 大	2 人		明 大	14 人	
中 大	9 人		中 大	13 人		立 大	2 人	
明 大	19 人		明 大	16 人		上 大	1 人	
法 大	10 人		法 大	8 人		智 大	1 人	
星 大	2 人		星 大	2 人		芝 大	1 人	
薬 大	41 人		薬 大	1 人		浦 大	1 人	
そ の 他			そ の 他	1 人		そ の 他	57 人	
合 計	105 人		合 計	38 人		合 計	102 人	

国立大学入学者数

33 年 度			34 年 度			35 年 度		
千 大	11 人		千 大	13 人		教 大	1 人	
葉 大	2 人		葉 大	1 人		育 大	1 人	
玉 大	1 人		玉 大	1 人		京 大	13 人	
馬 大	1 人		馬 大	1 人		芸 大	1 人	
新 大	1 人		新 大	1 人		千 大	1 人	
合 計	15 人		合 計	15 人		茨 大	2 人	
						宇 大	1 人	
						学 大	19 人	

2. 就職状況

本校に於ける就職指導がその体をなして来たのは昭和30年度千田教諭の分掌から始まる。

以後、千田・岩本両教諭の努力の上に木島教諭が引継ぎ昭35.36の両年度にわたり組織づけ、事務器具を備えることで能率化を計り、今日に至っている。男女共学とは言いつら、男子は殆んどが進学に、女子の大部分が就職を希望している現況から、今一段の努力と研究——そして志望者へのカウンセリング展開を充実して行なわねばと痛感すると共に先輩各位の御声援をお願いする。

以下に最近3ヶ年間の状況をお知らせする。

就職状況の概況

業 職	33	34	35	お も な 就 職 先
金 融 関 係	15	36	42	日本銀行・三井銀行・三菱銀行・日本勧銀・商工中金・千葉銀行・山一証券 大和証券・日本生命・第一生命他
生 産 関 係	30	38	36	川崎製鉄・古河電工・昭和電工・富士電機・三菱電機・三菱化成・丸善石油 日立精機・山之内製薬・旭特殊硝子他
商 業 関 係	53	41	36	伊藤忠商事・安宅産業・伊藤忠自動車 三越・高島屋・松坂屋・東横・丸善他
運輸通信関係	3	5	20	国鉄・日本通運・関東電気通信局・日本交通公社・帝都高速度営団・京成電鉄他
官公庁・団体	22	14	10	都庁・県庁・市役所他
サービス業その他	20	18	42	美容指導員・タイピスト他
合 計	143 (49)	152 (32)	166 (32)	() は男子人数、なお就職率100%

本校生徒のパーソナリティ

序論——その地獄的背景

木島興左衛門

○ は し が き

1. 本校生徒の通学区推移
2. 自然環境に由来する産業地域
3. 商業活動とその社会的背景
4. 俸給生活者と住宅地域
5. 保護者の構成と家庭環境
6. 本校就職志望者の動向
7. 近代工業地帯造成の後にあるもの

○ あ と が き

○ は し が き

高等学校の進路指導に関係しているの、直接彼等の意見と生活に触れ、また卒業してからの状況を見るに及んで、生徒のパーソナリティ (Personality) について注目するようになった。

習慣は意識して行なわなくとも実行できるもので、身体的、精神的あるいは対社会的等があるが、たとえばいねいな挨拶、にこやかな顔付、おだやかな言葉づかい等という社会的習慣が組み合わされて社交性という習性ができる。それらの習性が一定の仕方では組み合わされ固定すれば、すなわち個人的な行動諸傾向の統一体としてのパーソナリティが形成されると考える。

フロイド流の精神分析の立場からすれば、パーソナリティは幼年期に固定し、一生を通じて変化しないものと考えられている。人間は誕生した時から、対人・対社会関係に入り、学習による社会化が行なわれる。本校生徒のパーソナリティを考察する前提として、彼らの地獄的背景にさかのぼって分析検討する必要ができてきた。

生徒の保護者(両親)、近隣社会に基礎を置く彼らの考

え方、行動の諸傾向が、高校生活3年間に強い影響を受けるが、学校自体が何か特別な心理、行動、意志をもつのではなく、個人の総合と考えることによって形成される筈のものである。同じ観点から、学校の伝統は生徒が創るものであると共に、伝統が個々のパーソナリティを規制するとも見られる。

本校の前身は、市立高女として昭和16年に発足、以後県立移管、男女共学高校として隆盛、創立20年の今日を迎えるがおそらく平行して発展、隆盛をとげつつある千葉市の性格、構造に、深い関連性が見出されるのではなからうか。本校生徒のパーソナリティを規制する重要な因子として、分析、解明しようとする。

千葉市についての統計資料は、本校P・T・A会長である小笹氏(千葉市助役)より提供を受け、先学者のよく掘り下げられた研究業績も豊富にあり、この研究には貴重な便宜を得てきたが、本校生徒のアンケート調査については応答資料が、1年63%、2年60%、3年52%、そのうえ、趣旨不徹底のためか、活用分析が思うように行ない得なかったのは残念であり、(ここにも本校生徒パーソナリティの具体的姿の一つが現われている)遺憾であった。

本研究の結果が、生徒指導、さらに輝かしい伝統育成に貢献できるものであれば幸甚と考える。広く識者の指導助言をお願いすると共に協力いただいた関係各位に厚く謝意を表する次第である。

累年生徒町村別分布

年度別 町村別	S16	17	S25	26	S34	35	町内人口 増 加 率 (S33-35)
市 場	5	1	1	3	3	2	91.8%
亥 鼻	0	4	7	8	6	6	99.2
亀 岡	2	2	0	1	2	2	98.4
葛 城	2	0	4	2	1	1	114.7
千 葉 寺	5	3	3	2	10	3	125.2
青 葉	0	0	0	0	1	0	143.2

年度別 町村別	S16	S17	S25	S26	S34	S35	町内人口 増 加 率 (S33-35)
長 州	10	9	12	9	5	11	95.7%
末 広	2	1	0	1	2	2	112.5
港	1	4	6	3	3	3	97.4
寒 川	6	5	1	5	4	3	98.8
稲 荷	1	1	0	0	0	0	107.6
本	14	2	7	1	5	5	94.4
通	3	0	0	0	0	2	93.0
吾 妻	9	3	10	1	8	6	96.2
本 千 葉	0	0	1	4	1	0	97.8
富 士 見	4	3	4	0	4	1	100.5
栄	4	2	4	4	1	2	99.7
院 内	7	2	7	0	4	3	135.8
要	2	1	2	3	1	1	105.6
祐 光	0	0	1	1	2	0	116.3
道 場 北	5	4	5	2	1	4	124.4
道 場 南	3	3	6	3	1	3	115.6
鶴 沢	0	0	0	0	0	7	140.2
東 本	2	0	1	3	1	2	105.3
亀 井	9	0	0	1	4	1	92.4
旭	1	1	3	2	4	2	107.2
神 明	7	4	5	5	3	3	100.5
新 宿	17	0	2	2	3	3	102.7
新 田	3	1	0	4	1	2	102.1
新 町	4	2	1	4	4	3	103.2
登 戸	7	3	11	8	9	15	104.3
汐 見 丘	0	1	1	2	0	3	106.3
春 日	1	0	3	1	1	3	108.2
緑	0	0	3	1	0	3	103.2
黒 砂	1	1	3	3	8	4	104.4
弁 天	4	1	5	4	9	8	113.4
松 波	1	0	0	6	20	15	112.6
弥 生	0	0	0	1	3	4	111.9
穴 川	2	0	1	2	4	5	119.2
市 内	0	0	7	11	8	8	121.6
旧 小 計	144	64	113	115	145	154	105.7

年度別 町村別	S16	S17	S25	S26	S34	S35	町内人口 増加率 (S33-35)
(大正10年1月1日市制施行)							
検見川	3	6	3	6	6	2	109.5
花園	1	1	2	1	3	4	142.1
浪花	0	0	0	0	0	1	155.6
畑	1	0	1	2	1	0	101.1
稲毛	5	7	16	11	16	16	104.3
稲毛台	0	0	0	0	5	3	(新設)
旧検見川区	10	14	22	20	27	26	111.2
(この区朝日丘町生徒なし, 昭和22.2.11合併)							
椿森	0	6	3	0	8	5	109.9
作草部	3	4	8	7	17	8	114.5
原	1	1	0	1	1	0	55.1
東寺山	1	0	0	0	0	0	103.1
園生	0	2	0	0	2	4	133.9
小仲台	0	0	4	8	9	5	105.4
宮野木	1	1	0	0	2	0	104.0
高都品	2	0	0	0	0	0	104.0
旧都賀計	8	14	15	19	39	23	110.5
(この区源, 愛生, 殿台, 天台, 萩台の各町 なし, 昭12.2.11合併)							
矢作	1	0	0	0	3	2	113.9
都	1	1	2	0	1	0	104.9
貝塚	0	2	2	3	1	3	107.0
加曾利	1	2	1	0	1	3	99.6
桜木	0	0	2	0	0	2	131.4
若都松	0	0	0	0	1	2	95.6
旧都松地計	4	5	7	3	7	12	108.2
(昭12.2.11合併)							
今井	7	5	9	11	18	15	121.3
蘇我	3	4	0	2	4	1	114.7
宮崎	2	1	0	2	2	5	156.9
松ヶ丘	0	0	0	4	5	4	128.0
大森	1	0	3	3	1	2	112.1
大蔵寺	2	1	0	1	1	0	158.4
花輪	0	0	赤井	2	0	0	94.8
旧蘇我計	15	11	12	25	31	28	122.5

(この区川崎町は居住者なし昭12.2.11合併)							
大宮	2	2	3	0	0	0	99.9
仁戸名	0	0	0	0	2	1	137.3
小倉	0	0	2	0	0	0	101.8
坂月	0	0	0	0	2	0	101.6
大草	0	0	2	0	0	0	99.4
金親	0	0	1	1	0	0	104.8
星久喜	0	1	0	1	2	0	120.1
旧千城計	2	3	8	2	6	1	115.6
(この区川戸, 太田町にはなし 昭19.2.11合併)							
幕張	0	11	5	4	11	12	107.9
武石	0	0	1	1	3	1	107.8
長作	0	0	1	0	0	1	107.6
旧幕張計	0	11	7	5	14	14	107.7
(この区天戸町なし, 昭29.7.1.合併)							
轆橋	0	0	0	0	2	1	99.9
花島	0	0	0	0	0	1	99.5
柏井	0	0	1	0	0	0	101.5
横戸	0	0	0	0	0	0	103.4
宇那谷	0	0	0	1	0	0	100.5
長沼	0	0	1	0	0	0	104.9
長沼原	0	0	2	0	2	1	103.6
旧轆橋計	0	0	4	1	4	3	103.3
(区内小深, 千種, 三角, 六方, 山王, 内山, 大日の各町なし, 昭29.7.1.合併)							
浜野	3	2	2	3	3	0	102.4
村田	0	0	0	0	0	2	122.1
生実	0	0	1	0	0	0	114.2
塩田	0	0	2	0	0	0	120.9
南生実	0	0	0	0	2	2	90.1
旧生浜計	3	2	5	3	5	4	104.0
(この区有吉町なし 昭30.2.11.合併)							
刈田子	0	0	0	0	1	0	104.1
椎名崎	0	0	0	1	0	0	48.9
古市場	0	0	0	1	0	0	90.1
旧椎名計	0	0	0	2	1	0	96.8
(区内. 有吉, 茂呂, 中西, 落井, 大金沢, 小							

金沢各町なし 昭30.2.11合併)							
誉田	2	0	1	4	2	6	107.6
辺田	0	0	0	1	1	1	90.3
平山	0	0	1	0	1	0	180.6
高田	0	0	1	1	0	0	99.9
平川	0	0	1	0	0	1	99.8
鎌取	0	0	0	2	0	0	124.5
旧誉田地計	2	0	4	8	4	8	104.3
(この区東山科町なし 昭30.2.11合併)							
新市域計	42	62	84	85	138	119	
小千葉	0	0	7	4	2	6	
八千代	0	0	0	0	0	1	
印旛郡	1	1	4	10	9	16	
四街道市	1	0	0	0	1	2	
佐倉市	1	5	6	8	12	17	
市原市	0	3	5	8	11	7	
市五井	4	3	5	5	1	1	
市姉崎	0	0	2	0	0	5	
市三和	2	2	7	7	2	2	
市津	7	9	4	5	10	1	
習志野市	1	1	4	4	1	0	
山武郡	2	10	6	7	0	0	
土気町	2	6	1	2	0	0	
船橋市	21	40	51	60	49	58	
市外学区計	6	15	8	11	6	7	
市内東部	213	181	256	271	338	335	
市の合計							
学区内の競合均衡							
年度	地区	S16	S17	S25	S26	S34	S35
旧市内		69.5	37.7	42.1	41.1	43.1	47.0
新市内		16.8	34.7	35.0	33.5	41.0	36.7
市外学区		7.1	13.2	17.1	17.7	14.3	5.1
その他		6.6	14.9	5.8	6.4	1.6	1.2

(注) 各年度内縦の合計比率を見る。戦前の疎開、戦後の人口移住、特に新市域の拡充が著しい。

1. 本校生徒の通学区の推移

パースナリティ形成の基礎となる地背景について検討をするに当って、まずその範囲を考察しなければならない。調査を始めたのは昭和35年の秋であったので、昭和35年度入学1年生、同34年度入学2年生、同33年度入学3年生、を主要な対象として考えてある。

通学区の変動についてさかのぼって、昭和25年度と昭和26年度については、男女共学の実施された年次であるが、別に一定の男女比率、定員数について規制はないので、分布統計に支障はないと考え、調査対象に加えた。更に卒業生台帳を利用して、創立当初の昭和16、17年度入学生について、当時の現住所を当り、分布考察の資とした。

生徒分布の状況を見るに、地域的に近接し、人口密度の高い旧市内に平均45%内外が集中しているのは、極めて当然であるが、内容を徹細に検討し町別の分布を見ると、行政・商業のセンターは減少傾向にあり、新市域に接する周辺部が増加しつつあることが明白である。新市域は、後述するような特定住宅地域に増加が著しく、在来の農漁村地域は、殆んど変らない。市外隣接の市原郡下沿海町村、印旛郡四街道からの増加も目立ってきた。戦災による住宅疎開に伴う遠距離通学生は、直後に見られた変態的現象で、昭和23～4年を頂点にして順次減少現在では保護者の転勤による一家転住など止むを得ない特殊事情のものに限られてきた。

本校の通学区は、教育委員会規則（昭和35年11月22日改正）の別表に従う第1学区に属し、第3条1項ただし書き前半の意を受けて、隣接する市町村をも通学区としている。しかし、通学生徒の分布表に見るよう、南部および東部に伸長が著しく、北および西部方面は振わない。（旧市内の分布は北、西部、に重心が移りつつあるのだが）。これは、隣接高等学校（普通科）との競り合いおよび接続する交通機関の系統によるものであろう。

このような意味から昭和33年度新設の市立高校は、本校に最も関係深いものとして、十分の関心をもち続けねばならないと考える。

新市内地域の町で生徒が分布しないものがあり、目立った陥没区を示しているのは、当該町域の面積の割に人口が少ない理由からで、例えば旧都賀地区の天台・愛生・殿台町、旧橋地区の六方・山王・内山・大日の各町はそれぞれ戸数20～30戸、人口は200人に満たない畑農業地域である。これに対し、新旧の市域について生徒1人当りを支える比率を算定、表示して見た。これによると例えば蘇我地区80人の生徒は平均77戸に1人の割であり、337人の地域社会人の期待がかけられているのであって、まさしく地域の中堅的存在として活動すべく、努力を積み重ねねばならぬ者と解さねばならない。

以下参考にして、新、旧、市域隣接町村の行政区劃および交通機関系統を織り込んだ図表に、昭和36年度1年生の分布をdotして、学区展望のまとめにしようと思う。これら各地域の産業構成その他パースナリティ形成の因子を探りつつ、次節以後の展開を考えようと思う。

2. 自然環境に由来する産業地域

千葉市周辺の地形は、洪積世の下総台地と沖積層である都川、花見川谷底低地と袖ヶ浦沿海低地とから成っている。関東平野の造盆地構造の南東辺に当たる台地は、南東に高く北西に傾きながら波状に起伏して、海岸に向っている。誉田2丁目、平川町付近で60m、東方若松町で35mが最も高く、仁戸名・東寺山町で30m、更に海岸に寄って松波町24mとなる。黒砂、稲毛付近は10数mの海蝕崖となって終る。市内高田町に発して寒川町に海に注ぐ都川は、支流をあわせて樹枝状に台地を刻み、地表を複雑にくまどる一方、かなり広い谷底平野、砂州デルタを形成、内湾の上昇陸化と並行して低地帯を形成しつつある。赤褐色の関東ローム層を載せたこれら洪積台地は、地下水位の点で畑地農業、その下位、砂質土壌の低湿地帯は水田農業、その前面にあたる臨海地域には漁

業、特に干潮時には1.5～2.0kmの沖合にまで続く砂質遠浅海岸には、ノリ、貝類を主にする養殖漁業が盛んである。台地の後背部は雑木林であったが、針葉樹を主にする林業が立地し、概ね原始産業が優位卓越した景観を見せている。

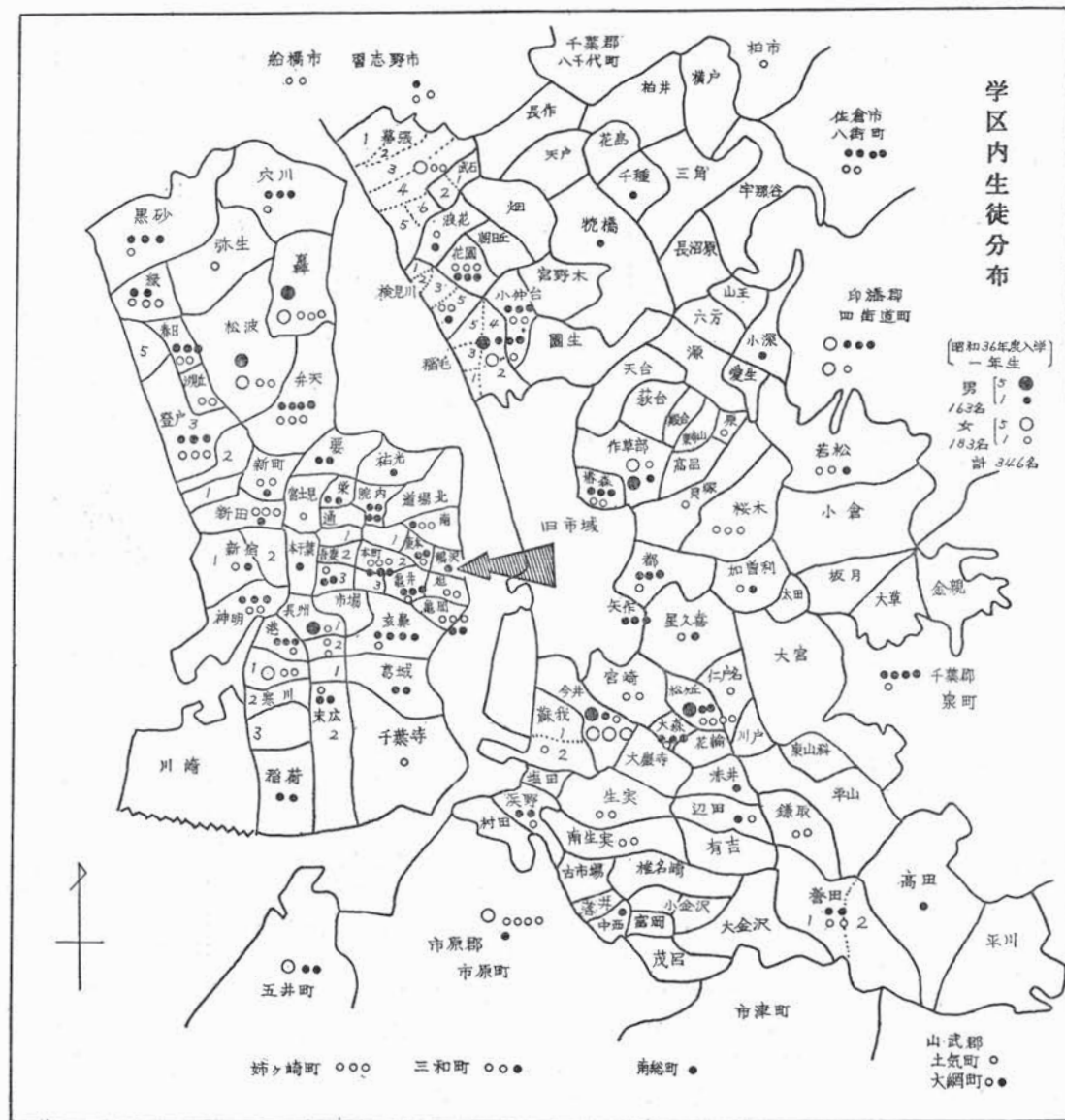
江戸時代までに低地は開田されたので、起源は古く中期以後に台地上の入会地が開拓され、畑地農業が展開して来た。本校生徒のアンケートによると、泉町Y家は現在で当主は4代目、検見川のA家は文久年間草分けとの応答を寄せ、少なくとも約100年以前に遡ることができる。市内の統計により農業についての概況を述べると、約7,200世帯、（全世帯類の15.4%）耕地面積は5,517ha（内水田34%）で、1戸り平均7反6畝ということになる。旧市内、検見川、蘇我地区は水田を主に3反程度の小規模一兼業化が進んでおり、旧特橋地区が1町7反の平均で、畑農業を主とし専業経営が多い。

生活水準の細部にわたっての調査結果は記し難いが、高校に子弟を学ばし得る階層はこれら農村地域では平均耕作反数を上まわり、中堅の上に位するリーダーと考えてよい。しかし付表で見られるように、工業地帯の造成住宅地域の拡大に反比例する耕作地の減反傾向に対処して、農業独自の経営から兼業化に向かいつつあり、農業を廃してサラリーマン化を考え変容しつつある。

習志野市東部には酪農・養鶏の例を見るが、自給主穀農業から近郊式営農へと進む農業発展の前兆と見るより、需要増加に刺戟されての一時的な灯火のゆらめきであって、早急に消え去ることになるだろう。漁業特にノリ養殖は、第一次大戦後の不況による副業化の動きの一環として、大正末より昭和初期に始まったのであるが、同じ今次大戦後の埋立・工業地化の波により漁場が狭くなり、加えて沿岸漁業の不振から、補償金と転業について計画に悩まなければならぬ段階にきている。台地背後に立地する林業は市内誉田町付近に散在するが、開発の波には抗し得ない。

総じてこれら原始産業はかつて市内に卓越していたが

分布图



、衰勢の一途を辿り残象を点在させている斜陽状況下にある。市原・五井・市津・四街道の各地ではややまとまった数字を示しているが、これとても当該地域の30%に満たず、本校生徒の大勢から徴すると全体の1割強で、一般に素質はあるが指導的役割をもち得ない。しかし当該地区のエリートであり、Gemeinschaftの特性をもち同郷意識は濃厚である。地域や汽車通学を通じて、他校生徒との接触が容易に行なわれている傾向が見受けられる。

原始産業部門での統計資料

1. 全体に占める比率

	農	牧	林	漁	計	比率
35年度入学生(1年)	36	4	1	1	42	12.4%
34年度入学生(2年)	33	0	1	3	37	10.8%
33年度入学生(3年)	27	1	1	3	32	9.7%

$$\left(\text{市内} \frac{\text{農家戸数}}{\text{総戸数}} = \frac{7,176}{57,951} = 12.4\% \right)$$

2. 町別分布状

旧市内 4	東本町, 道場北, 千葉寺 2
新市内 38	旧検見川地区 4 旧都賀地区 8 旧都地区 9 旧蘇我地区 2 旧千城地区 2 旧幕張地区 1 旧贄橋地区 5 旧生浜地区 3 旧椎名地区 0 旧誉田地区 4
市外学区内 67	市原郡市原町11 五井町 9 〃 市津町 6 三和町 5 千葉郡泉町 8 印旛郡 6 四街道町 習志野市 3 その他28

3. 開始年度

明治以前	殆んど大半
昭和初期	5
戦後20年代前半	9
〃 後半	7

* 印について本籍地の分類

長野県より	4
香川県より	2
愛知県より	2
山梨県より	2
都内より	2
県内郡部	8

4. 市内農家の兼業化傾向

	専業農家数	第一種兼業	第二種兼業
昭和30年度	2,708	1,890	2,710
昭和32年度	2,646	2,118	2,483
昭和34年度	2,598	2,282	2,296
変動率	-4%	+17%	-15%

3. 商業活動とその社会的背景

自然環境に直接立地する原始産業に対して、商業、手工業は道路を発展の契機として伸張する。都川に沿う東金街道、内湾沿岸を縫う木更津街道の交叉点は、千葉市から大網へと半島を横断する大網街道を加えて流通交換の主要結節点であり、市場町の起源をなした。延享3年(1746)以降、佐倉藩の物資積み出しに当って、佐倉街道に沿う道場町本町、更に寒川、登戸の港が水陸交通の仲継地として栄えるに至る。旧ロータリーを直進すると、千葉街道は船橋を経て江戸に通じた訳で、これら街道筋は宿場町的繁栄を示し、周辺農村地域からの出稼ぎ、兼業・専業化が行なわれていた。

明治6年(1873)県庁設置、その職員数1,700人、次いで地方裁・師範学校・医大・病院など官公庁が続々と設けられて、これらの消費に誘因され、又明治32年(1899)総武線の開通、順次東・西線の連絡ができたことによって決定的な変化が起った。以前は、県内物資の集散、東京との取引一括などの事情から卸問屋が多く、旅館・運送業者等が軒を並べていたが、状況の変化から官庁相手の大口取引、或いは個人消費のための小売商業に転落せざるを得ず、料理、飲食店などの増加なども目立つよう

になった。

その後大正8年(1919)京成電鉄の開通、昭和10年千葉一御茶ノ水間電化に伴って東京への時間距離が短縮され、大量の高級消費は直接東京に発注され、東京からの移入者を迎えた郊外住宅地の日常消費に支えを見出す小売商業政策に変容せざるを得なかった。

昭和33年7月の調査で、市内商店舗数は3,603、内89.5%が小売業で占められ、飲食店555、菓子、パン店493で最高、酒・調味料関係が229で3位にあり、千葉市商業の性格を明らかにしている。個々商店の経営実態その持続性について調査言及することは控えたいが、概して同業者が多過ぎ、一商店に対する消費世帯数が少なく、売り上げは均等化しないのではないが、旧市内の商店は地の利と伝統に分があり、市内・郡部から顧客を集め得るし、住宅地帯を後背に控える通勤路線ターミナル周辺商店は、将来の需要増加に期待がもてよう。

元来、千葉市の本体は商業であったと考える。自由競争を通じて新しい需要にとびついてゆく商業経営、(ここでは無理に触れないが、戦前千葉市周辺は内地第一の軍郷で、カーキ色の制服がもてた時代もあった)。資本・宣伝・サービス等の実力がもの云う実態が生徒の背景にあり、学校に反映してはいないだろうか。

商業についての統計資料

1. 全体に占める比率

	商	サービス業	手工業	医師	計	比率%
35年入学一年生	45	19	5	1	70	20.7
34年入学二年生	46	17	4	5	72	21.0
33年入学三年生	42	17	6	2	67	20.4

生徒の資料分析に当って、千葉市の商業を地域的、年次的に便宜上の分類を行ない、A～Fに区分、その内容を付表に掲げた。移住開業の年次を調査するについて、千葉市が戦災都市であり一時的に近郊に疎開し、改めて昭和23～25年頃本格的に新築復興を見ているので、この傾

2. アンケートによる分析

地域分類	町別分布	業 種 内 容	移住開業年次 及 本 籍 地
A. 明治以前からの繁栄地……計(49)			
市 場 町	4	薬局, 食堂, 飲食店, トーフ屋	
吾 妻 町	12	飲食3, 料理店菓子, 酒, 美容院, 文具2, 生花, 洋品2	M 5 県内 31
本 町	11	洋服2, 洋品2, 服飾, 仕出し, 食料品, 文房具, 雑貨, 自転車	T 18 県内 7 S 前 12 都内 3
長 州 町	9	食料品, 米穀, 染物, 塗装, 化粧, 木材, 建材, 生花, 自転車	S 後 13 他県 5
道 場 北	5	洋服, 建材, 飲食, 文具, 建具	
神明, 港	7	旅館, マッサージ, 自転車, 貨船, 運送, 飲食, 洋品	
B. 明治以降官公庁関係……計(28)			
東本, 旭	3	和楽器, 薬局2	
亀 井 岡	6	雑貨, 袋物, 米穀, クリーニング, 塗装, 建具	M 4 市内 16
亥 鼻	6	乾物, 鮮魚2, 旅館, クリーニング, 燃料	T 6 県内 5
末 千 葉 寺	8	薬局, 理髪, 薬局, 雑貨, 燃料, 食料2, 質店	S 前 8 郡内 3 S 後 10 他県 4
新 宿 町	5	古物, 運送, 旅館, カメラ, 食料	
C. 千葉駅ターミナル関係……計(24)			
院内, 通 祐	10	飲食3, 衣類2, 靴, 酒場, 家具, ポンプ	M 2 市内 9 T 3 県内 18
米, 要町	6	洋服, 染物, 薬局, 美容, 質, 飲食	S 前 8 郡内 11
弁 天 森	5	建材, 薪炭2, 食品, 際物	S 後 10 他県 3

富士見町	3	美容, 菓子, テントシート	
D. 沿線住宅地関係……計(37)			
西千葉駅付 近	13	家具, 雑貨, 飲食2, 旅館, 食料3, 鮮魚, アパート経営, 菓子製造, 新聞店2	M 2 市内 5
登戸付近	12	洋服, ガラス, 鮮魚, 浴場, 理髪	T 6 県内 18
稲 毛 駅 付 近	12	薬局, 印刷, 雑貨2, 燃料2, 質, 靴, 菓子, 建材, 家具, 新聞	S 前 6 郡内 11 S 後 23 他県 3
検見川駅付 近	2	食料品, 自転車	
幕張駅付 近	7	古物, 衣料, 木材, 金物, 文具	
E. 新市域 農村センター商業地……計(18)			
宇那谷1(酒) 桜木2(青果, 飲食) 村田1(飲食)			
松ヶ丘1(薬局) 浜野1(呉服)			
蘇 我3(薬局, 精米, 自転車)			
今 井9(飲食2, 薬局, マッサージ, クリーニング, 燃料, 食品, 菓子, 鮮魚)			
F. 学区内その町村関係……計(31)			
四街道9, 五井5, 姉崎1, 市原1, 市津1, 泉町1, 八街2, 実籾1, 三和2, 津田沼1, 船橋3			

(注) 図表中の記号 M=明治年間或はそれ以前
T=大正
S前=昭和戦前, 後は戦後
E・F地域の分析は省略した

向の見透しについては、やや見かけの上での水増しが加わっていると考えなければならない。A, B地区では戦後の進出, 実質経営者の新陳代謝が行われているが, 出身地についての組織系統は分析に至らなかったが, 概して新旧市内の出身が過半を占め, 明らかに明治以降の農商分離, 專業独立化が見られる。

これら商業と同じ発展過程を歩んできたものに手職の

工業(例えば井戸掘り, ブリキ職, 建具屋, 鍛冶屋, 袋物加工, 等)が散在する。知的エリートに属するが, 医師(含歯科, 獣医)が同型の分布を示しているの、ここに加えてある。

旧市内に多く, 学校に近接しているという意味で地元っ子である20%の本校比率は, 先に記した千葉市の商業活動の状況を反映して, 本校における庶民的エネルギーであり, 隠然たる影響力を内包していると考えて良い。密集度の高い地域なので学校外勢力との結びつきも(景気, 流行, マスコミの導入などについて)本校の先端に位するので, 学校がいかに組織づけ, 伸張を計るかは大きな課題となる。

4. 俸給生活者とその宅住地域

前節でも一部述べたように, 千葉市発展の核心は商業活動にあるが, それらを支えるものが消費者であり, 一般に俸給生活者であることは言うまでもない。県庁開設に伴う諸官公庁に關係する人々の住宅地は, 通勤(昔時は徒歩)の便を考えて既存商店街の背後に位置する低地を埋め立て, 更に背奥の台地を拓いて発展して行くので, この過程については今日, 身近に展開している状況と原理は同じである。亥鼻, 矢作, 葛城の各町より始まって本町通り東側の区域は, この意味から古い明治以降の住宅地と見ることが出来る。富士見・新宿・登戸は京成電鉄, 椿森・弁天町付近は大正以降の国電による通勤者の住宅地として外延的拡大をしたものであろう。

これら旧市街地(商店街と住宅地)は太平洋戦争の末期, 一朝にして焼土と化した。昭和20年6月, 7月の再度にわたり罹災戸数9,447(70%)を数え, 都川より千葉駅うら丘陵地にかけての中心部大半が損失, 本校もそれら罹災施設の一つとして挙げられる。戦後住宅復興はまず解決を図るべき重要急務で, 県市住宅営団が主体となって規格簡易バラックが急速に建設され, 昭和25年1月には88%の復旧を見るようになったが, それらを母胎として民間での新築, 増改築が年を追って盛大に展開,

今日見るような集団住宅地が各所に誕生した。これが路線定期バスの伸展と相まって、加えるに同種罹災都市東京の外延的拡張と補完し合って、急激な市内の人口重心移動現象を呈することになった。

本校生徒の分布を示す図表の右に掲げた増加比率は、この間の状況を伝えるものである。すなわち、旧日立航空機会社々宅を起源にもつ蘇我・大森・今井町は、施設および埋立地を継承した川崎製鉄株式会社の同種社宅地として異常な発展ぶりを示して居り、旧軍関係施設跡の安い国有地を利用した本校付近の轟、作草部団地の他、京成電鉄より遅れて電化した上、麦畑の台地上を通過する国電沿線により多くの開発住宅地、小仲台・稲毛台・花園・松波の各町、バス路線に立地する大蔵寺、仁戸名松ヶ丘・星久喜・桜木町の一画など戦前ほとんど無居住域地であったものが一躍住宅地化し、学校・商業地もそれらに吸引される状況にあり、逆に旧来の官公庁街・商業・娯楽の盛り場地域はいよいよ機能分化して求心的集中と、挟み出された居住人口は逆に遠心的拡散を起しつつある。

本校生徒のアンケート分析を通して見ると、このような一般傾向を裏付けすることは可能で、特に現住所の分類整理を省いたが、以上の概説によって推察いただきたい。また移住年次が概して新しいが、どこに勤務するかによって性格が明確に実証できたのは意表外のことである。統計資料の示すところの要約は俸給生活者の子弟が60%であり、その過半が千葉市以外からの出身者であるばかりでなく、市内居住も戦後のことに属するわけで、その結果極言するならば、保護者の勤務先やその所在がより強い因子として家族を制約するので、一般に Ges s lschaft 的性格をもち、住宅地は地域的な先輩、後輩の連絡も薄く、第一節に掲げた市原郡下の農業地域と全く対照的である。

例えば就職する場合は縁故が利きそうであるし、男子はでき得れば上級進学を必至と考えており、本校通学は便宜的なものとししか考えていないのではないか。後節に

及んで分析を展開することになるが、保護者の学歴がこの傾向にいつその比重を加えることになる。これら諸傾向を総合してパースナリティに言及すると、彼等60%は本校での知的エリート階級を形成しているが、エゴイスティックであり、学校での集団活動には無関心・批判的と言えるのではなかろうか。このような状況は、隣接する市川・船橋・習志野・松戸の各市一首都圏下におけるベッドタウン群—共通の現象であり、何らかの方向づけを必要とする。

俸給生活者についての統計・資料

1. 学校内で占める割合

年次 種別	S35年 一年生	S34年 二年生	S33年 三年生	俸給生活者 中の計及び 比率
教職関係	18	11	18	計227 32.2%
県職員	22	17	13	
市職員	4	6	6	
国家公務員	39	35	38	
国鉄職員	22	22	18	計 96 15.2%
通信関係	7	11	16	
(小計)	112	102	109	
団体役員	5	6	8	計 27 4.4%
金融機関	8	8	11	
川鉄	11	26	25	計 69 11.3%
市内生産会社	10	8	11	
郡内生産会社	22	29	20	
市内商社	7	8	11	計 69 11.3%
都内商社	24	29	20	
(小計)	87	103	97	
総計	199	205	206	
学年内比率	58.5%	60.2%	62.7%	

2. 地域、年次構成

A. 県庁	52	戦前	22	{	市内出身	10
		戦後	24		県内郡部	18
		S30年代	6		都内	6
					他県	18
B. 県警	13	{				
		市内出身 1				
		他は県内郡部、特に印旛郡出身が多い、				
		他県 2 (栃木, 群馬)				
{						
移住は全部が20年代の後半である						
C. 国鉄	40	昭和初期	10	{	市内出身	14
		昭和20年代前半	17		県内出身	16
		昭和20年代後半	5		郡内出身	3
		昭和30年代	8		他県出身	7
(福島県が3で多い)						
D. 川崎製鉄	46	引続き雇用された	11	{	市内	5
		昭和 24 ~ 27	13		県内	2
		昭和 28 ~ 29	7		郡内	8
		昭和 30 ~ 33	7		他県	28*
		昭和34年以降	8			

* 印内訳 { 鹿児島 4, 広島 5, 兵庫 5, 秋田 2, 岐阜 2
他九州地区 6, 他中国地方 3, 栃木 1, 静岡 1

3. 国家公務員の種別

財務局	2	農試	3	医大	8	専売社	2	職安	1
地方財	4	保健	5	生研	4	自衛隊	4	都庁	7
地理院	3	放射研	5	千葉大	4	アルコ	6	計	45

5. 保護者の構成と家庭環境

生徒のパースナリティに関係ある地域的背景については前節までで類型を分け、分析考察を一応終えたわけであるが、さらに問題の趣旨からいま一步追求して、保護者の構成(これはP.T.Aのパースナリティに通ずる)が影響力大と考えられるので採り上げて見た。各学年ともほとんど類似の均衡にあるので、ここには昭和36年度1年生をその指標として統計資料にし、結果について別表を掲げる。表中には10名の手職業者、および団体役員7名および不詳のもの若干があるが、意識的に洩らすことにした。

保護者(父親)の構成についての統計資料

業 種 (総 計)	年令別()内 は 父 死 別 し て 母	学歴別	生徒の続柄
農, 水, 林, 牧 (32)	最低42才 1		独り子 1
	44まで 14(1)	小 24	長男 5 女10
	45~49 8	中 6	次男 2 女 2
	50~54 3	専 2	三男 3 女 4
	55~59 3	大 0	四男 2 女 1
商業・サ ービス業 (63)	60台 2		五男 0 女 1
	最高63才1		七男 1 女 1
	最低39才1	小 31	独り子 2
	40~44 21(5)	中 18	長男18 女14
	45~49 15(3)	専 12	次男 9 女 7
自 由 業 (5)	50~54 12(2)	大 2	三男 5 女 4
	55~59 9(1)		四男 1 女 3
	60台 4		五女 1
	最高63 1		六男 1
	40台 3	専 2	長男 1
教 職 者 (11)	50台 2	大 3	次男 1 女 1
	40~44 5(1)		三男 1 女 1
	45~49 2	専 4	独り子 2
	50~54 4	大 7	長男 5 女 2
			次男 1 女 2
公 務 員 (79)			三女 1
	最低40才 1	小 25	独り子 4
	40~40 20(4)	中 27	長男23 女17
	45~49 26(1)	専 17	次男11 女12
	50~54 22	大 10	三男 3 女 7
会 社 員 (121)	55~59 6		四男 3 女 1
	60才 3		六女 1
	最高61 1		七女 1
	最低38 2(1)	小 33	独り子 9
	39 4(1)		長男33 女31
	40~44 28		次男15 女16

会 社 員 (121)	45~49 41(2)	中 36	三男 7 女10
	50~54 21	専 35	四男 2 女 3
	55~59 21	大 17	五女 3
	60台 3		六女 1
	最高63 1		
無 職 者 (13)	(全部母親)		長男 2 女 2
	最低 38才 1	小 6	三男 2
	40~44 2	中 5	四女 3
	45~49 4		五女 1
	50~54 2		六男 1 女 1
	55以上 3		1
	最高61 1		

本校生徒に長男、長女の多いのは、本校に限らず一般的な現象であるが、各業種にわたって全体の $\frac{1}{2}$ を占め、次男、次女が $\frac{1}{3}$ を越え、その他は $\frac{1}{6}$ で少なく、これは家族の人口構成の原則に従って適正である。しかし産業種別によっては、元来男女の比率はほとんど同数であるにかかわらず多少の相異を示している。すなわち原始産業部門では、長男に比し家業を継ぐ必要のない長女が2倍も多く、また次、3男との比率も同列にあり、教員、公務員の場合は男についての教育熱が高く、長女進学の数に3割方低下を示している。商業、サービス業は上記二者の中間をゆく型で、長男と次、3男の比は同数、また女子についても男子の8割弱の進学率を示している。保護者はほとんど父親で、その年令については著しい特色は見当たらないが、農業には比較的若く、商業はそれに次ぎ、公務員、会社員の順で高まってゆく、平均の年令は48.4才というところである。ここで注意すべきは、父親を失い、保護者に母親を届け出ている数である。総計346名中35名で一割弱が片親であり、この未亡人中有職者は22名(62.8%)にあたり、特に商業および会社員の業種に多く、公務員、教員に少ないのは意外であった。最後に掲げた無職はさすがに全部が母親としての保護者でおそらく、年長子弟の収入や、故人の残したもので生活

を支えているのであろう。学歴別については簡単に示したが、当然のことながら、公務員、会社員、教員、自由業者の順に高くなっている。このことが保護者の平均年令を高めていることは、言及するまでもない。

これまで分析、展開して考察を加えた資料の整理の意味で、これら地域的、職業的、経済的、社会的諸因子の総合指標として、家族員数と建坪、(畳数)との関係を調査した。これについては、昭和36年度3年生の就職志望者につきデーターがあったので利用したが、おそらく進学志望のそれについては、やや上廻る結果が出るものと予測される。住居の陽当り具合、通気採光の程度、同居家族に対し占め得る空間の広さ、等は健康と密接につながり、さらには心的発達に対し影響がないとは言えない。戦前に比して戦後は、特に住宅事情が相当悪いと言われるが、このことが生徒の読字、書字、計数などの具体的能力、より高次の抽象的思考能力に強く働きかける規定因子であることは疑うべくもない。本年(36年度)六月に発表された本校数学科の学習に関するアンケート結果は明らかに欠陥を露呈している。

また、教育にあたって問題の生徒となり易い家庭環境上の因子は、独り子、末っ子、おばあさん子であり、本校の場合、そのような状況下にあるものは若干を数えるが、表面には現われてこない。テレビ(ラジオを含む)の普及について調査の結果、学習に利用したことのあるものは全体の26.5%にあたるが、実際に活用しつつあるものは、やっと2.9%に過ぎない。

以上のように、保護者の構成、ならびに家庭環境について考えてきたが、これを大別すると、学習や人格完成について過剰の環境と、過少環境とであり、前者は商業、会社員の場合、後者は農業と公務員の子弟の場合とに一応ケースを分けてみられるが、より根本を追求する確実なデーターがないのでここでは言及するをさけたい。要するに学習とは真似ること——模倣であるから、この混然とした学校社会にあって、生徒自身の個々が、どのような計画性を持ち、いかに意識的な環境利用をやって

のけ、内的な成長をとげるかが問題であり、そのような われると考える。
過程の中で、はじめて教育的な指導と助言が生きて行な

家庭環境についての資料
家族人員と建坪との関係（S35年度就職者165名のカード調査）

業種	家族人員	特殊状況	住宅坪数	1人当平均量数	業種	家族人員	特殊状況	住宅坪数	1人当平均量数
1 農業 (20世帯例)	4以下 2 5~7 11 8以上 7 平均 6.0	独り子 2 父死別 1 祖母を含む 5	15坪以下 0 15~19 2 20~24 5 25~29 2 30以上 11 平均 27.5	4.58坪 (6畳)	3 公務員	4以下 11 5~7 29 8以上 7 平均 6.1	独り子 3 父死別 2 祖母を含む 8	10坪以下 2 10~14 10 15~19 14 20~24 14 25~29 2 30坪以上 5 平均 19.5	3.20坪 (3.8畳)
2 商業 (44世帯例)	4以下 8 5~7 24 8以上 12 平均 6.5	独り子 0 父死別 3 祖母を含む 5	10坪以下 2 10~14 7 15~19 15 20~24 8 25~29 5 30坪以上 7 平均 23.7	3.63坪 (2.8畳)	4 社会社員	4以下 8 5~7 38 8以上 8 平均 6.5	独り子 2 父死別 2 祖母を含む 8 祖父を含む 2	10坪以下 5 11~14 14 15~19 18 20~24 12 25~29 2 30坪以上 5 平均 17.2	2.80坪 (3.4畳)

注 1人当り平均坪数を得たのち、住居量数を割り出した。坪数に対し、農業5割、商業4割、俸給生活者6割として算定。

学習についてのアンケート（S35年度 本校数学科調査資料）

勉強がやれない、または、やらない理由	1 年		2 年		3 年		男計	女計	総計
	男	女	男	女	男	女			
きまった勉強場所がなく、落着いて勉強ができない	0.9	0.7	1.1	0.8	2.9	0.7	1.5	0.8	1.1
まわりがさわがしくて勉強ができない	3.1	3.3	2.5	2.1	5.8	5.3	3.5	3.4	3.5
家事の手伝いで勉強ができない	0.6	1.9	2.8	1.2	1.0	1.4	0.6	1.5	1.1
クラブ活動のえいきょうで	8.7	3.5	4.7	0.4	1.0	1.7	5.3	1.8	3.4
数学がきらいだから	5.3	11.0	7.8	10.5	10.7	10.6	7.6	11.1	9.6
他の興味のため、数学の勉強時間をつぶしてしまう	28.0	22.5	24.8	20.5	18.0	21.5	24.5	22.2	23.2
ついなまけてしまう(勉強時間があっても)	35.6	33.8	34.5	31.4	27.2	33.8	33.3	34.0	33.8
学校の授業がわからないから	3.1	4.5	6.7	5.6	7.3	9.9	5.6	6.5	6.1
適当な指導者がいないから(自宅学習の際)	5.0	7.5	5.0	7.4	1.9	6.6	4.3	7.6	6.1
適当な参考書がないから	2.8	4.2	1.7	2.7	0.5	0.7	1.8	2.8	2.4
大学入試科目に数学がないから	0.6	0.2	2.2	3.1	14.5	3.0	4.5	2.2	3.2
その他	6.2	7.3	8.4	3.9	9.4	5.0	7.8	5.6	6.5

(備考) 5つ以内の項目をえらばせ、理由総延数の百分率である。

6. 本校就職志望生徒の動向

戦後の社会に目立つ現象として、女性の職場進出が一つの事例として挙げられる。戦時中の男子人員不足を補い、男女平等の経済的裏付けを保障するには必然の姿でデモクラシー倫理の実践には不可欠の要件である。この数年来の傾向では、高校卒業者の中で家庭に留まろうとするものは皆無、とにかく就職を志すものが進学者を除く全員であり、本校の場合、男子の20%、女子の85%は順調な経済成長の波に乗り、100% 先遂に近い就職率を示してきた。これら就職志望者の家庭状況は、前節の附表で示したように各種の地域、職業に分かれ、特に挙げる傾向というものは見当たらないが、農業・商業・サービス業など、独立するまでに見習い経歴を必要とするものの長男は止むを得ないが、その他の階層に属する女子がこれに該当する。さすがに男子は、父親の深慮から成績についての制約を受けない限り進学を志し、現役で4割1~2年の浪人生活後一応の目的達成をみる状況にある。就職志望生徒の就職事由は貧困であり、志望内容についても、確実に永続性ある一流会社(できるだけ東京)での事務職種を願う、きわめて安易な、消極的、他律依存性のみ強く目立って、就職係当事者としていささか残念な気がする。

これは生徒自身の脱皮、そのように導く指導性の問題にもふれるが、要はこれまで分析、検討を加えてきた地域社会の特性と、保護者の構成に由来するもので、小市民的性格がまざまざと現われていると感ずるのは筆者の浅見であろうか。就職してからの動向をみるに、商業(小売・卸売店およびデパート)金融・商事会社は年長になるに至って敬遠されがちで退職が増加し、かわって公務員、(中には国立病院・大学の事務職・看護婦・電々公社関係も含まれる)および教員(幼稚園の保母を含む)が増加の比重大である。おそらく一応上級学校に進学、その後の就職であろう。今後は男子卒業生の職場進出が、各産業界にくさびを打ち込んでゆくから、配置状況

はより固定化され、充実したものになろう。その場合、飛躍の前提として自律的、積極的な心構え、いわゆる開拓者精神（frontia-Spirit）を身につけるべく、地域社会と学校が一体となって想をこらし、養成に努めなければならない。

さかのぼって5期にわたり1,300人の卒業生中、東京をはじめ西南日本の各地に散在、北は札幌に及ぶ本校の外延的拡大は実質199名（13%）にあたるが、職場を通じての進出、定着と言うより、人事交渉の範囲拡張の結果、配偶者を得て転居したものが大多数を占める状況である。しかし反対に根拠の千葉市域が進出企業に付随する他県の従業員と、県内郡部より侵入する知的エリート層（この語は第4節俸給生活者の頂で使用した。筆者自身が九十九里の南端出身であり、本校職員の事例、旧任校東金高校4ヶ年の経験より徴して明白である）によって占拠されつつある現象と対照的にみて、いささか奇異の感を抱かざるを得ない。卒直に言えば東京より流入したものは、ただ便宜上千葉市に住まい、千葉市で教育を受け、また東京に就職してゆく実情にある。就職指導にあたってこのような根本的状況の認識は大切である。

卒業生の就職状況についての資料

1. 年次別、業種別配置の状況

年次 業種	S高 24女 年五 3回 月卒	S高 27回 年卒	S高 30回 年卒	S高 33回 年卒	S高 36回 年卒	計
公務員	14	18	24	38	11	105
教員	9	10	11	14	—	44
金融関係	5	11	7	10	42	75
生産会社	3	9	15	14	36	77
商事会社	2	7	16	13	18	56
商業、サ ービス	6	11	11	36	42	106
交通関係	2	3	5	8	4	22
出版、報 道、団	2	3	3	3	0	11
計	43	80	98	141	166	528
卒業総数	193	195	260	311	330	1,289
比率	22%	41%	38%	45%	50%	41%

昭和34年8月編同窓会名簿による

2. 市外進出状況（年次は承前）

年次 業種	S高 24女 年五 3回 月卒	S高 27回 年卒	S高 30回 年卒	S高 33回 年卒	S高 36回 年卒	計
東京都内 市川市 船橋市 習志野市	16 5 10 3	23 5 10 5	8 2 4 8	7 3 6 14	東京 へ通 勤者 63 3 30 30	57 15 30 30
県内 他地域	横芝 小見 川八 日市 場	佐倉 成田 小見 川銚 子	八日 市場 本納 茂原	成田 九十九 里一 宮		13
他県 各地域	福岡 山口 宇部 広島 岡山 上田 鴻巣 横浜 川崎	熊本 横濱 福島 札幌	宮崎 山口 大阪 富山 浦和	大宮 海南 吉原 甲府 八王子		24
進出者計	46	52	30	34	7	
全体の 比率	24%	27%	12%	11%	0.2%	
婚姻者 の （絶対数）	63%	34%				
	61	67	5	0	0	

昭和34年8月編同窓会名簿による

3. 就職者の家の職業（昭和36度13回卒の場合）

学年全 体数	農業な ど	商 業	公務員	会社員	その他
32	67	109	97	23	
就職者 比率	20 63%	44 66%	47 43%	54 56%	13 57%

7. 近代工業地帯の造成とその後にあるもの

これまでの地域分類、構成分析を総合してみるに、千葉市の発祥は宿場町で、回漕問屋の取引・遊興により支えられていたが、鉄道の開通によって、さびれ、かわって設置された官公庁病院の勤務者を相手とする小売商業に転換、続いて軍部が強大なその支えとなり、戦後はその恵まれた地の利から豊富な農産、水産、林産物の取引につながって日々を過ごして来た。東京から一時間以内の国電沿線に、都内からの転入人口の増加が著しく、関係ターミナルの小売商業（特にサラリーマンのオアシスとしての小料理飲食店、食料品、雑貨商）がうるおっているが、これは千葉市発展の本質からはずれている感じであり、大口の高級需要は直接東京を指向しているしまつである。亥鼻城址はあるが、城下町の遺構は形の上にも、市民の心の中にも、全くその影をとどめず、地方都市によくある（よくとも悪くとも地域に立脚した、一貫した筋の通ったもの）特有な性格が存在しないのが現況で、恵まれた自然環境と地の利の上に手離して甘えていた日和見的生活態度のため、一般にお人好しで定見を欠き、地元資本は東京へ吸い上げられて、小売商業、デパート経営、その他企業にも他県人の進出を許している現状にある。

千葉市の工業については、ほとんどこの研究内ではふれなかったが、手工業的な実内工業からやや工場化された食品加工業を中心にして、海岸寄り低地に存するが本校生徒の構成には影響力が弱いので省略してここに至っている。

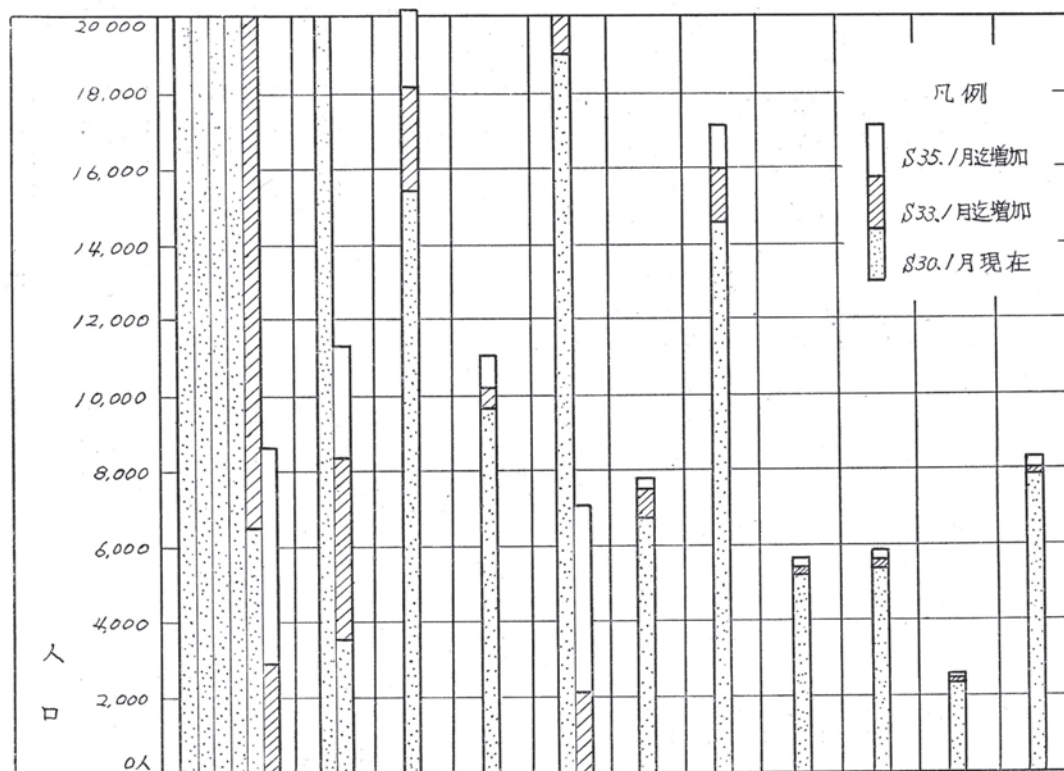
昭和30年10月の国勢調査によると、市内事業所数は鉱業、建設、製造を含め480を数えるが、川崎製鉄を除いて15才以上就労者は9,600人余り、一事業所平均2人強と云う零細ぶりであった。このような立ち遅れの情勢から脱し、工業地帯の造成、企業の誘致を計ろうとする動きは旧日立航空機K.K.の残した蘇我地先の埋立地であり、また自然を決定的なものとしていた従来の工業立地

論から、一歩進んだ地域開発論を足場にして運命の壁を破るに至る。

近代工業地帯造成の企画を練り、一流企業の誘致に成功をみつつある今日、県および市当局者の英断に敬意を表すると共に、千葉市に新しい横顔が加わり、本校生徒パースナリティ形成の因子に異質の何ものかが大きなウエイトをもって影響してくるものと期待する。内湾遠浅の干潟に約3,400万坪の埋立地を設け、道路・鉄道などの附帯工事を含めて計3,200億の投資を計画している京葉工業地帯造成のあかつきには、現在川崎、横浜が工業人口18万で3,960億円の生産を挙げているのに対し、全体の予定従業員数は浦安、市川より、市原、五井出先の地帯4.8万人のみで、ほぼ同額の工業生産を見込む重化学工業中心の超近代的工業地になる。海岸線から沖合4km巾まで埋立可能で、船舶出入のための水路、港を建設しながら浚渫した細泥をポンプで吐出して埋立てる方式は、一石二鳥の仕組みであり、附帯工事を含めて坪あたり1万円前後という安価さと、東京市場への近接性、広く背後に延びる東北、北海道を意識する京葉地域は、政府の意図する所得倍増計画と兼ね合せて、きわめて明るい将来が予想されるし、県下には天然ガス資源と原始産業に培われた余剰労働力と相まって、企業進出の条件が備わっているところから、これら基幹産業に関連する傍系、下請けの中小企業も内陸台地上に進出が予定されている。

これら進出企業の従業員およびその家族を含めた消費人口の増大は、千葉大学教育学部で行なった昭和50年の人口予想で示されたものを引用すると、船橋市54万・習志野市24万・千葉市60万・市原・五井町22万・姉ヶ崎町14万という数字を計上しており、商業地域の発展と並んで住宅地に転用される結果、原始産業部門の消滅吸収が考えられる。本校の通学区、地域構造、保護者の構成分化、生活水準などについて月とスッポンの違い以上、千葉大清水教授のいわゆる原始から原子への転換の時点にあるわけで、これだけの大変化をもたらすものは過去に

市内旧地区別人口増加統計



(市平均人口密度 1,508.1人/km²)

はなかった。(第2次大戦の戦火でさへこれには及ばない)

しかし、川崎製鉄1万の従業員中、本県出身は工員に

ついて4割、事務職員については3割で、年令は20才台が多いということは一応誘致の期待にそっているものようであるが、県出身者の退職率が高いことは何を意味

するのであろうか。川鉄雇用户の8割は市内に居住し地元商店街に消費を落としプラスになってはいるが、本校生徒を通じたアンケート資料で見ると西兩日本よりの移住、あるいは東北出身者が目立っている。

このような事例から見て、我々はまず現象を適確にとらえ、新しい情勢に対処して着実な前進を行わなければならない。固定資産税収入と商業利潤の追求に終始する受動的、姑息な考え方では前途が計り知れている。地元資本による地元企業の確立を望みたいが、やむを得なければ中堅リーダー層を目指して努力しなければならない。

このような意味で、本校の将来、本校生徒のパーソナリティ形成の過程に研究の必要を痛感し、基礎的解明の上に次元の高い指導が展開されるよう期待をもって筆を擱く。

○ あ と が き

永年勤続された先生や、他高校を転任された先生方ならば気付いておられることであるが、概して個々の生徒の性格や環境についてのケース・ワークは目に留るが、それらの総合である学校のパーソナリティについてはあまり類例を見ない。それから就職指導の実際にふれるにつれ、生活指導、学習指導の背後にある人間形成の基礎について資料を整え分析して解明しようと心がけるようになった。主になる材料は昭和35年暮に収集、年が明けてから集計、統計分析にのり出し、その後3月頃から草稿を綴り始めたわけである。途中いろいろな目途やテーマの変更があり、そのたびに想を新たに改めなければならない。学術的な固い表現にするか、一般的啓蒙用に役立てるか、読まれるとすればその対象は生徒かあるいはより高い層にするか、たまたま創立20周年にあたり、記念誌を発行するので寄稿をするとしたならば……ともかく本務、雑務の間にとぎれがちの余暇と思索を無理につなぎとめながらようやく脱稿、連日32℃を越える猛暑にうだって浄書を完成した。

一応筆を擱いて再読すると、自らの浅学と眼高手低の嘆をかきたざるを得ないが、本研究はあくまで主題についての序論であり、地域的背景の分析にとどめ、より多くの時間と緻密な考察のもとに本論が展開されてゆくのを期待する次第である。

末筆ながら、研究について指導・激励をいただいた各位、貴重な誌面の提供を承諾された編集者、ならびにデータの提供、整理集計に幾多の生徒諸君に労を煩わせたこと等、深く感謝する次第である。

(本校教諭・地理担当)

参考にした文献

- | | |
|---------------------------------------|------------|
| 木内信蔵著 | 都市地理学研究 |
| 南博著 | 社会心理学 |
| 山下俊郎著 | 教育環境学 |
| (この三著によりテーマを得、分析の方途を定めた) | |
| 市誌編集委員会 | 千葉市誌 |
| 千葉市役所 | 市勢要覧(累年) |
| 菊地利次著 | 千葉市のむかしと今 |
| 〃 | 房総半島 |
| 県カリキュラム委員会 | 社会科単元展開資料集 |
| (これらによって、地域区分、問題点、動向などについて啓示を受けた。) | |
| 週刊朝日所載 | 日本拝見 |
| (花森安治氏担当……千葉) | |
| 千葉県庁 | 京葉工業地帯 |
| その他人文地理関係論文 | |
| (特に第7節まとめについての方向づけは、これらの通読により確信が生まれた) | |

○ 努力目標の設定とその達成

つねに、理想的なあり方を探求し、師弟ともに考え、ともに語りあって、学校全体および個人としての努力目標をさだめ、その達成にはげみ、日々の向上進展をはかってゆく。

○ 学校全体の共通的努力目標

1 自律節制

自らの生活において、また人間関係、特に新旧世代相互、労資相互、国家相互の間において、相互の自律節制ということがなければ、人類の願いである平和と幸福は、永遠に期待できないであろう。

2 研究創造

原子力時代、第二次産業革命時代といわれる日進月歩の時代であるから、あくなき科学的探究心と、積極的創造性は、何人にも強く要望されるべきところである。

3 親切奉仕

道義心を忘却してしまったような今日ではあるが、明日の歴史を作るという若人の使命を自覚し、日常生活の上において、善意にもとづく親切奉仕を進んで実践する実行人でありたいものである。

○ 標 語

花一輪さしてはぐくめよき校風

花一輪のヒューマンイズムを実行して、よき校風、よき家風、よき社会の建設に、切れ目なき精進を続けてゆきたい。われわれは一人では何事もできない。しかし、一人から、しかも小さいことから、始めなければならないことを知るべきである。

目 次

記 念 の 言 葉……………校 長…	1
お 祝 い の 言 葉……………教育長・知 事 市長・PTA会 長・同窓会長他	2
思 い 出……………旧職員・同窓生…	5
沿 革 概 要……………	15
職 員 一 覧……………	17
同窓会のあゆみ……………	18
生徒会のあゆみ……………	19
クラブ活動のあゆみ……………	20
進 路 状 況……………	29
本校生徒のパーソナリティ…木島 与左衛門…	30
編 集 後 記……………	42

表紙 浮 田 信 行

編 集 後 記

▲記念誌を発行することに決めたのが6月初旬、原稿依頼・資料取捨にかかったのが6月下旬、元来資料不足のところを、印刷完了まで3ヶ月の短期間なので、不備の点が多々あらうと思うがお許しを乞う。記載事項の誤り、未発表の資料等あれば御連絡御教示願いたい。

▲御多忙中にもかかわらず原稿を御送付下さった方々には厚く御礼を申し上げる次第である。

▲仕事の分担については、「沿革・職員一覧」は久保木、「同窓会・生徒会のあゆみ」は山崎、「クラブ活動のあゆみ」は各顧問提出の原稿を曾根が整理、企画編集は千田が担当した。

▲表紙・扉は浮田(昭33卒)、写真関係は横田・竹内・井戸川(昭34卒)の諸君が熱心に協力してくれた。感謝にたえない。

▲特別寄稿として木島氏の労作「本校生徒のパーソナリティ」を掲載した。本校発展のための基礎資料になると思う。

▲初期の沿革の確認・写真の提供等おもに安塚氏の協力を得た。「進路状況」は指導部に依頼した。また、古い先生方から貴重なお話をうかがったが、紙数の都合で掲載出来なかった。別の機会にゆずりたい。

▲原稿整理のため卒業生・在校生数名の協力を得た。また、誠文社々長若月氏には多忙にもかかわらず無理な注文をきいてもらった。ここに感謝の微意を表する次第である。(千田)

創立20周年記念誌

昭和36年8月25日 印 刷

昭和36年9月1日 発 行

発 行 所 千葉県立千葉東高等学校
代 表 石 毛 貞 雄
千 葉 市 轟 町 3 番 地
電 千 葉 (2) 局 0 4 2 8
3 2 7 9

編 集 者 千 田 恭 一
印 刷 所 誠 文 社
東 京 都 豊 島 区 椎 名 町 7 の 3876
電 落 合 鋼 0 5 7 4